

塔の腰遺跡

発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター



6-1997-1710-01

1997
1710
6

1997

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

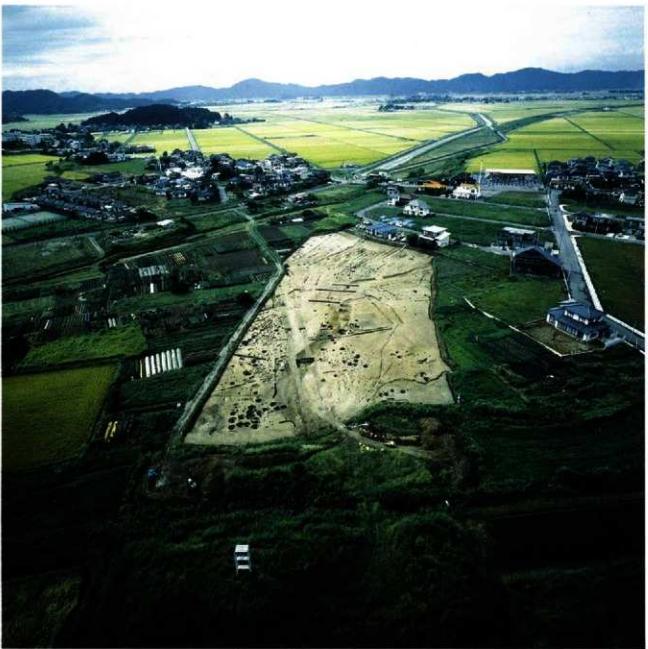
とう こし
塔 の 腰 遺 跡
発掘調査報告書

平成9年10月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



1997 - 1710



調査区全景(東上空より)





輸入磁器

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、塔の腰遺跡の調査成果をまとめたものです。

塔の腰遺跡は山形県の北西部、鶴岡市に位置しています。鶴岡市は、日本有数の稻作地帯庄内平野の南西端にあり、西は日本海に面しています。古代から北陸方面や北方からの人の動きが認められる地です。近年鶴岡市は、交通網・情報網の整備を進め、山形県の日本海側の中心都市として発展を続けています。

この度、東北横断自動車道酒田線の建設工事に伴い、工事に先立って塔の腰遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、平安時代および中世の人々が生活を営んだ跡を確認することができました。鎌倉時代には、井戸や溝を持つ屋敷跡が道路に面してあったことがわかりました。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んで来た貴重な国民的遺産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの貴重な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成9年10月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場 清耕

例　　言

- 1 本書は東北横断自動車道酒田線建設工事（朝日～酒田間）に係る「塔の腰遺跡」緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成6年度に日本道路公団仙台建設局（現東北支社）の委託により、財團法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

遺跡名	塔の腰遺跡（A T O T K）	遺跡番号	昭和63年度新規登録
所在地	山形県鶴岡市大字井岡字塔の腰		
調査主体	財團法人山形県埋蔵文化財センター		
調査期間	発掘調査 平成6年4月1日～平成7年3月31日		
	現地調査 平成6年5月9日～平成6年9月14日		
	資料整理 平成7年4月1日～平成9年6月30日		
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、日本道路公団仙台建設局（現東北支社）鶴岡工事事務所、鶴岡市教育委員会、山形県教育厅文化部課、庄内教育事務所の協力を得た。また、資料整理にあたっては、秋保良氏、及川司氏、大澤栄輔氏、飯村均氏、木戸口俊子氏、斎木秀雄氏、菅原計二氏、鈴木江利子氏、瀬田哲夫氏、高橋博志氏、田中靖氏、本澤慎輔氏、眞壁建氏、松本建連氏、水澤幸一氏、八重畠忠郎氏、山口博之氏にご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成は、須賀井新人・水戸弘美・佐竹桂一が担当し、本文執筆は水戸弘美が担当した。編集は丸山晶子・森谷昌央が担当し、全体について佐藤庄一が監修した。
- 6 委託業務は下記の通りである。

遺構の写真測量・実測	株式会社シン技術コンサル
資料の理科学分析	パリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 出土遺物・調査記録類については、財團法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りである。

S E …井戸跡	S B …掘立柱建物跡	S D …溝跡・溝状遺構・散状遺構
S K …土坑	S P …柱穴・ビット	S G …川跡
R P …登録土器・土製品	R Q …登録石製品	R W …登録木製品
P …土器	S …石	W …木
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記の通りである。
 - (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸は、N-44°20' -Wを測る。
 - (3) 遺構実測図は1/60-1/600他の縮尺で採録し、各攝影毎スケールを付した。
 - (4) 遺物実測図・拓影図は、原則的に1/3（井戸部材は1/10、木製品は1/6）で採録し、おのおのスケールを付した。なお、実測図中のスクリーンーンは焼化物付着・黒色処理・使用痕（石鉢）を、黒ベタは須賀井を表す。拓影図は原則的に断面図の左に外面、右に内面を提示している。摺鉢等に例外がある。
 - (5) 遺物観察表中の計測値欄の（ ）数値は図上復元による復元値を示す。出土地点欄の「G」はグリッドを示す。層位では「F」は遺構覆土出土、「Y」は遺構底面出土を各示す。計測値の「口」は口径、「底」は底径、「高」は器高、「高台」は高台径を示す。胎土の細繩は1mm未満、小繩は1～3mm、中繩は3～5mmを示す。
 - (6) 遺物図版については、原則的に遺物実測図と同じ縮尺で採録している。
 - (7) 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とともに共通したものである。遺構攝図中に図示している遺物も同様である。図版等で示す○一△は第○図△番を示す。図版中、遺物番号の無いものは、出土地点で示している。
 - (8) 遺構覆土の色調・遺物観察表の色調の記載については、1987年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に掲載した。
 - (9) 遺構覆土の中で共通する層について便宜的にアルファベットで表示している。内容は下記の通りである。

A層	2.5Y2/1黒色砂質シルト
B層	2.5Y4/1黄灰色砂質シルト
C層	2.5Y4/4明褐色細砂
D層	7.5YR4/6粘土質シルト
E層	2.5Y5/3黄褐色砂質シルト
F層	2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂

目 次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
II 遺跡の概観	4
1 遺跡の立地と環境	4
2 基本層序	6
3 遺構の分布	6
III 検出された遺構	7
1 平安時代	7
2 中世	7
IV 出土した遺物	39
1 平安時代	39
2 中世	40
V まとめ	81

報告書抄録

付編	巻末
「塔の腰遺跡 自然科学分析」	

表

表1 井戸跡観察表	8
表2 土坑観察表	14
表3 溝跡観察表	15
表4 屋敷区画観察表	15
表5 遺物観察表	58
表6 井戸部材観察表	78
表7 銀倉時代遺物組成	80

挿 図

第1図 調査概要図	2	第33図 遺物実測図(5)	45
第2図 地籍図	3	第34図 遺物実測図(6)	46
第3図 遺跡位置図	5	第35図 遺物実測図(7)	47
第4図 基本層序概要図	6	第36図 遺物実測図(8)	48
第5図 遺構配置図	11	第37図 遺物実測図(9)	49
第6図 遺構実測図(1)	16	第38図 遺物実測図(10)	50
第7図 遺構実測図(2)	17	第39図 遺物実測図(11)	51
第8図 遺構実測図(3)	18	第40図 遺物実測図(12)	52
第9図 遺構実測図(4)	19	第41図 遺物実測図(13)	53
第10図 遺構実測図(5)	20	第42図 遺物実測図(14)	54
第11図 遺構実測図(6)	21	第43図 遺物実測図(15)	55
第12図 遺構実測図(7)	22	第44図 遺物実測図(16)	56
第13図 遺構実測図(8)	23	第45図 遺物実測図(17)	57
第14図 遺構実測図(9)	24	第46図 遺物実測図(18)	68
第15図 遺構実測図(10)	25	第47図 遺物実測図(19)	69
第16図 遺構実測図(11)	26	第48図 遺物実測図(20)	70
第17図 遺構実測図(12)	27	第49図 遺物実測図(21)	71
第18図 遺構実測図(13)	28	第50図 遺物実測図(22)	72
第19図 遺構実測図(14)	29	第51図 遺物実測図(23)	73
第20図 遺構実測図(15)	30	第52図 遺物実測図(24)	74
第21図 遺構実測図(16)	31	第53図 遺物実測図(25)	75
第22図 遺構実測図(17)	32	第54図 遺物実測図(26)	76
第23図 遺構実測図(18)	33	第55図 遺物実測図(27)	77
第24図 遺構実測図(19)	34	第56図 平安時代遺物出土地点集計図	84
第25図 遺構実測図(20)	35	第57図 中世陶器出土地点集計図	85
第26図 遺構実測図(21)	36	第58図 土師質土器・磁器出土分布図	86
第27図 遺構実測図(22)	37	第59図 輸入磁器集成	87
第28図 遺構実測図(23)	38	第60図 土師質土器集成	88
第29図 遺物実測図(1)	41	第61図 周辺の遺跡出土土師質土器	89
第30図 遺物実測図(2)	42	第62図 土師質土器出土遺跡	90
第31図 遺物実測図(3)	43		
第32図 遺物実測図(4)	44		

図 版

巻頭図版 1 調査区全景(空中写真)	図版26 出土遺物(1)
巻頭図版 2 輸入磁器	図版27 出土遺物(2)
図版 1 遺跡遺景・調査区全景	図版28 出土遺物(3)
図版 2 調査風景	図版29 出土遺物(4)
図版 3 プラン検出・調査区全景	図版30 出土遺物(5)
図版 4 平安時代の遺構	図版31 出土遺物(6)
図版 5 平安時代の遺構	図版32 出土遺物(7)
図版 6 S B 1 挖立柱建物跡	図版33 出土遺物(8)
図版 7 S B 1 挖立柱建物跡	図版34 出土遺物(9)
図版 8 S B 1 挖立柱建物跡	図版35 出土遺物(10)
図版 9 S B 1 挖立柱建物跡、S D411・S X363	図版36 出土遺物(11)
図版10 S D101・102・408・446・447	図版37 出土遺物(12)
図版11 S D106・107、S E34・301	図版38 出土遺物(13)
図版12 S E302・303・323・520	図版39 出土遺物(14)
図版13 S E304・360・309・314	図版40 出土遺物(15)
図版14 S E350、S K21・23・25・158・159	図版41 出土遺物(16)
図版15 S K27・32・33・37・39・44	図版42 出土遺物(17)
図版16 S K41・45・48・49・50・76・77・88・140	図版43 出土遺物(18)
図版17 S K36・78・47・56・57・58	図版44 出土遺物(19)
図版18 S K54・55・60・61・62・63・69・70	図版45 出土遺物(20)
図版19 S K66・67・68・71・72・73	図版46 出土遺物(21)
図版20 S K74・75・87・305・308・310・311	図版47 出土遺物(22)
図版21 S K324・334・336・337・339・341・342・344	図版48 出土遺物(23)
図版22 S K352、S D483・484・465・478・370	図版49 出土遺物(24)
図版23 屋敷の区画、土坑・井戸の集中	図版50 出土遺物(25)
図版24 塔の腰遺跡の周辺	図版51 出土遺物(26)
図版25 塔の腰遺跡の周辺	

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

鶴岡市南西部の塔の腰遺跡周辺では、昭和30年代前半に水田の盤下げや暗渠管理設等の排水工事が行われている。その際、土器等の遺物が発見され、遺跡の存在が知られていた。昭和62年度から県営は場整備事業(鶴岡西部地区)が実施され、これに伴う周辺の遺跡の緊急発掘調査が行われている。

この地域を含む鶴岡市南西部に、東北横断自動車道酒田線建設が計画された。これを受けて、山形県教育委員会では、昭和63年度、計画路線に沿って表面踏査を実施した。塔の腰遺跡は、この確認調査で新規登録された遺跡のひとつである。やや小高い畠地を中心に、東西290m、南北230mの範囲が遺跡と考えられている。平成4年12月に、遺跡の内容を把握するための試掘調査が行われている。工事予定地区内に、試掘坑46ヶ所を設定して調査した結果、平安時代から鎌倉時代の集落跡と推定された。その結果をもとに、遺跡の取り扱いについて事業主体の日本道路公団と協議を重ね、記録保存を目的とした緊急発掘調査に対応することとなった。

平成6年度に日本道路公团仙台建設局(現東北支社)の委託を受け、財団法人山形県埋蔵文化財センターが調査主体となり現地調査が行われた。

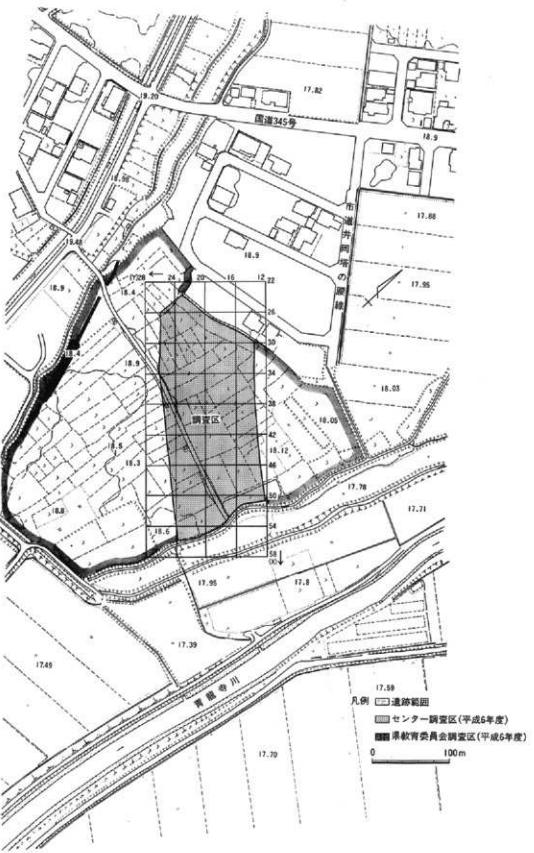
2 調査の経過

現地での調査は、平成6年5月9日から平成6年9月14日までの実働37日間行った。調査の対象面積は、9,200m²である。

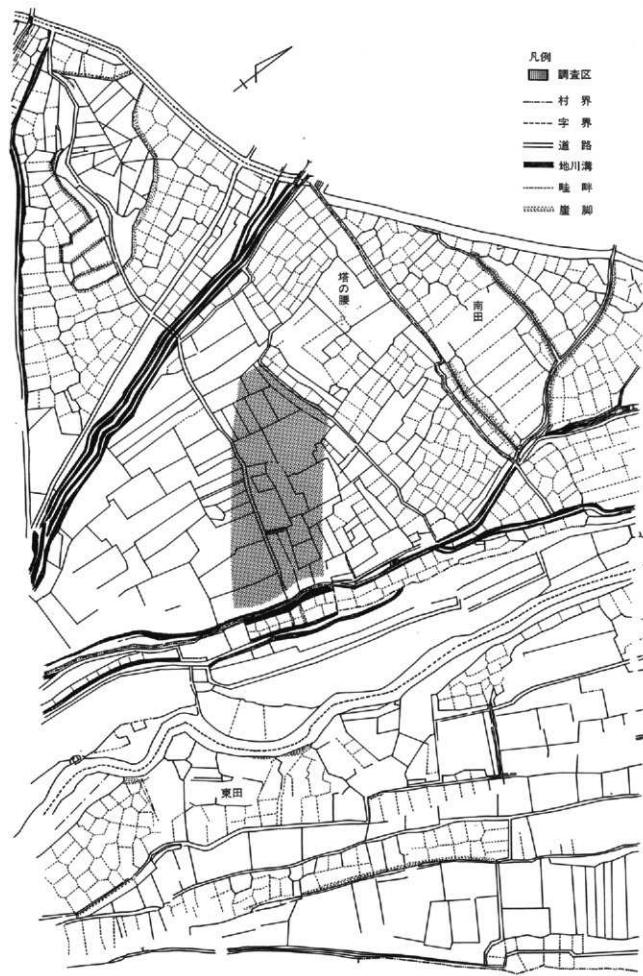
調査の開始にあたり、東北横断自動車道酒田線(朝日～酒田間)建設工事の道路幅中心杭STA123+20とSTA123+40を基準として、5×5mを単位とするグリッドを設定した。グリッドの南北軸(実際は南東北西軸)は滋北から西に44°20'傾く。STA123+20を30-20Gとし、南北軸(X軸)は北から南に、東西軸(Y軸)は西から東に、アラビア数字による番号を割り当てた。調査は、重機による表土除去・面整理・遺構検出・遺構精査・記録という工程で進められた。なお、調査区内の農道の付け替え部分について、先行して調査を行った。

現地調査の主な進行状況は、下記の通りである。

- 5月9日 機材搬入 環境整備 調査区設定
- 5月10日 敷入れ式(塔の腰遺跡の調査区にて後田・大道下遺跡調査担当者と合同で実施)
- 5月12日 表土除去開始(～5月26日) 面整理開始(～6月13日)
- 6月14日 遺構精査開始(～9月13日)
- 7月14日 農道付け替え(～7月15日)
- 9月7日 現地説明会(参加90名)
- 9月8日 空中写真測量撮影
- 9月14日 機材搬出 環境整備



第1図 調査概要図 (S=1:2500)



II 遺跡の概観

1 遺跡の立地と環境

塔の腰遺跡は、山形県鶴岡市大字井岡字塔の腰に所在する。鶴岡市街地の中心部から南西約2kmに位置している。遺跡周辺も宅地化が進み、東から北側は水田を縫うように市街地が広がっている。遺跡は、水田に囲まれた畠地に広がる。出羽山地に源を発する青龍寺川の自然堤防上にあり、標高約18mを測る。

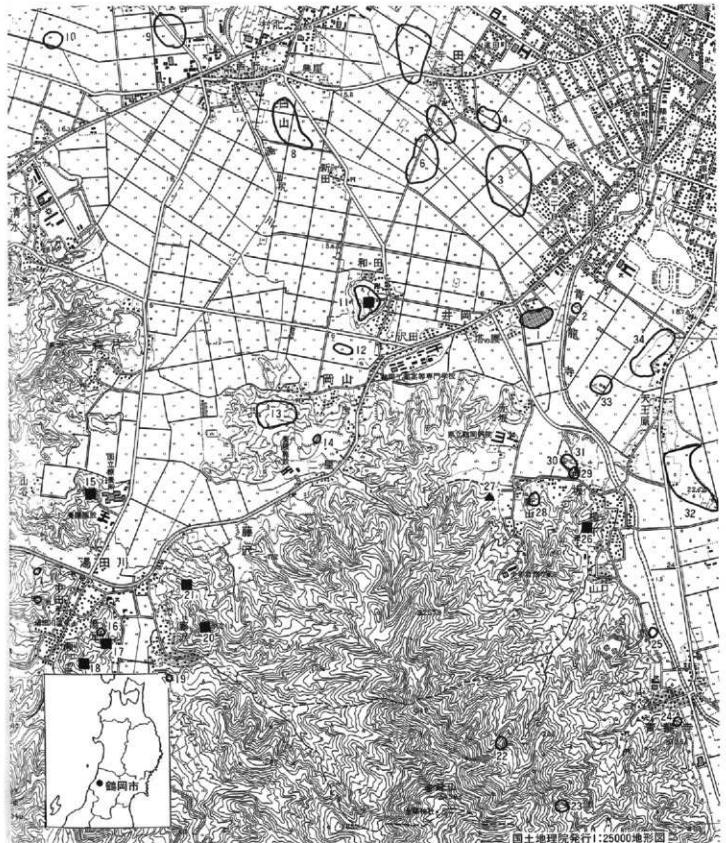
山形県の北西部に所在する庄内平野は、南北約50km東西約11km、約530km²の面積を有する。西は、日本海に面し、海岸沿いに庄内砂丘が伸びる。東の出羽山地によって内陸地方と区別され、北は秋田県、南は新潟県と接している。最上川をはじめとする河川が、東から西に平野を貫流し、三角州を形成し沖積地が成立している。現在は、水田が平野の90%を占める国内有数の稻作地帯となっている。その庄内平野の南端に鶴岡市塔の腰遺跡は位置する。塔の腰遺跡の西方、田川・湯田川地区から、新潟県側に抜ける古代の陸路が推定されている。また、塔の腰遺跡の西北大山地区の海岸には入江の地形が見られ、さらに北には武藤氏の外港と言われる加茂港がある。

塔の腰遺跡の南側丘陵には、岡山遺跡をはじめとする縄文時代の集落跡が確認されている。現在水田として利用されている平地には、古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代の遺跡が多數確認されている。

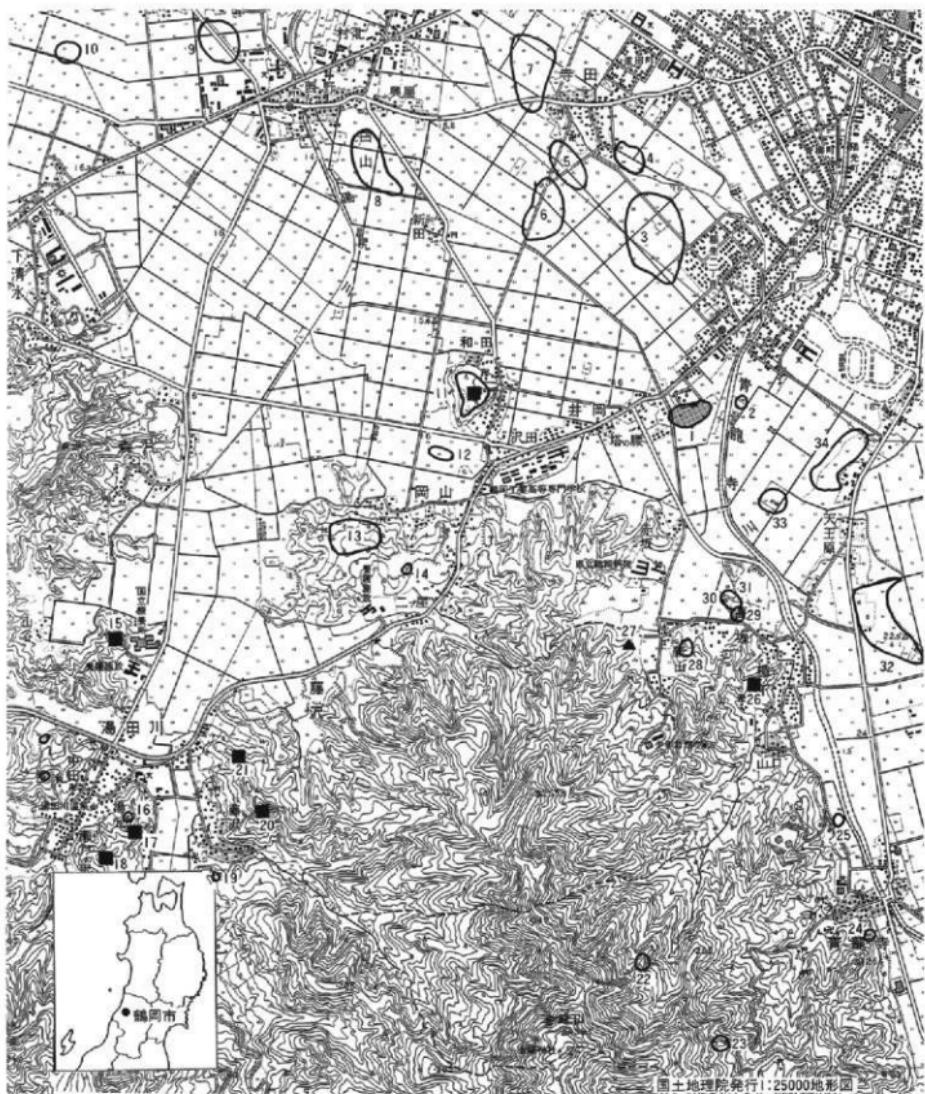
平成5年度には、北陸地方の強い影響がみられる古墳時代前期の集落跡が、鶴岡市畠田遺跡で調査された。また、鶴岡市教育委員会が調査を進められている山田遺跡からは、北大式の土器が出土し、北からの人の動きも認められる。6世紀に入るごとに助作遺跡・矢塚A遺跡・後田遺跡等の集落が営まれ、古墳時代の遺跡の多いことでは、庄内平野の他地域では見られない特殊性を示す。これらの状況と地理的条件は、次の出羽守郡の動きの中でも重要な意味を持つ地域であったことを推定させる。平成5～7年度に調査された西谷地遺跡では、奈良時代の良好な資料と平安時代前半の官衙の様相を示す集落が確認されている。

鎌倉時代に入ると塔の腰遺跡周辺は、武藤氏が地盤を務める大泉荘となる。この地域の史料はほとんど残されていないが、近年の発掘調査によって中世の様相が少しずつ明らかになっている。先述の西谷地遺跡では、塔の腰遺跡とほぼ同時期の13・14世紀の集落が、土師質土器・青磁を伴って検出されている。塔の腰遺跡の北西約1kmに位置する後田遺跡・月記遺跡では川跡から笠塔婆が出土し、鎌倉時代の供養の在り方を示している。中世城館についても調査が進められ、多數確認されている。その殆どは越後に抜ける街道沿いに集中している。城館の営まれた時期の、街道の持つ意味をよく物語っている。

山形県・新潟県の境には金峰山・母持山・摩耶山が位置する。塔の腰遺跡の南を取り巻くように鎮座している。時には北方鎮護の山神として、地域の農耕神・水神・航海安全の神として、人々の信仰の対象となっている(文献22)。三山は、庄内平野の南玄関口であったこの地域の歴史を見守ってきたものと思われる。



第3図 遺跡位置図



1塔の腰 2番田 3池ノ内 4大東 5月記 6後田 7大道下 8開地田 9助作 10矢聴B 11井岡城 12井岡 13岡山A
 14岡山B 15鉢巻山館 16人山墳墓 17高野山館 18かき山館 19遊行上人墳墓 20藤沢館 21鍋倉A・鍋倉B館 22金峯B
 23小杉ヶ沢 24山の内 25北内 26高坂館 27仏供沢窟 28杉ヶ沢D 29杉ヶ沢C 30杉ヶ沢A 31杉ヶ沢B 32天王原 33三ヶ水口
 34鳥居上

第3図 遺跡位置図

2 基本層序

塔の腰遺跡の基本層序は、下記の I から V で示すことができる。

I 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト

II 10YR3/3暗褐色砂質シルト

III 5Y6/2灰オリーブ色シルト (10YR4/6褐色シルト混入) 地山1

IV 2.5Y4/2暗灰褐色粘土質シルト (一部褐色の変化がみられる) 地山2

V 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂 地山3

I 層は耕作土・客土、II～V 層は安定した堆積層である。遺構の検出面は II 層下部である。地山と判断される III～V 層は、便宜的に各地山 1～3 と呼び、土層注記の中で記している。土層断面図では、地山 1 を縱縞、地山 2 を細砂目、地山 3 を粗砂目のスクリントーンで示している(第4図)。調査区の概ねは、地山 1 を掘り込むかたちで遺構が検出されている。粘性の強い地山 2 は、地山 1 を約 50cm 以上掘り込む遺構 (SK74-310 等) の壁に認められる。調査区中央を、東西に縱走するように砂層の堆積が認められた。河川跡と考えられるが、これを掘り込む遺構が存在することや河川跡覆土に遺物を含まないことから集落形成以前のものと判断される。河川跡覆土とはほん同質の地山 3 が調査区の東側で地山 1・2 の下層や遺構検出面に吹き出した状態で見られる。河川跡が何度も流路を変えながら、粘土～砂層を堆積させて行ったものと推定される。江戸時代に改修された青龍寺川が調査区の東を西流しており、河川跡はその支流と思われる。

遺構の検出面は、標高 17.60m～18.20m を測り南東側が小高くなっている。

3 遺構の分布

遺構は、調査区のほぼ全域で確認できる。

最も遺構が集中する地区は、検出面の高い南東側である。

堅くしまった地山 1 が認められる地区である。

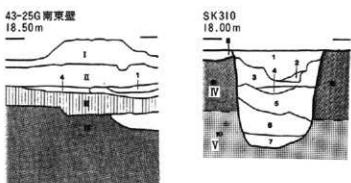
塔の腰遺跡の遺構要素である、井戸・土坑・柱穴・溝

が重複して認められる。平安時代の遺物もこの地区に集中すること

(第36図) から、平安時代・中世と利用されていたことが分かる。調

査区外である南東側に遺構の集中地域が広がることが予想される。

今回の調査では、單一面の検出面に止まっている。基本層序の観察から、検出面下層の生活面は存在しないと判断される。一方、地山 3 を掘り込む遺構が、調査区中央付近に集中し、整地が広い範囲で行われていたことが推定される。断面での遺構の分布を、今回の調査では確認することができなかった。



第4図 基本層序概要図(S=1:10)

III 検出された遺構

検出された遺構は、掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・土坑・柱穴・畝状遺構・河川跡等である。

遺構の詳細な記述は観察表に譲り、以下時期ごとに概要を述べる。

1 平安時代

平安時代の遺構は、中世以降に破壊されている。また、平安時代の遺物は廃棄した状態で大量に出土している。その集中地点を見ると、44～50-21～25G、33～35-18～20G、29～16・17G の 3 地区があることが分かる。平安時代の遺構はおおよそこの地区に密集してあったものと理解される。

明瞭に検出されたのは、SK175・316～318・623 土坑と調査区北西半の畝状遺構等である。SK316～318 は、調査区北側の、遺構が希薄なところで検出されている。直径約 1.5～2.0m の不整形を呈し、SK317・318 は深さ約 15cm と浅い。SK316 は深さ 118cm を測り、床面がロート状に落ち込む。深さ 20～40cm のところに堆積する覆土 4～6 層に火山灰が流れ込むように認められ、その下層に黒色砂質シルトが帶状に堆積する。SK175・623 は長軸約 100cm、短軸約 60cm の梢円形を呈する。確認面からの深さは SK175 が 20cm、SK623 が 30cm を測る。覆土はともに単層で、今回の調査の中では既存遺構のよい遺物が含まれている。

27-33-16-23G に、畝状遺構が確認される。各畝のプランを明確に検出することが難しく、雨上がりにラインとして把握するという状況であった。深さは 10～20cm を測り、床面は凸凹がある。SD378・388 等の覆土にレンズ状・ブロック状に堆積する火山灰が認められる。火山灰は堆積状況が少量であり一様でないため、流れ込みと判断したい。火山灰同定の自然科学研究の結果は「十和田 a テフラ」由来する。T o-a は、A.D. 915 年に十和田カルデラ、東北地方一帯で認められている。歌の主題はおおよそ N-25°-W を測る。この傾きが、平安時代の軸線であると理解される。42-45-23・24G にも、この軸線と等しい浅い溝が認められ、畝状遺構の広がりが推定される。遺物の出土状況から、平安時代の建物も存在したと考えられるが、今回の調査では確認することができなかった。

2 中世

鎌倉時代の遺構として確認できたものは、掘立柱建物跡 1 棟、井戸跡 (井戸枠が依存し確認できたもの) 11 基、溝跡、土坑、柱穴等である。以下種別に概要を述べる。

掘立柱建物跡

S B 1 掘立柱建物跡 (第9図)

位置 調査区中央北側 36～39-14～17G

平面形 変則的な L 字形

規模 長軸 4 間 (18m) × 短軸 3 間 (12m) の母屋に、間尺を異にする 2 間 (8m) × 2 間 (8m)、東側一部 3 間の変則的な張り出しを有する。

柱間は母屋長軸15尺、短軸14尺(南面廊部は12尺)、張り出しあは母屋の軸に等しい尺を測る(東面廊部は12尺)。換算尺は唐尺で計算している。	
面積 母屋216m ² 張り出し78m ² 総面積296m ²	
長軸方向 N-85°-W	
掘り方 直径 40cm~100cm 深さ10cm~40cm	
廻 母屋南面と張り出しあ東面に可能性あり	
構造ほか 縦柱建物跡 長軸が4間と間尺・軸線ともに通るため、S P 804・674を母屋の柱と考え、北に張り出しが伸びると判断した。しかし、S P 577に重複が認められ、張り出しあ部分が3間×2間の別棟である可能性が残る。	

井戸跡

塔の腰遺跡では素掘り井戸と木組井戸が検出されている。ここでは、井戸部材の遺存が認められるものについて説明する。素掘り井戸については、判然としない部分があるため、土坑の項目で分類し、改めて識別を図りたい。井側の遺存しているものは少なく、埋土からラインを追うことができる。浄水施設である井筒の遺存するものは少ないが、当初から存在しないものか不明である。構造が把握できるのは、S E 301・314・323等である。当遺跡では井戸の内側に角材で襤を組んだ木組方形縦板組横桟型が主流であったと思われる。各井戸跡について以下に示す。

表1 井戸跡観察表

遺構	S E 34	S E 301
挿図	第12図	第12図
位置	46°47'23"-24G	25-23G
構造	木組方形縦板組横桟型	木組方形縦板組横桟型
掘り方評定	円形	隅丸方形
規模	直径約280cm 深さ170cm	長軸150cm短軸120cm深さ140cm
遺物	井側内覆土珠洲(36-9+10)	井側内覆土珠洲(39-1) 曲物(39-2)
備考	人為的埋土	隅柱遺存 人為的埋土
	S D 138→S E 34→S K 79	

遺構	S E 302	S E 303
挿図	第12図	第12図
位置	26-24°25G	29-25G
構造	不明	木組方形縦板組横桟型?
掘り方評定	隅丸方形	梢円形
規模	一辺約130cm 深さ約120cm	長径軸240cm短径210cm深さ120cm
遺物		井筒内覆土曲物(39-3)
備考	井筒遺存 人為的埋土	井筒・縦板一部遺存

遺構	S E 304	S E 309
挿図	第13図	第13図
位置	29-24G	33-24G
構造	木組方形縦板組横桟型	木組方形縦板組横桟型
掘り方評定	隅丸方形	梢円形
規模	一辺約100cm 深さ約140cm	長径軸160cm短径130cm深さ150cm
遺物	井側底面珠洲(39-6)	井筒底面曲物(39-16)
備考	曲物(39-5)	覆土珠洲(39-9~15)
	人為的埋土 壁に象痕	井筒・縦板一部遺存
	S D 374→S E 304	

遺構	S E 314	S E 323
挿図	第13図	第9°14図
位置	35-19°20G	37°38'-14°15G
構造	木組方形縦板組横桟型	木組方形縦板組横桟型
掘り方評定	梢円形	梢円形
規模	長径軸150cm短径110cm深さ160cm	長径軸250cm短径200cm深さ190cm
遺物	井側底面珠洲(39-6)	井側内覆土柄杓(38-15)曲物(38-16)木製品
備考	曲物(39-5)	木製品(38-17)珠洲(38-12~14) 横棟2段遺存

遺構	S E 350	S E 360
挿図	第13図	第13図
位置	48-17G	50-14G
構造	木組方形縦板組横桟型	木組方形縦板組横桟型?
掘り方評定	梢円形	円形
規模	長径軸160cm短径140cm深さ180cm	径150cm深さ109cm
遺物	覆土珠洲(40-18)箸(40-17)	覆土珠洲(40-26) 青磁(40-27) 曲物(40-28)
備考	井筒・横棟2段遺存	横棟一部遺存 人為的埋土崩落により詳細不明

遺構	S E 520
捕図	第14図
位置	44・45-18・19G
構造	不明
掘り方平彫	不整梢円形
規模	長径軸330cm短径220cm深さ150cm
遺物	覆土珠洲(43-3) 壺器系陶器(43-2) 白磁(43-1)
備考	縦板一部遺存 人為的埋土 S E 520→S K519 S E 520→S K554

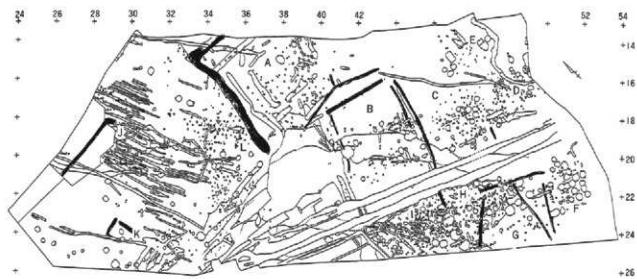
土坑

多数検出され、塔の腰遺跡を特徴付ける要素のひとつである。以下の内容で分類を行う。

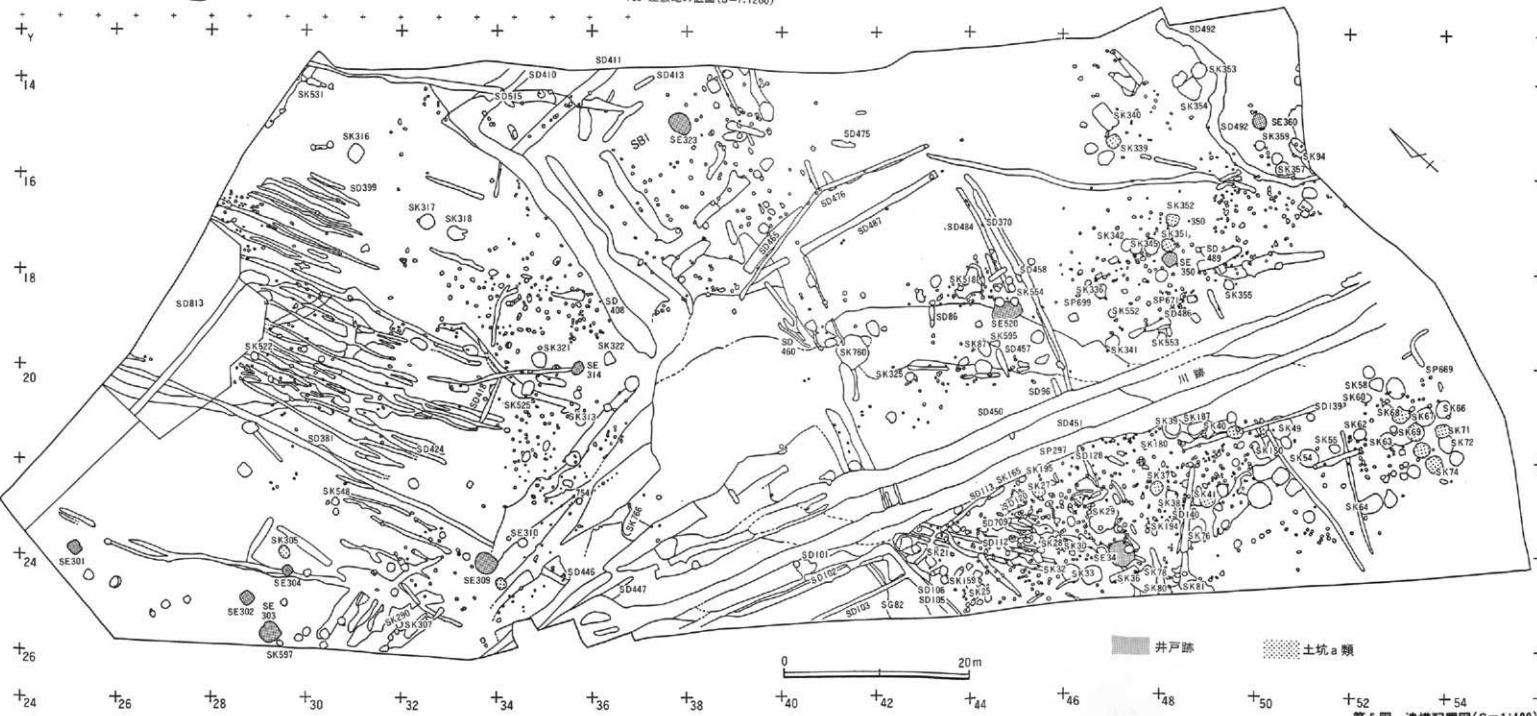
	基本平面形	平面規模cm	確認面からの深さcm	壁面	その他	用途
a類	円形・梢円形	径130~200	120~	急	円筒状	井戸
b類	円形・梢円形	径130~200	100~120	急	ロート状	井戸?
c類	円形・梢円形	径100前後	100前後	急		井戸?
d類	円形・梢円形	径200~	~50	緩		
e類	方形	一辺60~270	10~40.	急		
f類	上記の分類に入らないもの					

以下、各類についての補足を行い、各土坑については観察表に譲る。

- a類 S K68・71・73・305・308等がある。底面の形状が平坦であること、滲水層に達しているものが多いことから、素掘りの井戸である可能性が高い。掘り方が円筒形を呈し、上面にかけて緩やかに広がる特徴がある。
- b類 S K58・60・67等がある。確認面での観察では、井戸跡や土坑a類と等しいが精査を進めるにロート状となる。壁面の酸化鉄の付着が著しい。a類の周辺に認められる。a類・b類共に、覆土堆積状況は人為的埋土と観察される。S K63・71等に柱穴状の堆積痕が残るものがあり注目される。埋め戻し時の祭祀行為の可能性がある。
- c類 S K45・55・310・344等がある。覆土状況は、自然埋土と人為的埋土がある。S K342は埋め戻し後の、集石がある。墨敷の区画内に点在し用途も多様と考えられる。a類を小型化し、円筒状を呈するものもあり、井戸跡の可能性を残す。
- d類 S K39・49・54・339等がある。整った円形を呈するものが多い。覆土の堆積状況は、細かい分層が可能で、A層が帶状に堆積する特徴を持つ。用途は不明である。
- e類 S K21・22・24・25等の小型のものと、S K36・64等の大型のものがある。大型と小型では性格が異なると思われるが、方形を呈する遺構が少ないため同類とした。小型のものは、43・44-23・24Gに集中する。覆土の堆積状況は、人為的埋土である。
- f類 a~e類に分類できないものをまとめてある。S K32・33のように円筒形を呈し約1mの深さを測るもの、S K77のように不整形のもの、S K87・89のように砂層を掘り込み壁



A-L +26 豊敷地の区画(S=1:1200)



第5図 造構配置図(S=1:400)

が安定しないもの等がある。

溝跡

多數検出されており、塔の腰遺跡の性格を考えるときに土坑と共に重要な要素となる。a～dに分類する。以下、各類に属する主な溝跡について説明する。

a類 幅2m前後で直線的に走るもの。

S D450・451(第28図ほか) 調査区の中央南寄りに2条平行して走る。幅約1m～2.5m、深さ0.5mを測る。壁は、床面から緩やかに立ち上がる。遺構が明瞭に確認できない調査区中央に堆積する、にぶい黄褐色粘土質シルトが覆土に含まれる。S D450・451は、東西70mの範囲で確認され、溝間に遺構が検出できないことから、道路状遺構を示すと判断したい。溝間は2～2.5m、遺構は約4～5mを測る。この道路状遺構上に、現在の農道がある。農道は明治年間の地籍図でも確認され、S D450・451には、13世紀代の遺物が伴う。これは、中世の道路が現在まで使用されていることを示す。

S D408(第11図) S B1掘立柱建物跡の西側に位置する。幅0.5～0.8m、深さ0.6～0.9mを測り、断面形U字型を呈する。北側でわずかに蛇行し、S X365と接し、S D411と合流する。南端でも緩やかに収縮する。S B1掘立柱建物跡の短軸と向きを同じくすることか、建物跡に伴うものと推定される。東側にS D812がほぼ平行して走る。S D408は、33-15Gで90度東に向きを変え、規模を変えS D411となる。S D408がS D411と軸線同じにするS D409を切ることから、区画線の変更を行っていると考えられる。調査区西端のS D813が類似する。

b類 幅1m未満で直線的に走るもの。

S D458(第27図) 調査区中央東よりに位置する。幅約0.5～1m、深さ約0.25mを測り、断面形U字型を呈する。南北に約25mにわたり検出された。S D450と直行し、北側でS D370に切られる。S D370と平行に、S D484が走る。S D458の南端では、西側にS D96が平行に走る。S D450・451道路状遺構を南に越えて、S D128がS D96延長線上に南に伸びる。

S D489(第27図) S D458の北西側に直行する方向で位置する。幅約0.6～0.9m、深さ約0.20mを測り、断面形U字型を呈する。東西約16.5mにわたり検出された。S D489の西端から南北に走るS D479が南に伸びて認められる。S D489に類似するものにS D101・102・103・104・105・106(第26図) 139(第20図)・140(第22図)・144・205(第16図)等がある。

c類 幅1m前後で蛇行して走るもの。

S D492(第5図) 調査区東端に位置する。覆土に入っている砂層から、流水の可能性がある。幅約0.9～1.9m、深さ約0.5～0.8m、約50mにわたり蛇行して検出された。断面形、緩いV字状を呈す。

d類 上記の分類に入らないもの。

S D465(第22図) 調査区中央、S D487北側に位置する。幅約0.4～1.5m、深さ約1.2を測り、断面形箱型を呈す。黒色土が帶状に堆積する。他に、屋敷地内で、建物に伴うと推定されるS D488・489(49～50-17G) 701・814・815(第9図)等がある。

表 2 土坑観察表

遺構番号	探査番号	位置(グリッド)	規模(cm)	深さ(cm)	分類	区画
SK316	6	31・32・15G	200×150	120	平安	
SK317	6	32・16・17G	174×156	19	平安	
SK318	6	32・33・17G	208×160	15	平安	
SK623	6	33～34・18G	99×70	41	平安	
SK21	15	43・24G	100×80	39	e I	
SK22	15	43・24G	100×80	39	e I	
SK23	15	43・24G	200×50	30	f I	
SK24	15	44・24G	118×75	28	e I	
SK25	15	44・24G	95×80	26	e I	
SK27	15	45・22G	140	143	a I	
SK28	5	45・23G	200×98	45	b I	
SK30	5	46・23G	170	156	a I	
SK31	12	46・23・24G	146	62	f I	
SK32	15	45・46・24G	190	98	f I	
SK33	16	46・24G	230×180	94	f I	
SK36	20	47・24G	280×240	30	d H	
SK37	21	47・48・22G	155×135	150	a H	
SK38	5	48・22G	130×120	11	f H	
SK39	21	48・21G	225	45	d H	
SK40	21	48・21G	250×120	15	f H	
SK41	22	48・38・22G	160	90	c HG	
SK42	21	48・49・21G	106×58	15	f H	
SK43	16・21	49・21G	128×94	119	c H	
SK44	16・21	49・21G	150	140	a H	
SK45	16・21	49・21G	130	100	c G	
SK47	16・17	49・50・22G	270×240	150	f G	
SK48	16・20	50・21G	162×110	16	e G	
SK49	16・20	50・21G	420	40	d G	
SK50	16・20	50・21G	120×100	30	e G	
SK51	16	50・22G	184×158	31	f G	
SK52	16	50・51・22G	176×160	24	f GF	
SK53	16	50・22G	350×180	26	d G	
SK54	16	50・51・21・22G	260×100	45	d GF	
SK55	16	51・21G	120×100	80	c G	
SK56	16	51・21G	130×120	70	c F	
SK57	16	51・21・20G	130	60	c F	
SK58	16	51・20G	150	140	b F	
SK59	16	51・52・20G	240×135	15	e F	
SK60	16	51・20G	130×100	140	b F	
SK61	16	52・20G	115	99	c F	
SK62	16	52・21G	130	70	c F	
SK63	16	52・21G	190	123	b F	
SK64	16	52・22・23G	265×230	11	e F	
SK65	16	52・53・22G	180×140	8	f F	
SK66	16	53・54・20・21	215	83	c F	
SK67	16	53・20・21G	200	145	a F	
SK68	16	53・20・21G	190×140	140	a F	
SK69	16	53・21G	190×170	80	f F	
SK70	16	53・21G	160	92	f F	
SK71	16	53・54・21G	180×140	123	a F	
SK72	16	53・54・21G	200×160	117	b F	
SK73	16	53・21G	160	151	a F	
SK74	16	53・21・21G	190	152	a F	
SK75	16	53・22G	140	60	f H	
SK76	22	48・23G	260	125	f H	
SK77	22	48・24G	250×210	20	f H	
SK78	20	47・48・24G	130×100	50	f H	
SK80	20	47・48・24G	150	76	c K	
SK81	22	48・24G	500上	12～20	f K	
SK87	23	44・19G	190×140	50	b K	
SK88	22	48・24G	16	156	f H	
SK89	23	45・19・20G	160×85	20	f c	
SK94	5	50・15G	224×84	57	d E	
SK150	16	49・50・20・21G	260×94	21	f H	
SK158	15	43・24G	88×74	32	e I	

表 3 溝跡観察表

遺構番号	探査番号	位置(グリッド)	規模(cm)	深さ(cm)	分類	区画	
SK159	15	44・24G	90×60	29	e I		
SK160	15	44・24G	70×60	9	f I		
SK165	5	44・45・22G	82×66	22	f I		
SK175	6	45・22G	100×50	24	f I		
SK183	12	47・23G	96×90	33	f H		
SK187	21	48・49・21G	320×186	35	f H		
SK188	21	48・21G	90×80	13	f I		
SK191	22	48・22G	88×42	34	f I		
SK196	16	49・21G	76×56	12	f I		
SK197	16	49・21・22G	76	55	c I		
SK203	16	51・20・21G	90×68	4	f GF		
SK211	16	53・21G	76	15	f F		
SK212	16・19	53・21・22G	60×54	19	f F		
SK213	16・19	53・22G	80×74	18	f F		
SK290	5	31・32・25G	74×64	88	c K		
SK305	23	29・23・24G	135×115	125	a K		
SK308	23	24・24G	125×100	110	c K		
SK310	23	34・23G	100×90	105	c K		
SK311	23	34・21・22G	120×80	95	c L		
SK313	5	35・21G	110×90	139	c L		
SK320	7	33・19G	170	102	f L		
SK321	5	34・35・19・20G	150	102	a L		
SK322	5	36・19G	126×120	15	f L		
SK324	23	42・21G	76	115	f L		
SK327	9	38・14G	150×150	21	f A		
SK329	9	39・14G	220×140	12	f A		
SK330	9	39・15G	140×110	12	f A		
SK331	27	39・17G	110×76	26	f B		
SK334	23	43・18G	110	100	c B		
SK336	24	46・18G	140×120	100	c C		
SK337	24	43・18G	130×115	82	c B		
SK338	24	46・18G	200×140	20	c D		
SK339	24	46・15G	120	120	a E		
SK340	5	46・47・14・15G	276×176	18	d F		
SK341	24	46・47・15G	160×145	46	f F		
SK342	24	46・47・15G	125	120	c F		
SK343	22	48・22・23・24G	130×7	42	~84	b H	
SK344	20	50・52・21・24G	15×20	11	25	GF	
SK344	16	51・52・21・23G	127×7	0.4	2	GF	
SK345	16	51・52・21・23G	5.2	0.7	9	GF	
SK346	16	53・19G	5	0.6	28	d F	
SK347	16	53・19G	1.2	0.3	25	d F	
SK348	12	45・47・23・24G	130	0.4	23	b I	
SK349	16・20・21	48・50・20・21G	115×6	5.5	11	b H	
SK349	22	48・22・23・24G	130×7	42	~84	b H	
SK346	20	50・52・21・24G	15×20	11	25	GF	
SK347	27	49・18G	3.9	0.4	23	b D	
SK348	5	48・49・17G	5	1.1	7	d D	
SK349	5	47・51・21・26G	27.5	1.8	16	39	c CD
SD497	9	39・15G	1.3	0.25	6	b A	
SD701	9	36・37・15・17G	12	1.6	10	d A	
SD812	11	35・36・15・22G	20	2.1×5	15	d A	
SD813	7	26・28・18・21G	25	0.5	25	d J	
SD814	9	38・16・17G	3.1	1.2	33	d A	
SD815	9	38・39・16G	4.1	0.2	20	d A	

表 4 屋敷区画観察表()の数値は未検出部分を含む推定値を示す

区画記号	位 墓	周邊構	規模m	面積m ²	特 徵
A	32～40・13・19G	SD408・411・465・472・33・26	858	858	ほぼ南北
B	40～46・15～21G	SD476・477・478・495・30・21	630	630	南北(西面か?)道に面する。
C	44～48・15～21G	SD486・487	26×18	468	ほぼ南北
D	48～52・15～18G	SD488	(15)×10)	(150)	N~E~
E	46～49・13～16G	SD494	(21)×15)	(315)	ほぼ南北
F	51～55・19～24G				土塁とc類が点在する。
G	48～52・20～24G	SD140・139・144	20以上×18	360以上	N~E~
H	46～52・20～24G	SD128	21×18	378以上	ほぼ南北
I	42～47・21～24G	SD128・105・106	21×17以上	357以上	南北面に面する。
J	26～31・18～21G	SD813	21×15	315	N~S~E~
K	28～33・23～26G	SD376・443・441	23以上×15以上	345以上	南北不明瞭。
L	32～36・17～21G				南北面に囲まれた柱穴群。

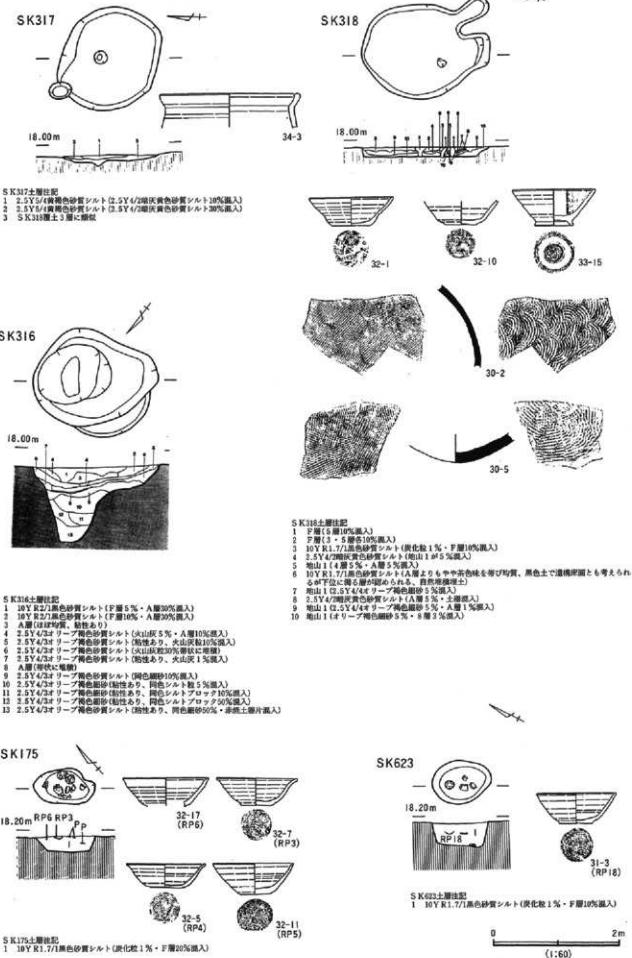
表3 溝跡観察表

遺構番号	掘削番号	位置(グリット)	規模(m)	深さ(cm)	分類	区画
SD378	7	26~31~29~22G	33×1.2	19~47	平安	
SD388	7	28~33~17~19G	27.9×0.7	12~16	平安	
SD410	11	30~35~13~14G	35.5×1.1	22	平安	
SD418	5	33~34~29~21G	6.3×0.4	11	平安	
SD424	5	31~32~29~21G	6.5×0.5	10	平安	
SD430	29	31~32~23G	9.2×0.5	6	平安	
SD709	5	44~45~23G	6×0.7	20	平安	
SD86	5	43~18~19G	2.2×0.6	33~51	d B	
SD96	5	45~20G	1.9×0.5	13	b B	
SD101	26	37~42~24~25G	23.1×0.6	20	b	
SD102	26	39~42~24~25G	14.2×0.6	25	b	
SD103	26	40~42~24~25G	11×0.5	32	b	
SD104	26	41~42~24~24G	2.7×0.45	10	b	
SD105	26	42~43~24~25G	12×1	53	b I	
SD106	26	42~43~24~25G	12×1	53	b I	
SD112	5	43~45~23~24G	4×0.5	21	d I	
SD113	5	43~44~23~23G	8×1	14	d I	
SD118	22	48~23~24G	2×0.3	15	d H	
SD120	5	44~22G	2.2×0.8	6	b H	
SD128	5	46~21~22G	4.7×0.5	29	b H	
SD136	12	47~23G	3.8×0.5	28	b H	
SD138	12	45~47~23~24G	1.3×0.4	23	b I	
SD139	16~20~21	48~50~29~21G	11.5×0.6	11~50	b H	
SD140	22	48~22~23~24G	13×0.7	42~84	b H	
SD143	20	50~52~21~24G	15.2×0.5	11~25	b GF	
SD144	16~18	51~52~21~23G	12.7×0.4	2	b GF	
SD145	16	51~52~21~22G	5.2×0.7	9	b GF	
SD146	16	53~19G	5×0.6	28	d F	
SD147	16	53~19G	1.2×0.3	25	d F	
SD210	16~19	53~20G	0.8×0.4	17	d F	
SD464	27	39~40~17G	5×0.8	38	d A	
SD370	27	44~45~17~18G	6.4×0.6	45	b B	
SD374	13	26~30~23~24G	23.3×0.85	12~23	d K	
SD408	11	33~37~14~19G	34×6	6~87	a A	

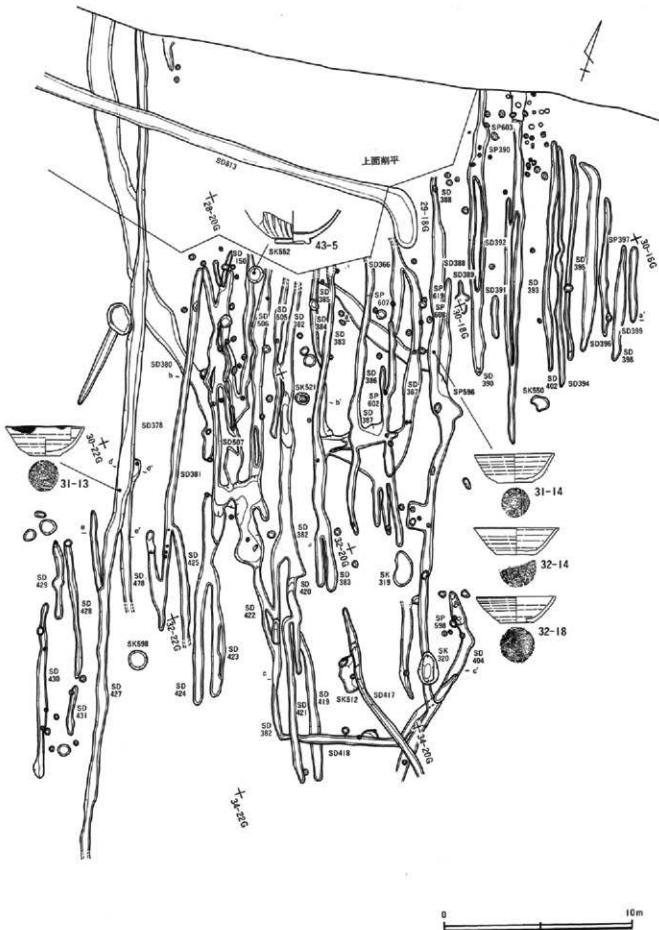
遺構番号	掘削番号	位置(グリット)	規模(m)	深さ(cm)	分類	区画
SD409	11	34~36~14~15G	12.5×1.9	28	b	A
SD411	11	33~34~13~14G	7×0.9	23	b	A
SD413	5	36~37~14G	2.5×0.5	15	b	A
SD446	5	34~36~24~25G	9.7×0.9	20~49	d	K
SD447	5	35~36~24~25G	7.5×1	60~70	d	
SD448	26	35~41~23~25G	×1.6	70	d	
SD450	28	39~52~18~23G	92×3	45	a	遺構
SD451	28	40~52~18~24G	91.5×2.5	40	a	遺構
SD457	5	44~19~20G	3.3×0.7	31	b	B
SD458	27	43~46~16~20G	26×1	16~34	b	B
SD460	5	39~40~19G	4.2×0.3	24	b	
SD465	27	39~40~16~17G	10.4×1.4	14~71	d	A
SD467	9	37~38~17~18G	5.4×1.6	18	d	A
SD468	9	38~39~16~17G	2.6×0.8	11	d	A
SD470	9	38~39~14~15G	4.3×0.9	7	d	A
SD471	9	38~39~13~14G	5.8×0.3	15	b	A
SD472	9	39~13~14G	3.5×1.4	15	d	A
SD473	9	40~15~16G	3.3×0.4	7	b	A
SD475	5	41~15G	25×0.5	7	d	A
SD476	27	39~43~15~18G	26.8×0.4	14~29	b	AB
SD482	27	44~17~18G	2.3×0.5	18	d	B
SD483	27	44~17~18G	2.4×0.6	15	b	B
SD484	27	43~44~16~18G	12.5×0.6	30	b	B
SD486	5	47~48~18~19G	4.5×0.8	11	b	C
SD487	27	49~18G	3.9×0.4	23	b	D
SD489	5	48~49~17G	5×1.1	7	d	D
SD492	5	47~51~12~16G	27.5×1.8	16~39	c	CD
SD497	9	39~15G	1.3×0.25	6	b	A
SD701	9	35~37~15~17G	12×1.6	10	d	A
SD812	11	35~36~15~22G	20.2×1.5	15	d	A
SD813	7	25~26~18~21G	20.5×0.9	25	d	J
SD814	9	38~16~17G	3.1×1.2	33	d	A
SD815	9	38~39~16G	4.1×2.2	20	d	A

表4 屋敷区画観察表()の数値は未検出部分を含む推定値を示す

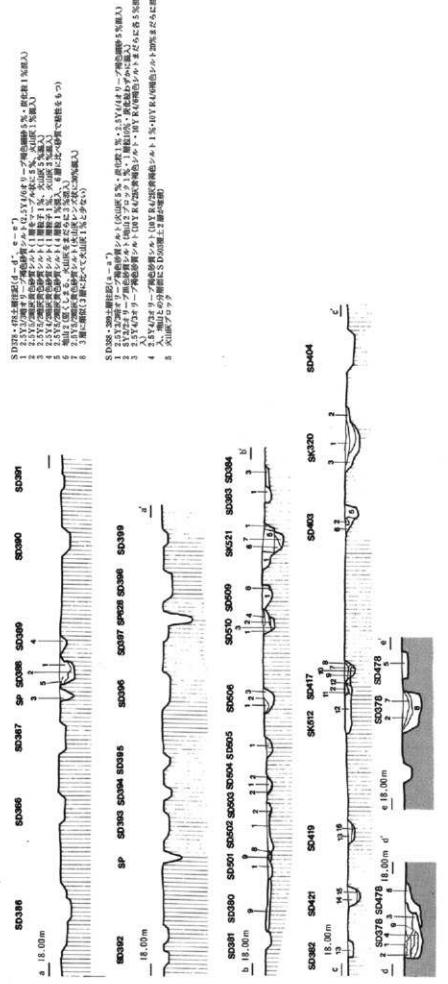
区画記号	位置	区画遺構	規模m	面積m ²	長軸方向	特徴
A	32~40~13~19G	SD408・411・465・472	33×26	858	ほぼ磁北	区画内にSB1櫛立柱建物跡・SE323井戸跡。
B	40~46~15~21G	SD476・477・478・95・484・479・480	30×21	630	ほぼ磁北	南面(西面もか?)道路に面する。南半は妙層を飜込む。東側にSE520井戸跡。
C	44~48~15~21G	SD458・487	26×18	468	ほぼ磁北	区画内に土坑a・c類が点在。SD486は雨落溝か? 南面遺構に面する。
D	48~52~15~18G	SD488	(15×10)	(150)	N~20°E	西側は不明瞭。
E	46~49~13~16G	SD494	(21×15)	(315)	ほぼ磁北	区画は不明瞭。東側を蛇行するSD492が通る。
F	51~55~19~24G					土坑a・b類集中。作業空間を推定する。
G	48~52~20~24G	SD140・139・144	20以上×18	360以上	N~20°E	屋敷区画が道路から離れる。南半未検出。
H	46~52~20~24G	SD128	21以上×18	378以上	ほぼ磁北	北面道路に面する。南半未検出。
I	42~47~21~24G	SD128・105・106	21×17×以上	357以上	ほぼ磁北	北面道路に面する。南半未検出。
J	26~31~18~21G	SD813	21×15	315	N~85°E	区画は不明瞭。
K	28~33~23~26G	SD376・443・441	23以上×15以上	345以上	N~85°E	区画は不明瞭。区画A・J・Kに囲まれる柱穴群。
L	32~36~17~21G					区画は不明瞭。



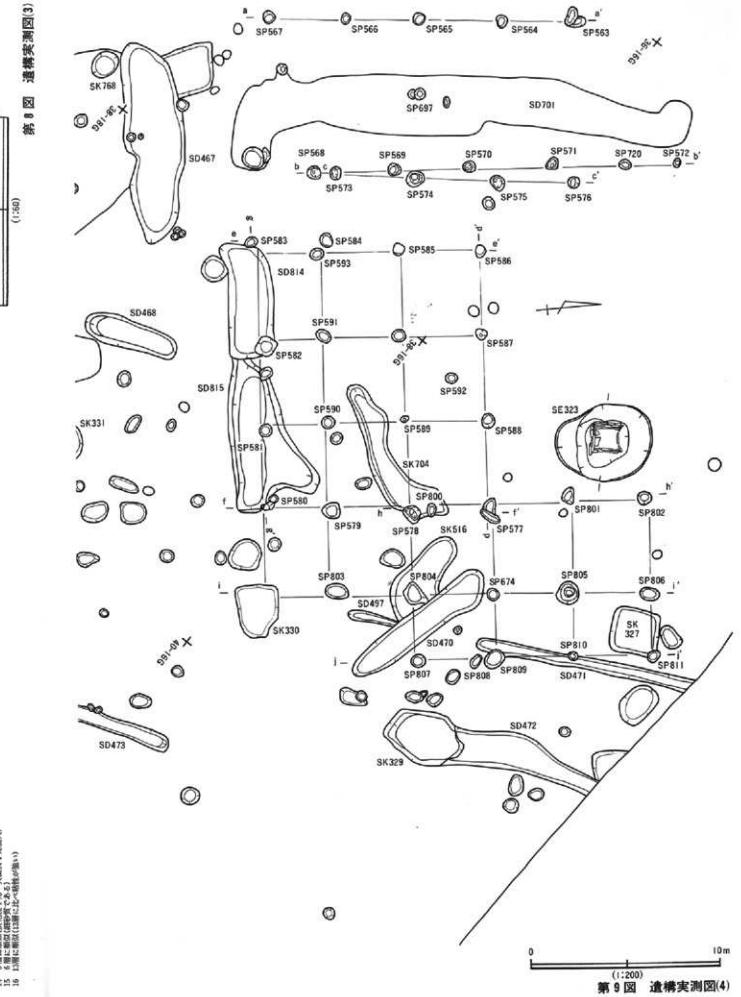
第6図 造構実測図(1)



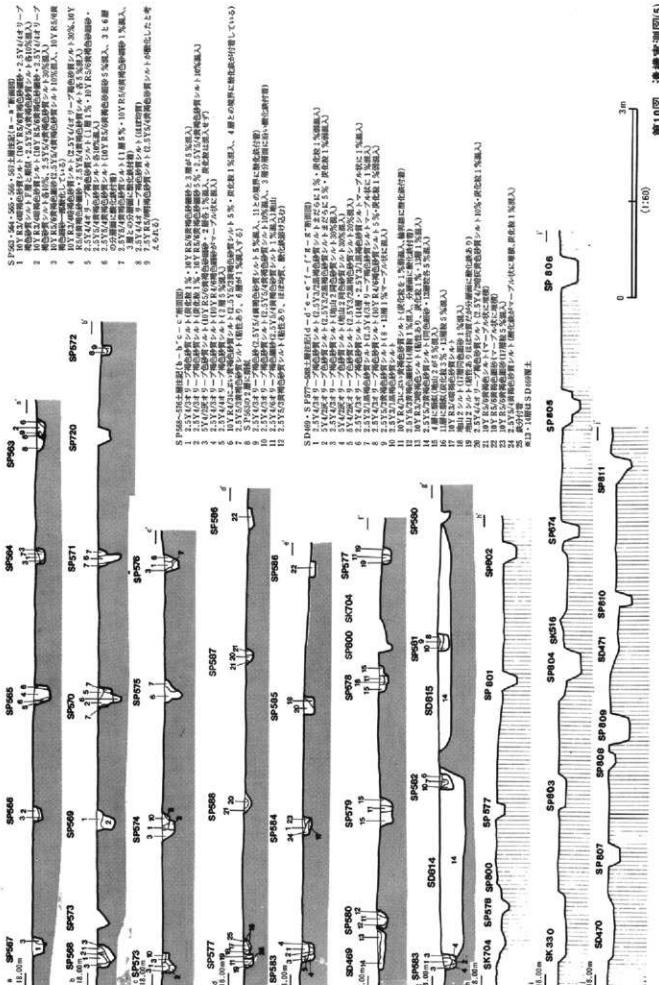
第7図 造構実測図(2)



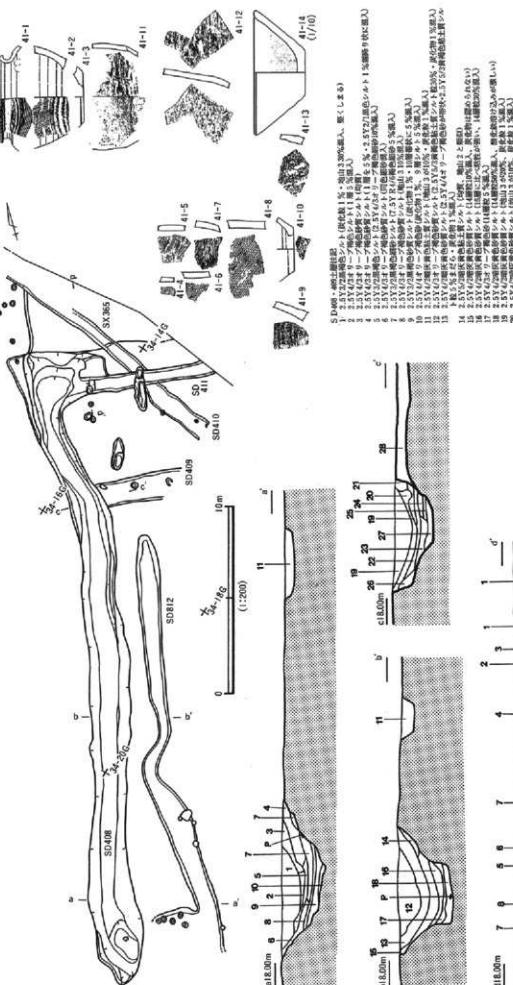
SD386 - 403-419 - 419-421, SK320 - 4122-4123 距離(c-e)
 1. 1.5-4.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。
 2. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。
 3. 3.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。
 4. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 5. 5.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。
 6. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 7. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 8. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 9. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 10. 1.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 11. 1.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 12. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 13. 2.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 14. 3.5 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)
 15. 4.0 m (リード) 岩盤の下に、白色の砂岩層がある。(底は、灰色の砂岩層である。)



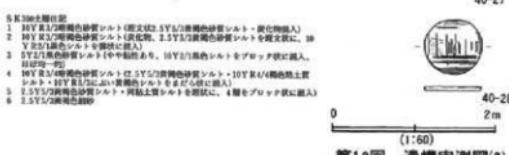
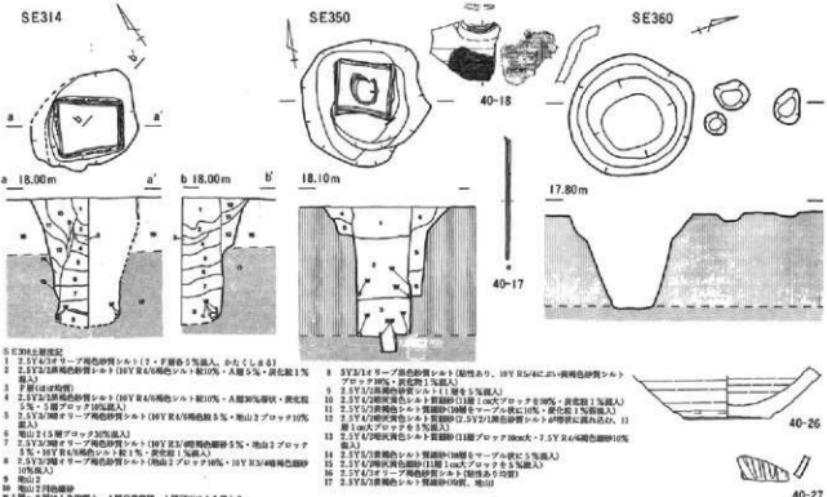
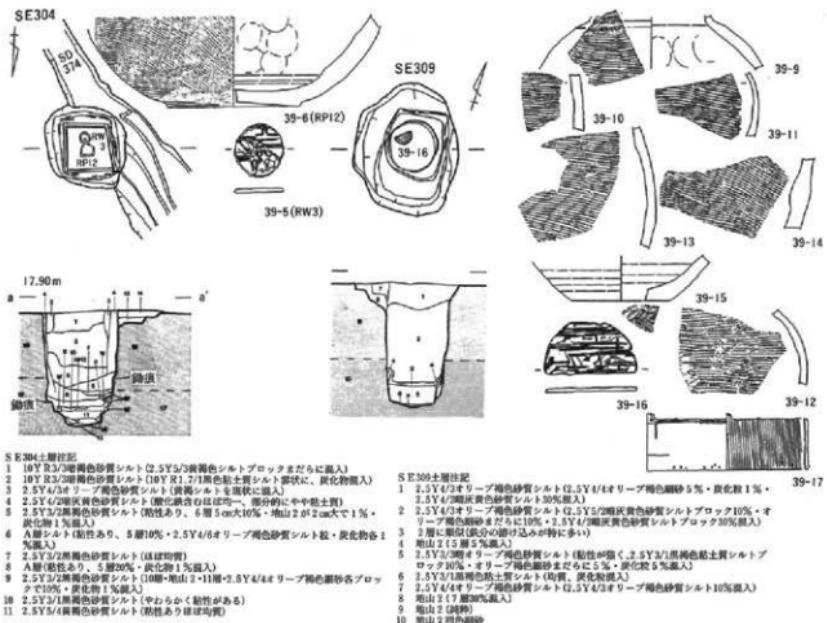
第9図 通構査測図(4)

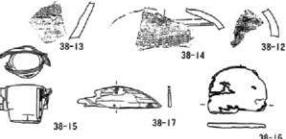
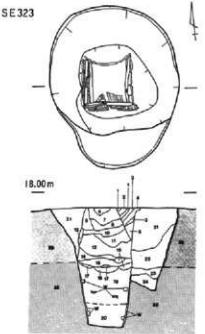
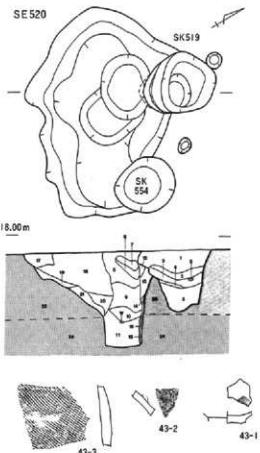


第10図 連携実測図(5)



第11図 連携実測図(6)





SK19 地山2層部
 1 黄褐色砂岩(2層で5cmのブロック状)10%、地山2ブロック5cm大(1%混入)
 2 岩間に隙部(7.5Y R5/5)黄褐色砂質シルト5cm大円形ブロックで10%、地山2
 フラット
 3 黄褐色砂岩(2層で5cm)
 4 地山2層部(3層で5cm厚)

SK20 地山2層部
 1 黄褐色砂岩(2層で5cmのブロック状)10%
 2 10Y R4/2黄褐色砂質シルト(9.7層各5%、泥化板3%混入)
 3 7.5Y R2/2黄褐色シルト(4層各5%、泥化板1%混入)
 4 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(3層各5%、泥化板1%混入)
 5 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(1層厚5%、2層5%、泥化板3%混入)
 6 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(1層厚5%、2層5%、泥化板3%混入)
 7 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(2層各5%、泥化板3%混入)
 8 7層に隙部(7層各5%、リーフ帶黄褐色砂質シルト5cm厚までに混入)
 9 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(2層各5%、泥化板1%混入)
 10 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト10%、2.5Y R2/2薄い砂
 質シルト10%、泥化板1%混入)
 11 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト10%、10層10cmまだらに
 黒鉛)
 12 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト10%、10層10cmまだらに
 黑鉛)
 13 黄褐色砂岩(2層で5cm厚)
 14 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(2層各5%)
 15 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(2層各5%)
 16 黄褐色砂岩(2層で5cm厚)
 17 2.5Y R3/2黄褐色砂岩(2層各5%)
 18 10Y R3/2黄褐色砂岩(2層各5%)
 19 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(1層厚5%、10Y R5/5黄褐色砂岩10%、9層5%
 泥化板1%混入)
 20 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(5cm厚5%混入)
 21 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(5cm厚5%混入)
 22 2.5Y R3/2リーフ帶黄褐色砂岩(2層各5%)
 23 地山2層部(新化成層付近)

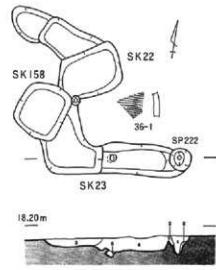
43-1 43-2 43-3



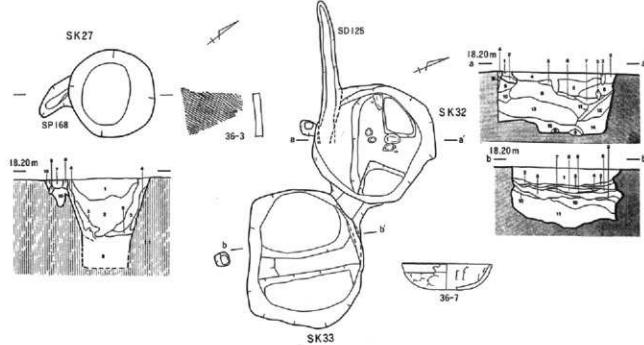
SK21上層部
 1 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(泥化板)5cm厚5cm(1%混入)
 2 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(泥化板)5cm厚5cm(1%混入)
 3 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(泥化板)5cm厚5cm(1%混入)
 4 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(1層厚5%、1層10cm混入)
 5 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト30%混入)
 6 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(1層厚5%混入)

SK21中層部
 1 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト)10Y R5/5に互いに
 黄褐色砂岩(2層で5cm)
 2 10Y R3/2黄褐色砂質シルト(3層各5cm混入)
 3 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2層各5%、1層10cm混入)
 4 2.5Y R3/2黄褐色砂質シルト(2.5Y R6/2リーフ帶黄褐色砂質シルト10%混入)

SK21下層部
 1 2.5G T2/2黄褐色砂質シルト(泥化板5%、1層10cm混入)



SK22上層部
 1 B層(化成板3%、地山5%混入)
 2 B層(1層10cm混入)
 3 B層(1層10cm混入)
 4 B層(1層10cm混入)
 5 地山2(4層黄褐色シルト5cm混入)



SD125

SK32上層部
 1 10Y R3/3.5よい黄褐色砂岩(1層5%混入)
 2 10Y R3/3.5黄褐色砂質シルト(1層5%混入)
 3 10Y R3/3.5黄褐色砂質シルト(1層5%混入)
 4 SK32上層

SK32中層部
 1 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 2 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 3 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 4 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 5 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 6 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 7 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 8 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 9 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 10 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 11 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)

SK32下層部
 1 D層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 2 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 3 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 4 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 5 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 6 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 7 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 8 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 9 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)
 10 A層(1層10cm厚)5cm(2.5%混入)
 11 B層(5cm厚)5cm(2.5%混入)

第14図 造構実測図(9)

第15図 造構実測図(10)



S K21土層記述

- 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(炭化鉄混入)SK25の1層に類似
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト(1層20%混入)
- 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(炭化鉄混入せず、黄褐色砂質シルト30%混入)
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト(1層40%混入)

K25土層記述

- 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(2.5Y5/3黄褐色砂質シルト・10Y R5/4に似る)黄褐色砂質シルト(まだらに30%混入)
- 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(3層50%混入)
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト(炭化鉄5%・1層10%混入)
- 10Y R3/2黒褐色砂質シルト(2.5Y3黄褐色砂質シルト・同色砂質10%混入)

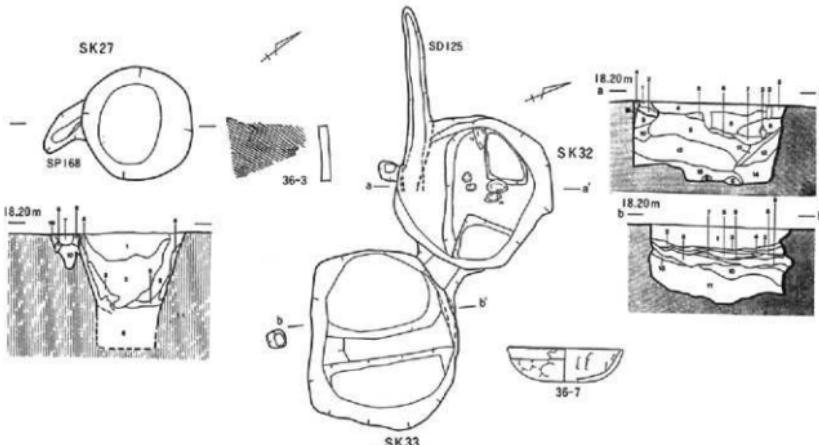
S K159土層記述

- 2.5G Y2/1黑色砂質シルト(炭化鉄5%・1層10%混入)



S K23土層記述

- 5層(炭化鉄3%・地山5%混入)
- B層(地山1層5%混入)
- NZ/ 黒色シルト(地山1層10%混入)
- NZ/ 黑色シルト(炭化鉄5%・B層10%混入)
- 地山2(4層同色シルト10%混入)



S K27土層記述

- F層(地山1層5%・炭化鉄5%混入)
- 10Y R3/3黒褐色砂質シルト(粘性あり堅く、同色砂質シルト・炭化鉄5%混入)
- 2.5Y5/3黒褐色砂質シルト(2.5Y4/3オーリープ褐色砂質10%混入)
- A層(さらさらしてろくろ、2・3層各10%混入)
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト・A層5%・2.5Y4/3A層(2層各10%混入)
- 10Y R2/2黒褐色砂質シルト(粘性ありろくろ、同色砂質1層10%混入)
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質(10%混入)
- 2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト(地山1が1%混入)
- 水の記述
- 日層(地山1が5%混入)
- 地山1(5層5%混入、囲り方輪郭内に炭化鉄付着)

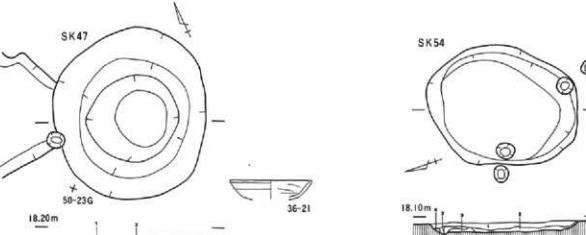
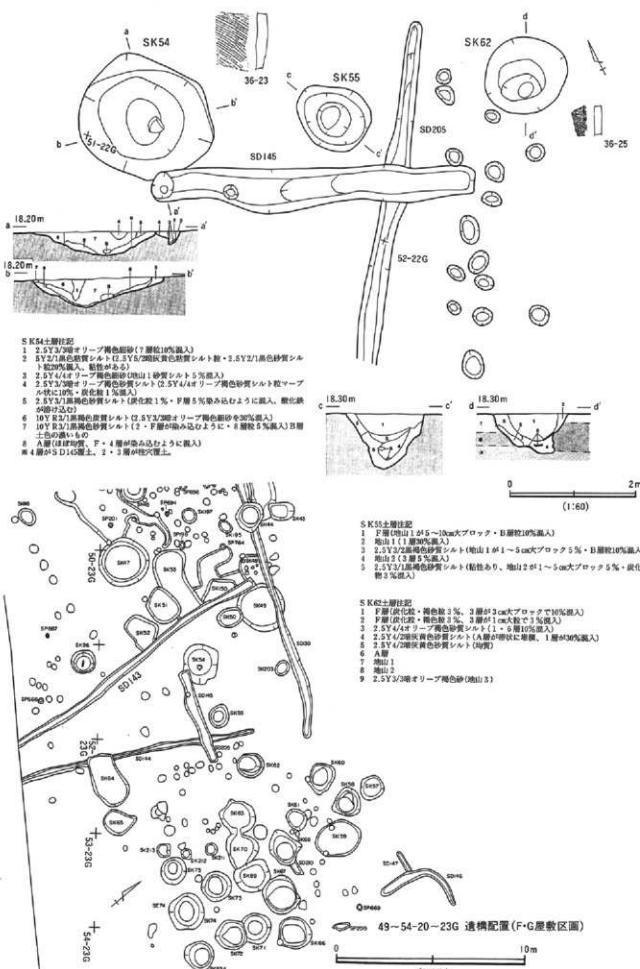
S K32土層記述

- 10Y R2/3E層(2.5Y4/2暗紅褐色砂質シルト(2層5%混入)
- 10Y R2/1黒褐色砂質シルト(1層5%混入)
- 水の記述
- 4層(炭化鉄1層)
- B層(5%・E層5%ブロック10%混入)
- E層(A層ブロック混入状に混入)
- E層(A層ブロック混入状に混入)
- E層(C層ブロック混入状に混入)
- B層(5%・E層5%ブロック10%混入)
- B層(3層各10%混入)
- B層(3層各10%混入)
- B層(3層各10%混入)
- B層(C・E層ブロック10%混入)
- 11層と相似(AB層5%混入)
- E層(9層5%ブロック30%混入)
- 12層(2層5%ブロック30%混入)
- 13層(2.5Y3/2黒褐色砂質シルト(地山2・同色砂質シルト・A層ブロックシルト5mm大ブロックで30%混入、一部剥離している))
- 13層(13層比・地山2 黒褐色シルトが40%と多く炭化鉄5%混入)
- 13層(13層比・地山2 黒褐色シルトの割合20%と少なび炭化鉄5%混入)

S K33土層記述

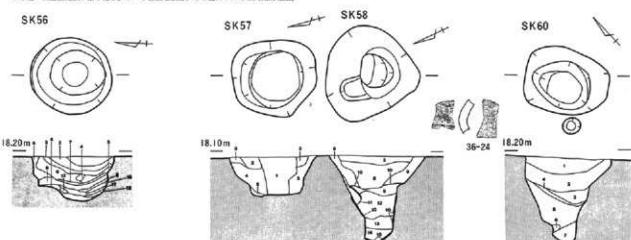
- F層(地山・F層10%混入)
- B層(AB層が流れ込むように混入)
- 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト(均質)
- A層(同色砂質シルト)
- 6層(地山2 同色砂質シルト混入)
- A層(均質)
- B層(地山2 ブロック状に10%混入)
- B層(地山2 ブロック状に30%混入)
- 地山2(2層ブロック状に10%混入)
- 11層(地山2・5.5Y3/2黒褐色砂質シルト30%ブロック状、炭化鉄5%混入)

0 2m
(1:60)
第15図 造構実測図⑩



SK47 土壌柱記

- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(9割)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(山1・施肥なし)
- 1層(外側)入り、(筋地のもの)
- 4割入り(A面5%まだらに入)
- 8割入り(D面5%)
- A面(内側)入り
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(A面内側入り)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(内側入り)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(内側入り)
- 10Y 3/7淡緑色沙質土(30%植込率)
- 10Y 3/7淡緑色沙質土(30%植込率)
- 施肥なし
- 施肥5%
- 施肥10%
- 施肥15%
- 施肥20%
- 施肥25%
- 施肥30%
- 施肥35%
- 施肥40%
- 施肥45%
- 施肥50%
- 施肥55%
- 施肥60%
- 施肥65%
- 施肥70%
- 施肥75%
- 施肥80%
- 施肥85%
- 施肥90%
- 施肥95%



SK56 土壌柱記

- F層(内側)入り、施肥2%・施肥3%・施肥3.5m(3m)ワッカで10%混入
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(1m~1.5m)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(1.5m~2m)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(2m~3m)
- 施肥2%・施肥3%・施肥3.5m(3m)ワッカで10%混入
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(内側)
- 施肥1%
- 施肥2%
- 施肥3%

SK57 土壌柱記

- 18.20m

SK58 土壌柱記

- 18.10m

SK60 土壌柱記

- 18.20m

K57 土壌柱記

- B面(内側)入り、施肥2%・施肥3%・施肥3.5m(3m)ワッカで10%混入
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(1.5m~2m)
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(2m~3m)
- 施肥1%混入
- 2.5Y 3/10オーライー褐色沙質土(内側)
- 施肥1%
- 施肥2%
- 施肥3%

K58 土壌柱記

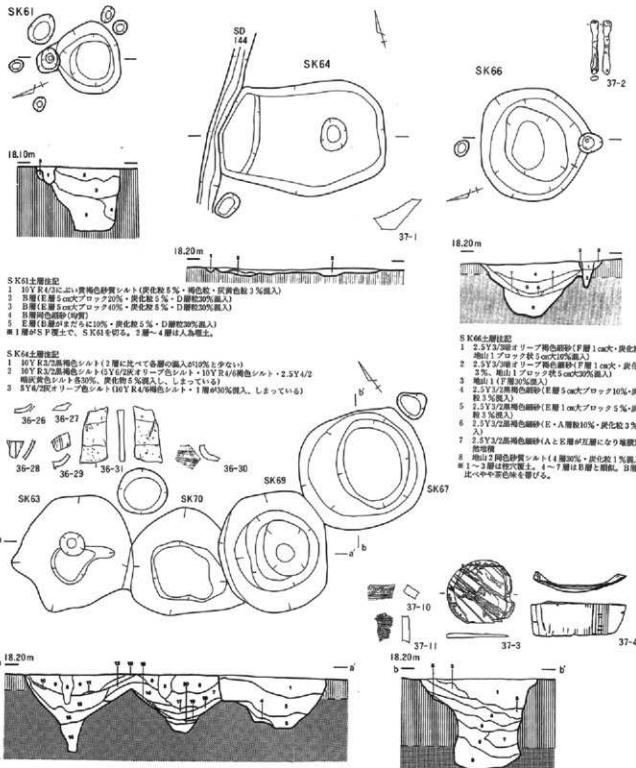
- 18.20m

K59 土壌柱記

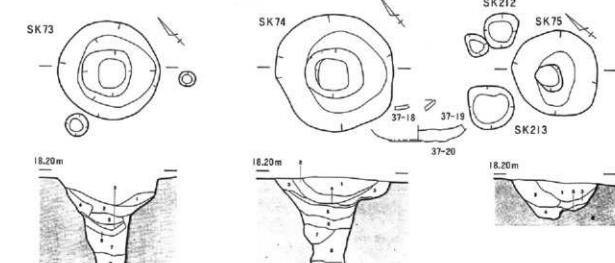
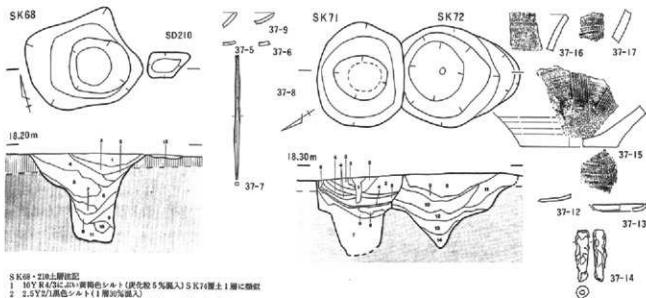
- 18.10m

第16図 造構実測図(1)

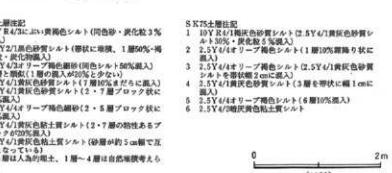
第17図 造構実測図(2)

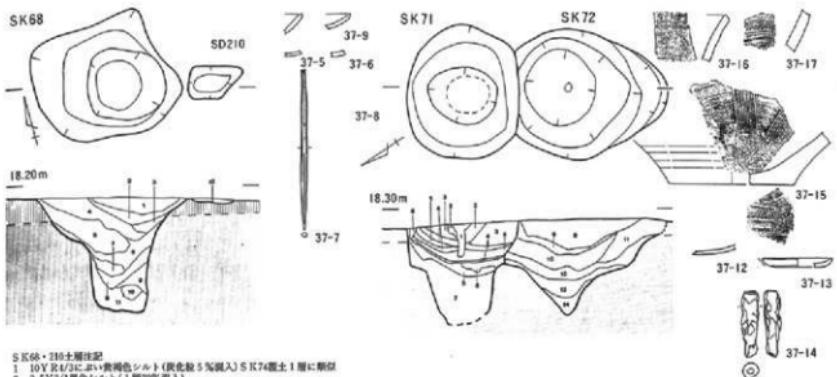


A horizontal scale bar representing 2 meters. The left end is labeled '0' and the right end is labeled '2m'. Below the bar, the text '(1:60)' indicates a scale factor.



S K73土壁記	S K743
1 10YR 4/3C+青い薄黄色シルト(暗色砂、底化灰3%	1 10YR 4/3C
2 2.5YR 1/2W薄黄色シルト(帶状に埋礁、1%巣石+薄 色砂、底化灰砂)	2 2.5YR 1/2W
3 2.5YR 1/2W+薄黄色シルト(暗色砂50%混入)	3 2.5YR 1/2W
4 2.5YR 1/2W薄黄色シルト(暗色砂50%混入)	4 2.5YR 1/2W
5 2.5YR 1/2W薄黄色シルト(暗色砂50%混入)	5 2.5YR 1/2W
6 2.5YR 1/2W薄黄色シルト(2-7層ブロック状に 20cm)	6 2.5YR 1/2W
7 2.5YR 1/2W薄黄色シルト(2-7層ブロック状に 20cm)	7 2.5YR 1/2W
8 2.5YR 1/2W薄黄色粘土(2-7層の粘性あるブ ロック状の20cm)	8 2.5YR 1/2W





SK68・土層記述

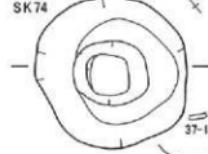
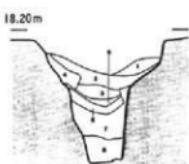
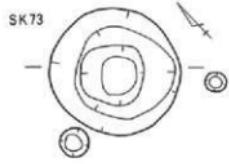
- 1 10Y R 3/2(赤)の褐色シルト(鉄化鉱 5%混入) SK74覆土 1層に類似
- 2 2.5Y 4/1褐色シルト(1層5%混入)
- 3 2.5Y 4/2褐色砂質シルト(2層) 1層をブロック状に20%混入
- 4 2.5Y 4/2褐色砂質シルト(2・3層) 2層をブロック状にオーリープ褐色シルト、1層のワッカを50%混入
- 5 2.5Y 4/2褐色シルト(2.5Y 4/3オーリープ褐色シルト、2.5Y 4/4オーリープ褐色シルト、1層をワッカで30%混入)
- 6 2.5Y 4/2褐色砂質シルト(2・4層を1層大のブロック状に10%混入)
- 7 2.5Y 4/2褐色砂質シルト(2・4層が5%、2.5Y 4/4オーリープ褐色シルトがブロック状に30%混入)
- 8 2.5Y 3/1褐色砂質シルト(2・4層が20%、2.5Y 4/4オーリープ褐色シルトがブロック状に10%混入)
- 9 2.5Y 4/2褐色砂質シルト
- 10 2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質シルト(ほぼ無質)
- 11 2.5Y 4/4オーリープ褐色砂質シルト(2・4層のやや粘性のあるものが10cm大ブロックで10%)
- 12 10Y R 3/2(黒)褐色シルト SK64覆土 2層と類似
- 13 地下の自然堆積

SK71・土層記述

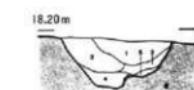
- 1 10Y R 3/2(赤)の褐色シルト(同色砂、鉄化鉱 3%混入)
- 2 2.5Y 4/2(褐色砂質シルト)(同色砂、鉄化鉱、1層50%、褐色鉱、鉄化鉱混入)
- 3 2.5Y 4/2(褐色砂質シルト)(同色砂、鉄化鉱混入)
- 4 2層(1層のワッカを20%混入)
- 5 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(7層5%どちらに混入)
- 6 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(2・7層ブロック状に20%混入)
- 7 2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質シルト(2・5層ブロック状に20%混入)
- 8 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(2・7層の粘性のあるワッカが5%混入)

SK72・土層記述

- 1 10Y R 3/2(赤)褐色砂質シルト SK63の8層に類似
- 2 10Y R 3/2(赤)褐色砂質シルト(2.5Y 4/3褐色砂質シルトを50%混入) 1層に類似
- 3 2.5Y 4/2(褐色砂質シルト) (地山1 + A層をまだらに各20%混入)
- 4 A層(2.5Y 4/2褐色砂質シルト)
- 5 2.5Y 4/2褐色砂質シルト(地山1が5%、A層が1%混入)
- 6 地上に自然砂質シルトブロック
- 7 地下 2 (5層がまだらに20%混入)
- 8 地下 3 (鉄化鉱) 1%、地表付近 1%混入
- 9 地下 4 (鉄化鉱) 1%、地表付近 1%混入
- 10 B層(地山 2 褐色砂質シルト+10cm大ワッカ 10%、鉄化鉱 1%混入)
- 11 B層(地山 2 褐色砂質シルト 5 cm大ワッカ 10%、鉄化鉱 1%混入)
- 12 地下 2 同色砂質シルト(日影側 5%混入)
- 13 2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質シルト(同色砂質混入、砂質に軟化鉱が吸け込む)
- 14 2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質シルト(同色あり、2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質が帶状に現れ、鉄化鉱 1%混入)



SK212



SK213

SK76・土層記述

- 1 10Y R 4/3(赤)の褐色シルト(同色砂、鉄化鉱 3%混入)
- 2 2.5Y 4/2(褐色砂質シルト)(帯状に地盤、1層50%、褐色砂、鉄化鉱混入)
- 3 2.5Y 4/2(褐色砂質シルト)(帯状に地盤、1層50%、褐色砂、鉄化鉱混入)
- 4 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(7層5%どちらに混入)
- 5 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(2・7層ブロック状に20%混入)
- 6 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(2・7層ブロック状に20%混入)
- 7 2.5Y 4/2オーリープ褐色砂質(2・5層ブロック状に20%混入)
- 8 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(2・7層の粘性のあるワッカが5%混入)
- 9 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(砂層が約 5 cm幅で互層)
- 10 5~6 層は山麓の粘土、1層~4 層は自然堆積と考えられる。

SK77・土層記述

- 1 10Y R 4/3(赤)の褐色シルト(2.5Y 4/1褐色砂質シルト 20%、鉄化鉱 5%混入)

- 2 2.5Y 4/4オーリープ褐色シルト(1層10%而溝跡に現る)

- 3 2.5Y 4/4オーリープ褐色シルト(2.5Y 4/1褐色砂質シルト 20%混入)

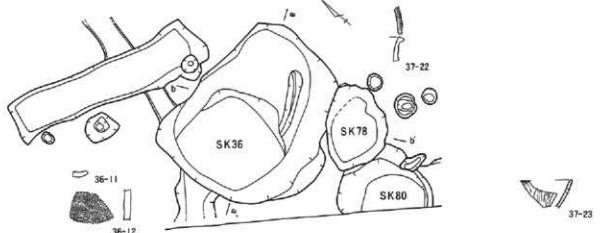
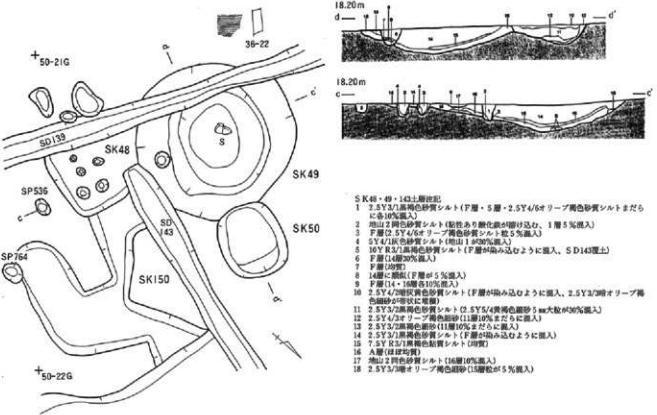
- 4 2.5Y 4/1褐色砂質シルト(3 層を帯状に幅 1 cm に現る)

- 5 2.5Y 4/4オーリープ褐色シルト(6 層 10%混入)

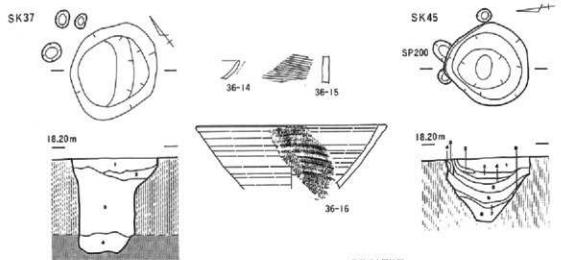
- 6 2.5Y 4/2褐色砂質シルト

0 2m
(1:60)

第19図 道構実測図(14)

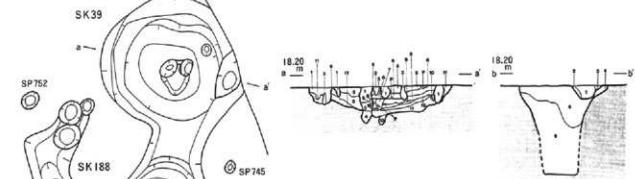


第20図 道構実測図⑯



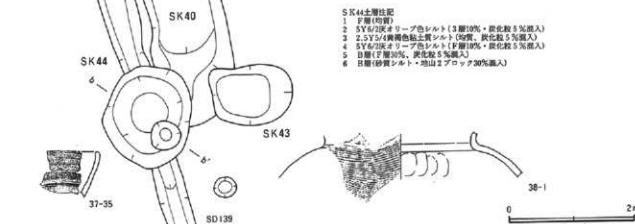
SK45上層地盤

1. 2.5Y4/3褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
2. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
3. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
4. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
5. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
6. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
7. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)
8. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(2.5Y4/2褐色砂質シルト30%・A層・F層10%)

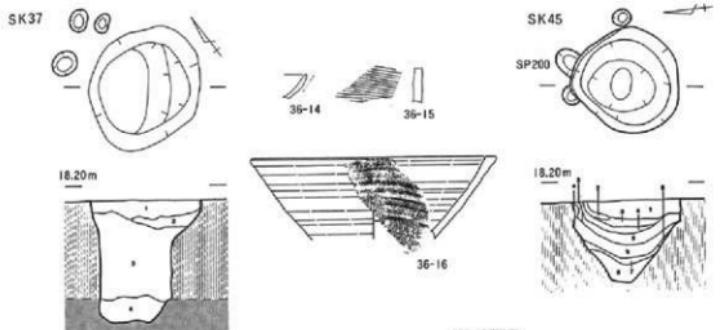


SK188上層地盤

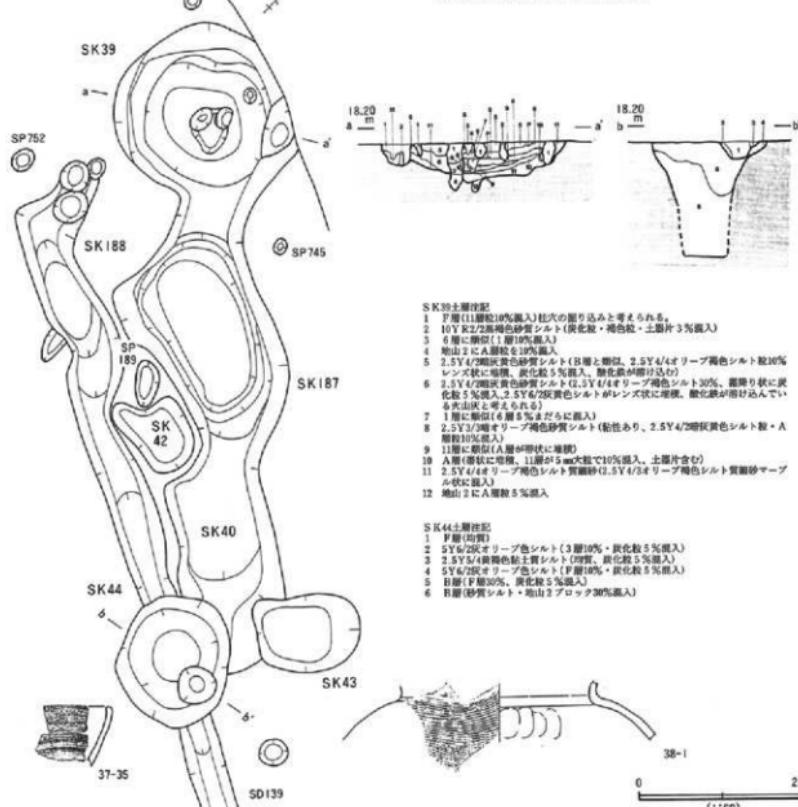
1. F層(1層鉄化物30%鉄入)柱状の割合と重ねられる。
2. 10YR4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
3. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
4. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
5. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
6. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
7. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
8. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
9. 2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)注記地質。
10. A層(褐色砂質泥炭)・1層5%大粒柱(1層鉄化物・土壌付)
11. A層(褐色砂質泥炭)・2.5Y4/2褐色砂質シルト(鉄化物・鉄酸化物・錆片付)
12. 山地2にA層鉄化物5%混入。



第21図 道構実測図⑯



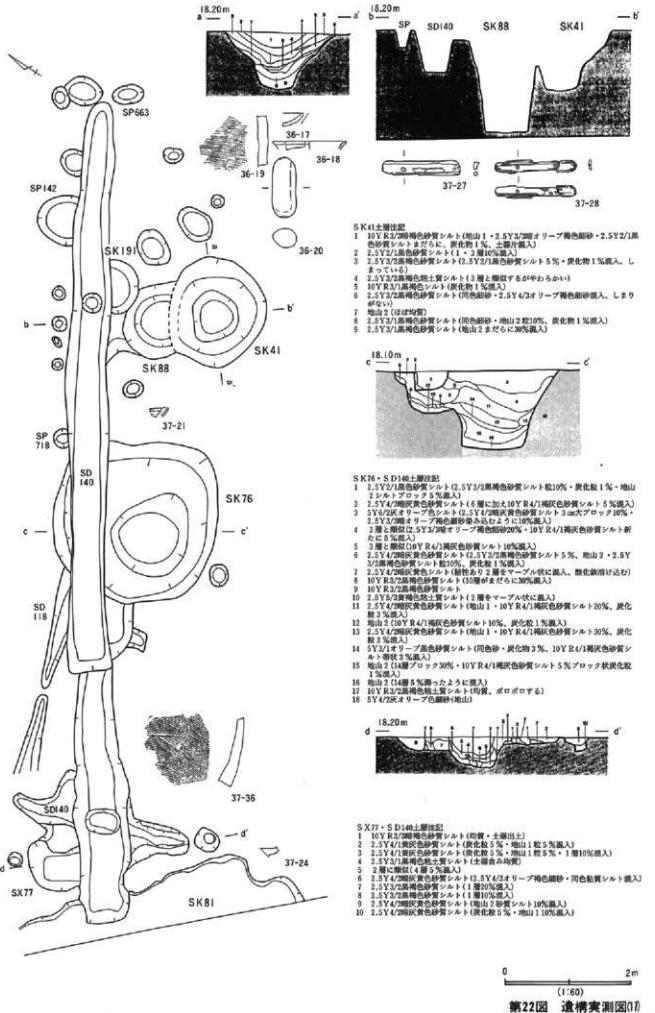
- SK27上層壁記
 1 2.5Y4/1黄褐色砂質シート 5mm×1%・2.5Y4/2リーブ褐色砂質シート約3%混入
 2 2.5Y3/2黒褐色砂質シート(B層10%・A層全体に5%・炭化鉄5%・塊山15cmブロック5%混入)
 3 2.5Y3/3黒褐色砂質シートは、2.5Y4/4リーブ褐色砂質約90%・塊山2%・炭化鉄3%混入。しまっている。
 4 2.5Y3/1黒褐色砂質同色シート30%混入。ちぢみ崩れる)



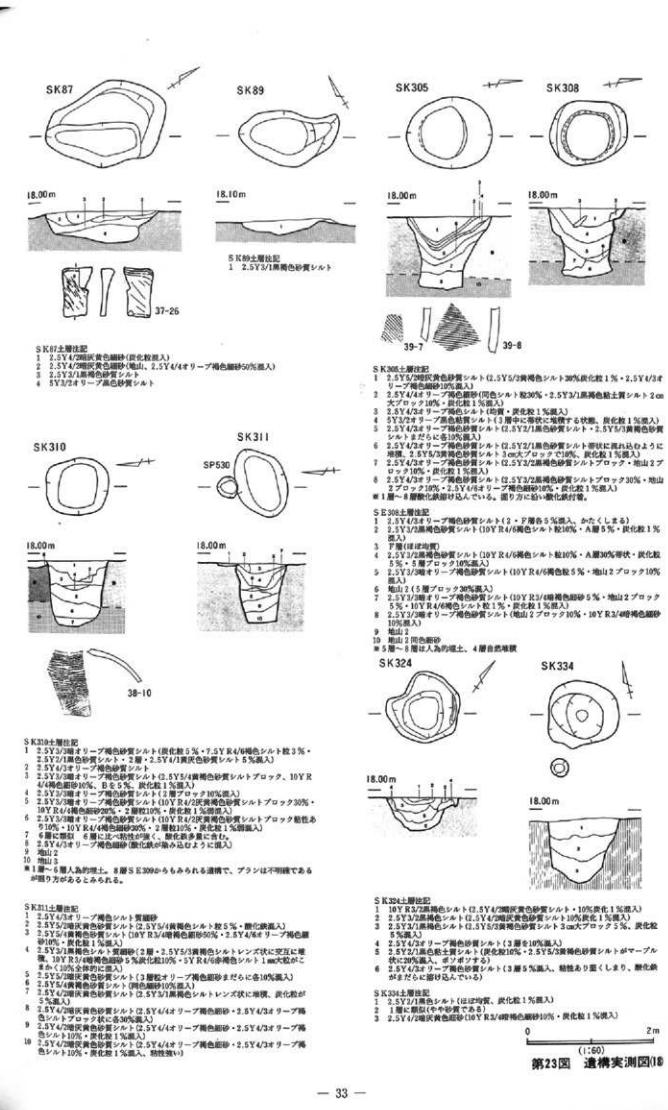
- SK45上層壁記
 1 2.5Y4/1黄褐色砂質シート 0.5Y4/2暗灰褐色砂質シート・A層柱・F柱約10%混入
 2 2.5Y4/1黄褐色砂質シート 0.5Y4/2暗灰褐色砂質シート30%・A層柱・F柱10%混入
 3 2.5Y3/2黒褐色砂質シート 1層30%混入
 4 2.5Y3/3黒褐色砂質シート 1層10%混入・A層柱約10%混入
 5 2.5Y3/2黒褐色砂質シート 0.5Y4/2暗灰褐色砂質シート5~10cm大のブロック混入・A層10%混入
 6 A層柱約10%混入
 7 A層柱柱頭ありほぼ均質、3層5%混入
 8 2.5Y3/1黒褐色砂質シート(炭化鉄5%混入)

- SK39土層壁記
 1 F層11mm厚(10%混入)柱次の割り込みと寄せられ毛
 2 2.5Y4/1黄褐色砂質シート(炭化鉄・褐色板・土層柱 3%混入)
 3 6層に層柱(1層10%混入)
 4 地山に2層柱を10%混入
 5 2.5Y4/2暗灰褐色砂質シート(B層と側壁は、2.5Y4/4リーブ褐色砂質20%・A層柱に層柱と層柱間に5%混入・炭化鉄5%混入)
 6 2.5Y3/2黒褐色砂質シート 0.5Y4/1リーブ褐色砂質30%、割り込み状に炭化鉄5%混入・2.5Y4/2暗灰褐色シートがレンガ状に埋め。酸化鉄が掛け込まれている状況と見らる
 7 1層に層柱(1層6%混入)
 8 2.5Y3/1リーブ褐色砂質シート(粘性あり、2.5Y4/2暗灰褐色シート柱・A層柱柱頭あり)
 9 1層に層柱(1層6%混入)
 10 A層柱(側壁に塊山、1層が5mm大粒で10%混入、土層柱含む)
 11 2.5Y4/4リーブ褐色砂質質細砂(2.5Y4/3リーブ褐色砂質質細砂マードル60%混入)
 12 土柱上にA層柱 5%混入

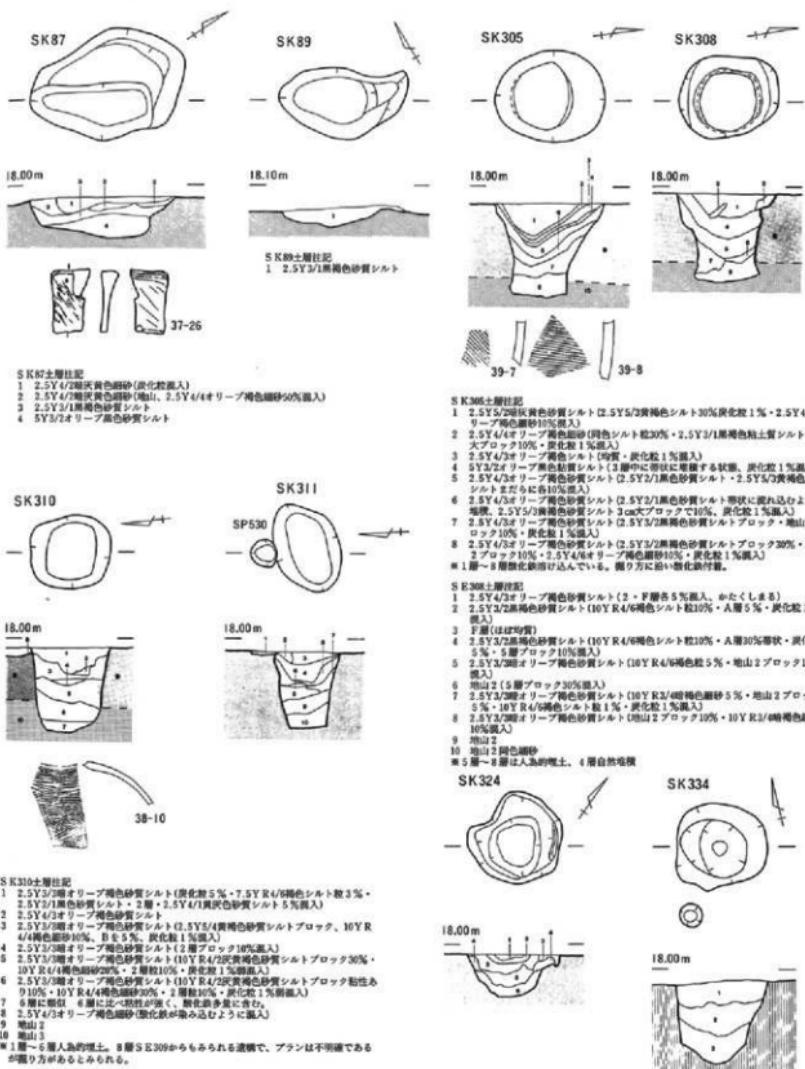
- SK44上層壁記
 1 F層(均質)
 2 5Y6/2リーブ褐色シート(3層10%・炭化鉄5%混入)
 3 2.5Y3/1黄褐色粘土質砂質シート(均質、炭化鉄5%混入)
 4 5Y6/2炭オーブルシート(F層10%・炭化鉄5%混入)
 5 B層(沙質シート・塊山2ブロック30%混入)
 6 B層(沙質シート・塊山2ブロック30%混入)



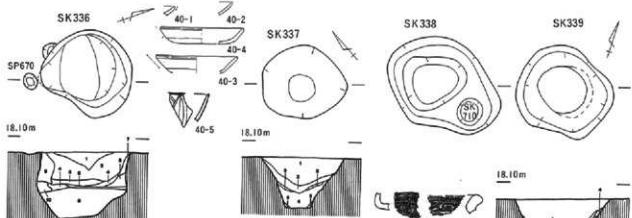
12圖 測量實測圖(1)



第23回 造摺察測図(18)



第23図 遺構実測図(18)



SK336上圖序記

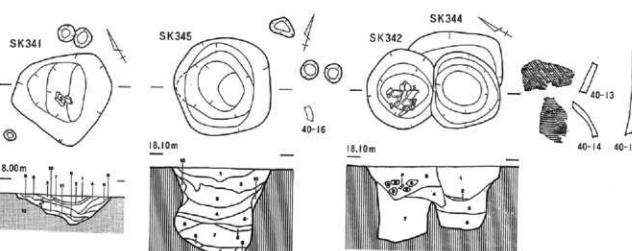
- 40-6

 - 1) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 2) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 3) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 4) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 5) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 6) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 7) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 8) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 9) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 10) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 11) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 12) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 13) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 14) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 15) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 16) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 17) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 18) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 19) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)
 - 20) HY R/Sの薄緑色葉シートトヨ(0.25Y5/3薄緑色葉シート状収納袋)

S K338上層用

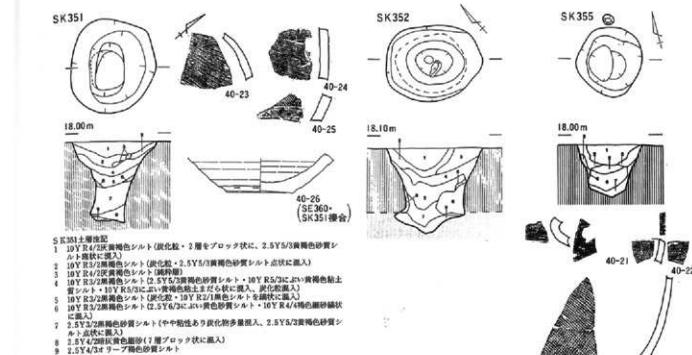
 - 1) 10Y 3/4(薄緑色葉シート) (花被柱 - 2.5Y5/3薄緑色地柱 - 地面緑葉シートを構成する)
 - 2) 2.5Y5/3薄緑色葉シートトヨ(10Y B2/1薄緑色シートを構成する。植木に間に配置する)
 - 3) 2.5Y5/3薄緑色葉シートトヨ(10Y R2/1薄緑色シートを構成する。植木に間に配置する)

SK337土壤检测



SKM1土壤肥

8 KM5土體檢配



S K 351 土壤地記

- 1 10'Y/R4/底面薄色系シート(底面化粧)・2.5SY/R4薄色地黄系シート
2 10'Y/R4/底面薄色系シート(底面化粧)・2.5SY/R4薄色地黄系シート(底面化粧)
3 10'Y/R4/底面薄色系シート
4 10'Y/R4/底面薄色系シート(2.5SY/3薄色地黄系シート(底面化粧))
5 10'Y/R4/底面薄色系シート(2.5SY/3薄色地黄系シート(底面化粧))・10'Y/R4/底面薄色系シート(底面化粧)
6 10'Y/R4/底面薄色系シート(2.5SY/3薄色地黄系シート(底面化粧))・10'Y/R4/底面薄色系シート(底面化粧)
7 2.5SY/2薄色地黄系シート(やや艶有り)底面多量塗り・2.5SY/3薄色地黄系シート(底面化粧)
8 2.5SY/2薄色地黄系シート(やや艶有り)底面多量塗り(マットラッカーに混入)
9 2.5Y/4/2 ラーフ薄色系シート
10 2.5Y/4/2 ラーフ薄色系シート(マット)

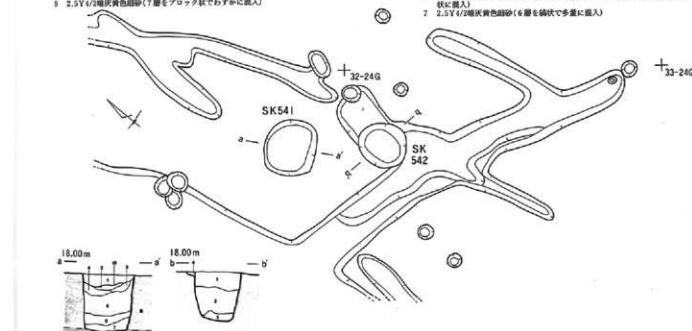
SK352土壤肥料

- 1 10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート(黒斑)、2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(斑点状)に、10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート(黒斑)と2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(黒斑)を重ねて貼り付けた状態。
 - 2 10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート(1層)に上記1を貼り付ける。
 - 3 10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート(1層)に上記2を貼り付ける。
 - 4 10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート(黒斑) (内側)、2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(まだら状)に上記3を貼り付ける。
 - 5 2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(黒斑)、2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(まだら状)を内側、N 7/2 黑色地黒色シート(黒斑)を外側に貼り付ける。
 - 6 2.5Y 5/3 黄褐色地黄褐色シート(1層)10YR 3/4 黄褐色地黄褐色シート、画面をプロトタイプに貼り付ける。補助用テープで固定する。
 - 7 N 7/2 黑色地(BYR 2/3 黑色地黒色) 黃褐色地黄褐色シート(黒斑)に上記6を貼り付ける。

◎ 中国古典文学名著

- S K35S 車体塗装

 - 1) 10YR 3/4 黄褐色セメント (被物化粧紙、10YR 5/4 に比べ黄褐色シルバートーン)
 - 2) N/Z 黒色シート (【車体に上部屋根面に】)
 - 3) 2.5VS 3/4 黑色セメントシルバー調
 - 4) 2.5V/3 黑色地色 (銀色(鏡面)で10YR 4/4 地板を塗装する)
 - 5) 2.5VS 3 黑色セメント (被物化粧紙、3屋根部に塗入)
 - 6) N/Z 黑色シート (7.5T 4/4 地板を被物化粧紙、10YR 2/2 黑褐色シルバートーンに塗入)
 - 7) 2.5V/2 黑色地色 (銀色(鏡面)で上部屋根に塗入)

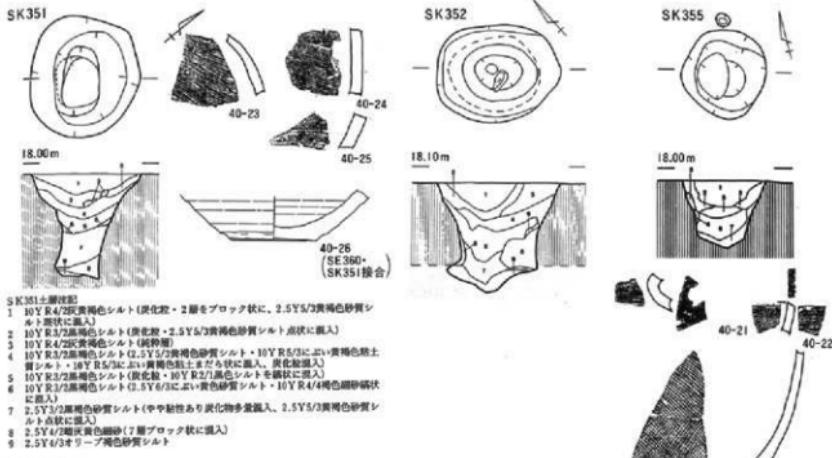


© 2010 Pearson Education, Inc.



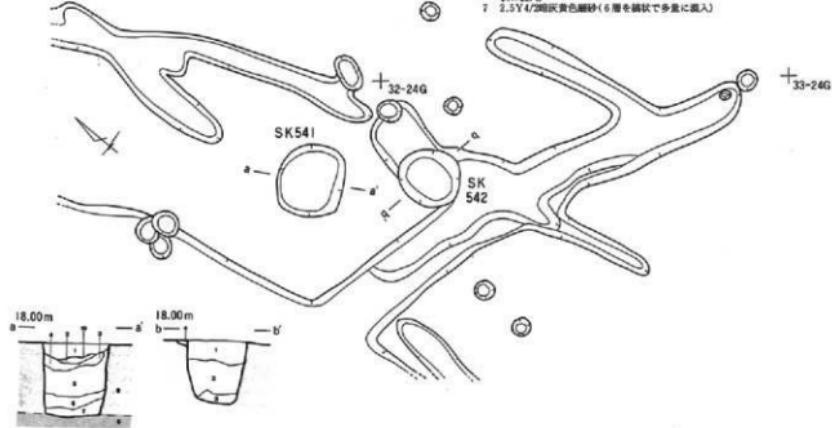
- 34 -

(1:60)



SK350土層記

- 1 10Y R 3/25灰褐色砂質シルト(炭化粘・2.5Y 5/3黄褐色砂質シルト点状に混入)
- 2 10Y R 4/25灰褐色砂質シルト(炭化粘・1層)入)
- 3 10Y R 3/25灰褐色砂質シルト(1層)入)
- 4 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(炭化粘・2.5Y 5/3黄褐色砂質シルト点状に混入)
- 5 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(2.5Y 5/3黄褐色砂質シルトを塊状に混入)
- 6 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(10Y R 5/3に点状に混入)
- 7 2.5Y 4/25灰褐色砂質シルト(塊状に混入)
- 8 2.5Y 6/25灰褐色砂質シルト(塊状に混入)
- 9 2.5Y 4/25灰褐色砂質シルト

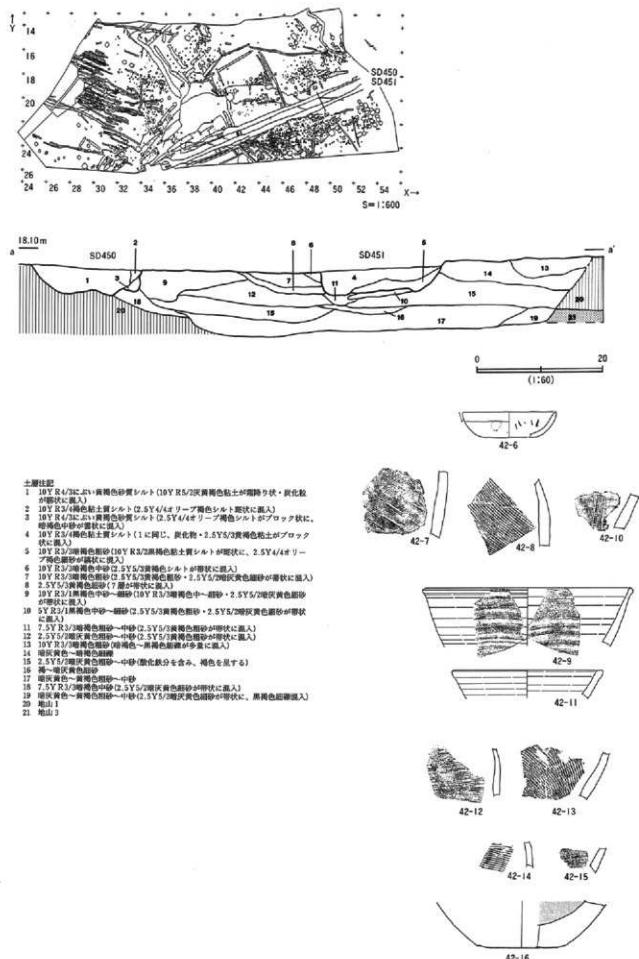


SK541土層記

- 1 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト G.5Y 6/25灰褐色砂質シルト 1%・堆積灰褐色土質シルト粘
2 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(炭化粘 1%混入)
- 2 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(炭化粘 1%・堆積灰褐色土質シルト粘 5%混入)
- 3 2.5Y 4/25灰褐色砂質シルト(1層)入・2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト 10%・2.5Y 5/3灰
4 2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト 30%・1層)入)
- 5 A層(1層)入・2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト(2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト 30%・1層)入)
- 6 10Y R 4/25灰褐色砂質シルト(活性あり、炭化粘 5%・5層 5%・10Y R 4/6
7 10Y R 4/25灰褐色砂質シルト(活性あり、炭化粘 5%・5層 5%・10Y R 4/6
8 堆山
- 9 堆山

SK542土層記

- 1 2.5Y 4/3リード灰褐色砂質シルト (2.5Y 4/3灰褐色砂質シルトブロック30%・
2 2.5Y 5/3リード灰褐色砂質シルト(2.5Y 5/3灰褐色砂質シルト 10%・炭化粘 1%混入)
- 2 2.5Y 4/25灰褐色砂質シルト(炭化粘 1%混入)・リード灰褐色砂質シルト 10%・
3 2.5Y 4/25灰褐色砂質シルト(炭化粘 1%混入)・リード灰褐色砂質シルト 30%・
4 B層
- 5 地山



第28図 造構実測図(2)

IV 出土した遺物

今回の調査では、整理箱約40箱、破片数約15,250点の遺物が出土している。内容は、土器・陶器・磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品である。遺物の時期は、平安時代・鎌倉時代・江戸時代に大きく分けることができる。各時代の遺物の占める割合は、平安時代97%、鎌倉時代2%、江戸時代0.001%となっている。以下、時期毎に内容を概括する。なお、各遺物についての詳細は観察表に譲る。

1 平安時代

平安時代に位置付けられる遺物の出土数は、約14,800点を数える。内容は、土器・土製品である。土器には、須恵器・赤焼土器（須恵器製作技法を用いて、酸化焰焼成しているもの）・黒色土器・土製品には土器が認められた。土器の割合（破片点数）は、須恵器0.03%、赤焼土器99%、黒色土器0.02%で、赤焼土器が非常に多い。平安時代の遺物は、摩滅しているのが特徴で、復元個体は少ない。一括性を示す良好な資料は少ないが、SK175では覆土に遺物がまとまって出土しているため、一括性が高いと判断したい（第26図）。平安時代の遺物は44-50-21-25G、33-35-18-20G、29-16-17G周辺にまとまりが認められるため、今回の調査区での生活の中心もこの区域であったと推定される。

須恵器には、壺・甕・壺がある。無台壺（第29図1・2）は、回転ヘラ切りで底径が大きく外傾度が小さい。有台壺（第29図3）は、高台が内傾し、しっとりとしたタッチでロクロナデが行われている。甕はほとんどが破片資料である。口縁部資料には短く外傾し、口唇部に面を持つものがある（第29図11）。壺は頸部が外傾して立ち上がる。口唇部の形態は多様である。（第29図5～8）。第29図8は、頸部径が大きく第29図3と類似したロクロナデが認められる。赤焼土器には、壺・甕・壺がある。壺は胎土から大きく5つに分類することができる。

①胎土そのものは相対的に良であるが、器面に砂質感を伴う。赤褐色粒・小礫が混入する。色調は橙色を呈する。

②胎土・混入物は①に同じ。色調が白味を帯びる黄橙色を呈することから①と分離した。

③色調・混入物は①に類似する。①に比べ小礫の混入が多く、胎土が粗い。

④胎土そのものは相対的に良であり、器面に砂質感を持たない。黒色粒・小礫が混入する。色調は黄橙色を呈する。

⑤胎土そのものは相対的に精良であり、器面に砂質感を持たず、しっとりとしたロクロナデが施されている。黒色粒微量・小礫が混入する。色調は黄橙色を呈する。

①～③は赤褐色粒を混入し、④・⑤は黒色粒を含むものと大別することができる。各胎土の中での特徴を、観察し以下に述べる。

①は第31図1～12である。1～4は、口径・底径・底部の糸切り痕に類似性が認められ、同一製作の可能性が高い。1～6は底部が突き出し、底部直上部分がやや膨らんで立ち上がる特徴がある。この特徴は、④を除く他の分類の中にも示すものがある。②では第31図13～16、③では口縁部がやや外傾するが第32図7・8、⑤では第33図3～7がこれにあたる。

②は第31図13～18、第32図1～6である。先述の①との類似性を示すもの外に、底径がやや大きく高さが低い第32図3～5がある。厚く直線的な立ち上がりをもつ第32図6は、①の第31図7・8、⑤の第33図7に類似する。

③は第32図7～10である。粗雑な胎土で、特徴的だが固化したものでは、4個体のみである。器形にも共通性は認められない。①とは、胎土の緻密さの違いで分離したが、①には口縁部が外傾するものは認められず注目される。

④は第32図11・12である。全体的に器厚が厚く、重い。体部が直線的に立ち上がる。糸切り痕の細かさも特徴的である。赤焼土器の有台杯第33図12は、④に属する。

⑤は第32図13～20、第33図1～11である。先述した以外は、①とは明らかにつくりが異なる。体部内外面のロクロナデが非常に細かく丁寧である。底部から口縁部への器厚がおおよそ一定で、整っている。

今回の調査での平安時代の遺物の出土状況から、無台杯を遺跡一括ととらえ、胎土を基に観察した。①～⑤を見てみると、分類した胎土内では技法や器形が共通することが多い。それは、製作者の共通性も示す。また、胎土を超えた共通性も認められた。一括性の高いSK175出土遺物についてみると第32図5は②、第32図7は③、第32図11は④、第32図17は⑤と各々異なった胎土を示す。これは、塔の腰遺跡における使用しない廃棄の同時性を示すものと考えられる。

黒色土器で図化できたものは、すべて有台杯である。高台が低く外傾する。内面のミガキは粗雑である。

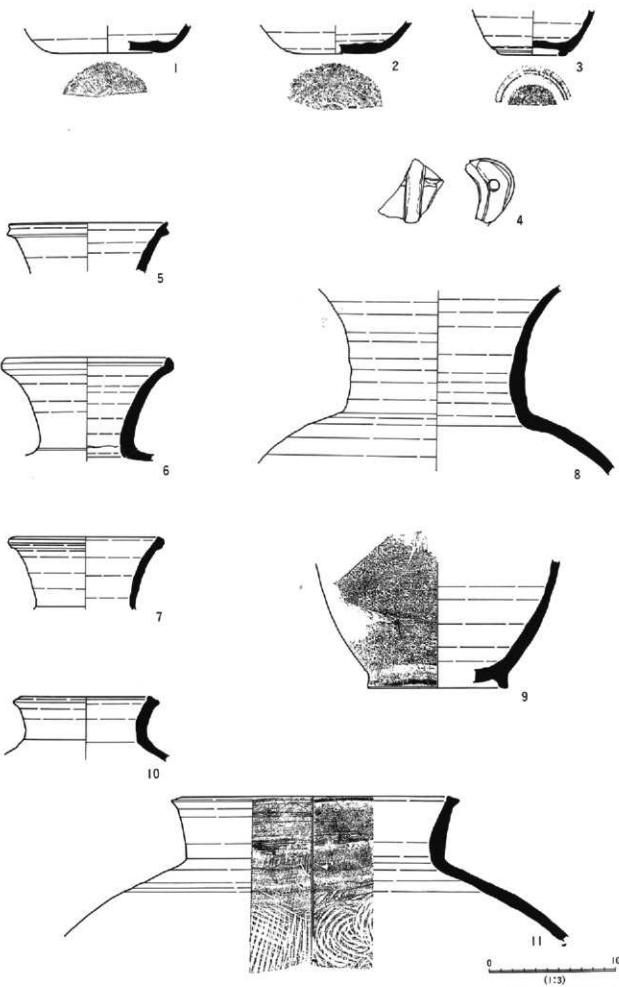
煮炊具である赤焼土器の甕・鍋は、小破片である。底部資料には、丸底のものが多い。甕は口縁部のつくりが簡略で、外傾するもの、緩やかに内傾するものがある。鍋は体部外面に炭化物が残る。甕・鍋についても、無台杯の胎土分類を試みたが、第35図2の⑥以外はすべて①を示す。

2 中世

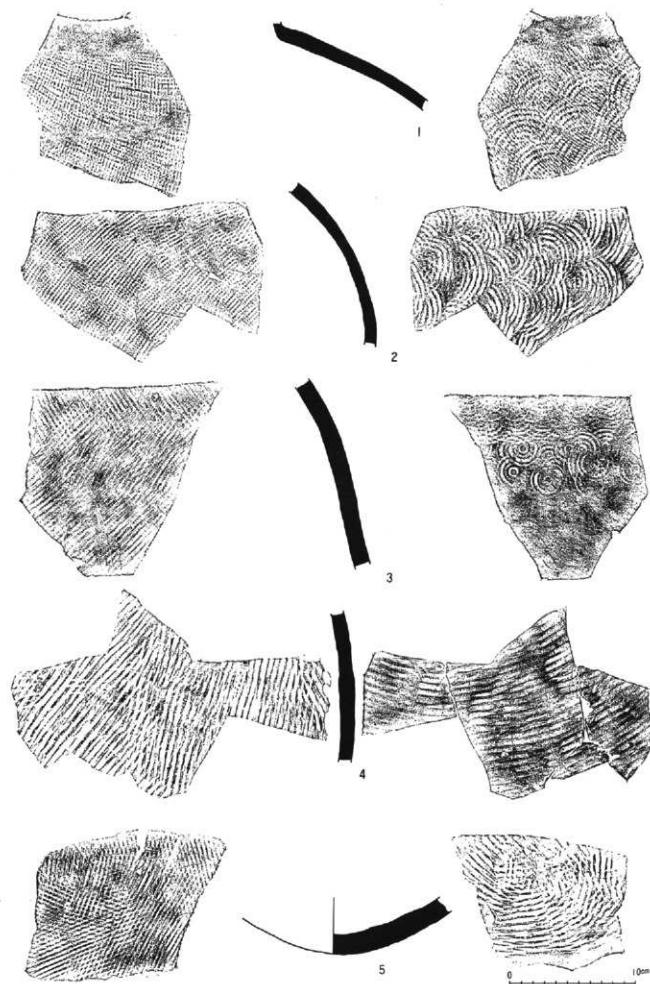
磁器、陶器、土師質土器・石製品・鉄製品・木製品が出土している。溝跡や井戸跡・土坑の覆土や面整理時の出土が多い。中世の遺物と判断したものは、ほとんど図化してある。

磁器は16点出土している。第37図21は、釉調と粘土に鋲きを持つ白磁皿である。細かい貫入と多孔質の胎土を示す。第43図1は白磁碗である。三角の高台が付くもので、見込みに櫛目がみられる。胎土には黒色粒子が混入する。第45図16は、玉縁口縁を持つ白磁碗である。第36図18は口縁端部の青磁碗である。第36図28、第37図23、第40図5・20・27、第43図5・21は青磁碗蓮弁紋碗である。第36図28は見込みに劃花紋を持つ青磁碗、第45図15は蓮弁がやや鈍い盤である。

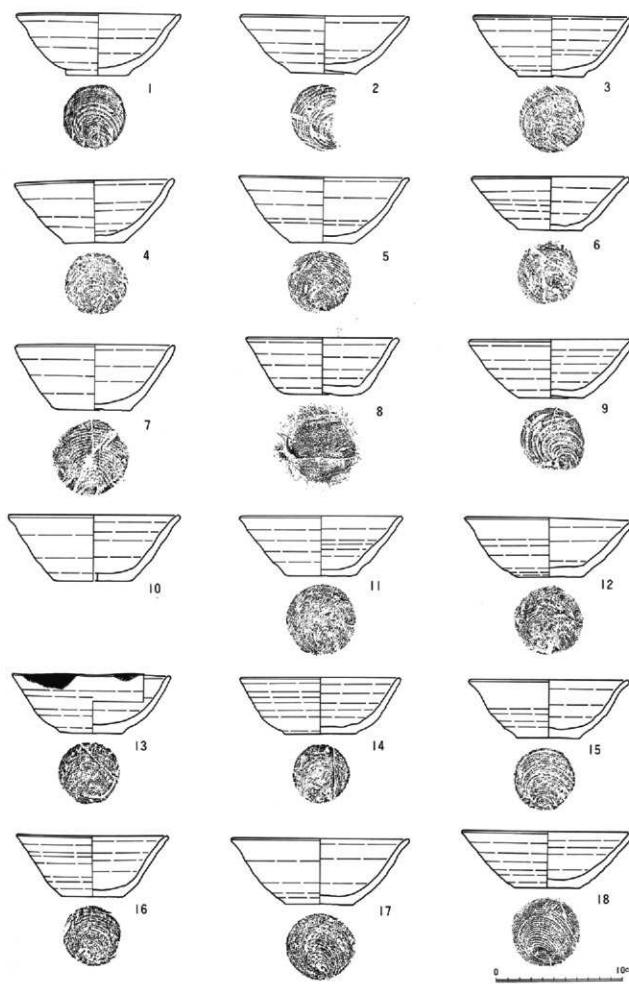
陶器は、202点の破片が出土している。珠洲が177点、胎土がやや粗く珠洲と判断できない須恵器系陶器17点、壺器系陶器8点が出土している(表6)。珠洲を含む須恵器系陶器には、甕・壺・櫃鉢があり、その個体数の割合は、およそ3:1:2である。第41図11は外面に打圧痕、内面にナデ痕を持ち淡い黄緑を呈し、産地不明である。壺器系陶器には体部内外面にナデが見られる甕(第36図2、第37図33・34、第38図2・6・11、第43図10)、内外面褐色で外面に緑色の粒、内面にナデ痕のある甕(第36図4、第43図2・16・23)がある。個体識別で各1個体と判断する。



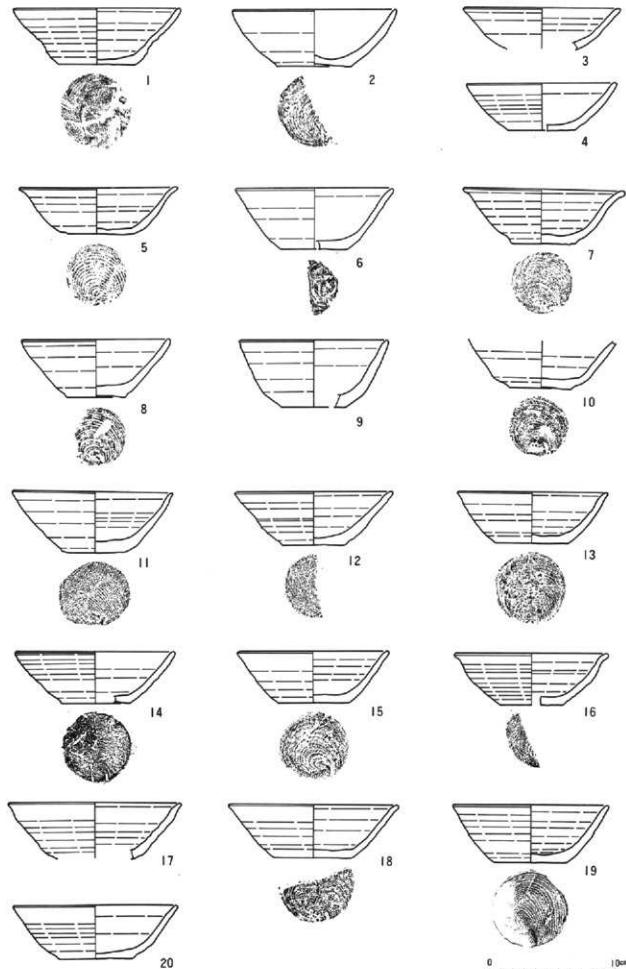
第29図 遺物実測図(1)



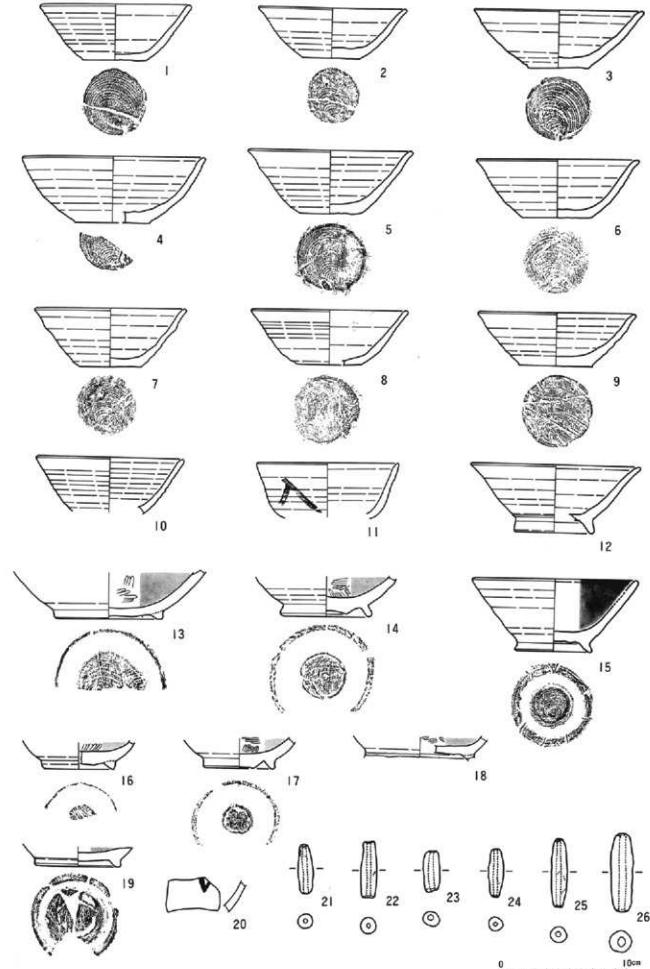
第30図 遺物実測図(2)



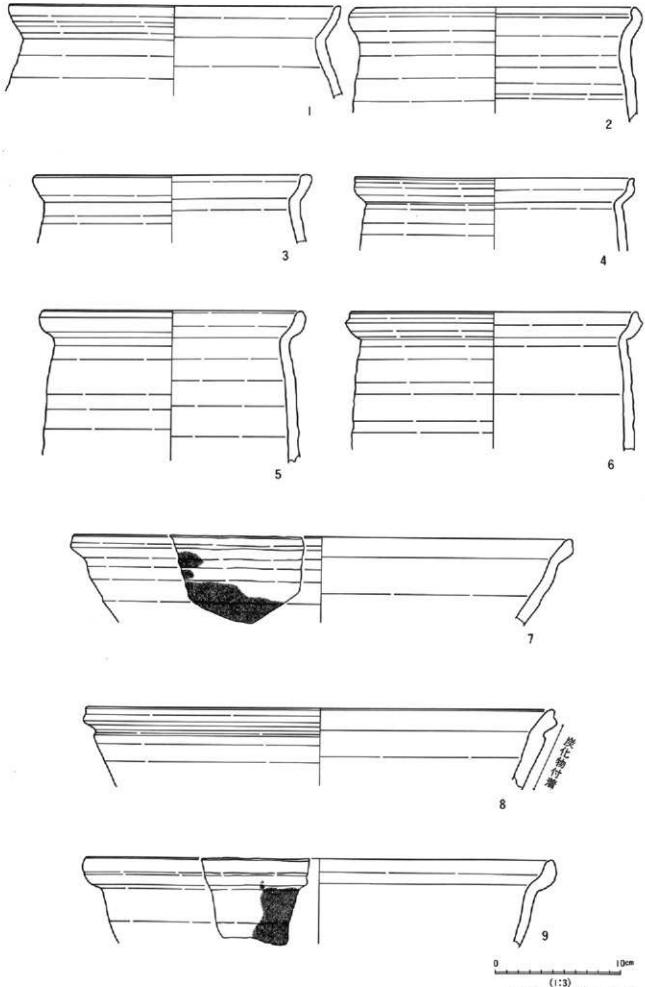
第31図 遺物実測図(3)



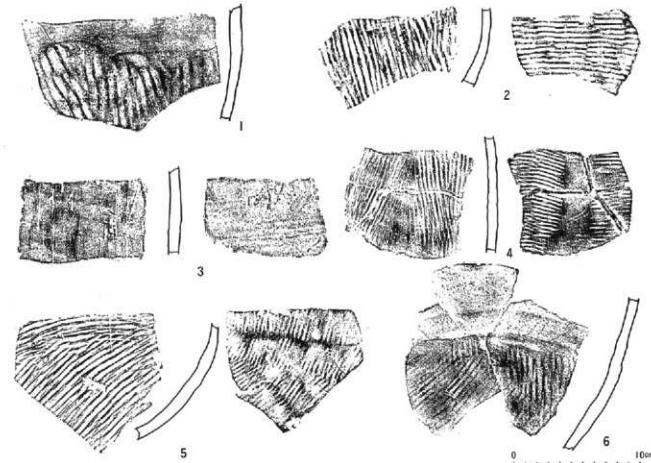
第32図 遺物実測図(4)



第33図 遺物実測図(5)



第34図 遺物実測図(6)



第35図 遺物実測図(7)

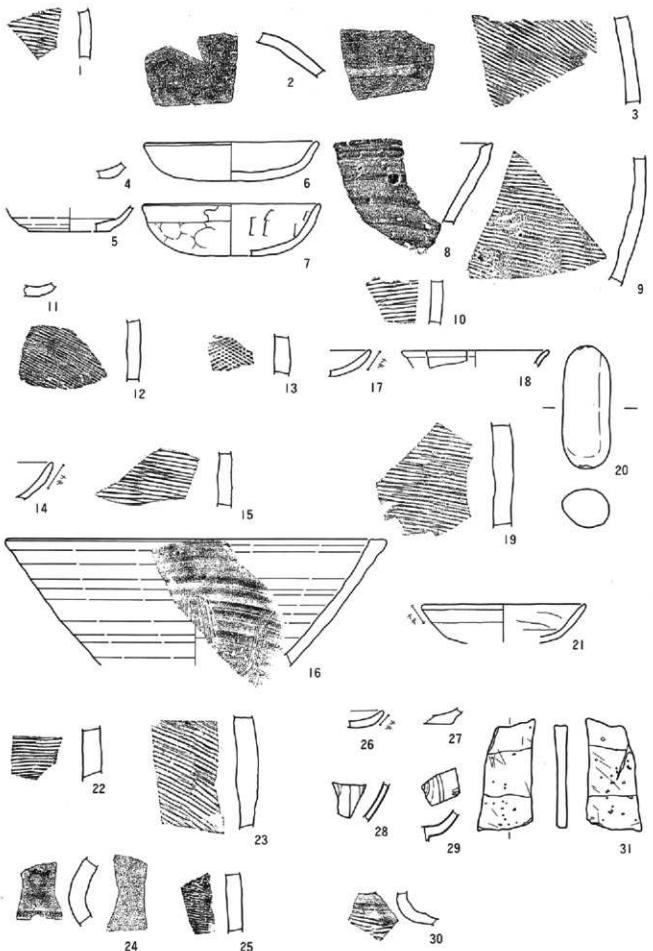
土師質土器皿は破片数91点、個体数44点出土している。ロクロ成形（I類）が4点（第36図5・11・27、第45図7）確認された。第45図7の底部外面には、板状の板目痕がある。てづくね成形（II類）には、口径8cm前後、器高1.5cm前後の小型（II類A）と、口径13cm前後、器高3cm前後の大型（II類B）に分けることができる。小型のものの中でも、第45図1・2のように口縁と底部が明瞭で平行になるもの（II類A 1）と、第45図4・第40図30のように底が弧を描くようなもの（II類A 2）がある。大型には第40図34等のように口縁が直線的に立ち上がるものの（II類B 1）がある。ここには、口端部に面を作り立てる（第40図3・34）。それと別に、体部がやや膨らみを持って立ち上がる第36図7等がある（II類B 2）。てづくね成形では、口縁から体部に1/2～1/3に横ナギが見られる。内底面のナギは不明瞭である。器厚は全体的に薄いが、作り慣れたシャープさが無い。

石製品には、石鉢・砥石がある。石鉢は内面に使用痕、外面にノミ痕が認められる。第45図17は、珠洲の撞鉢（第37図15等）とほぼ規格が等しく、陶器との使い分けが行われていたと推定される。

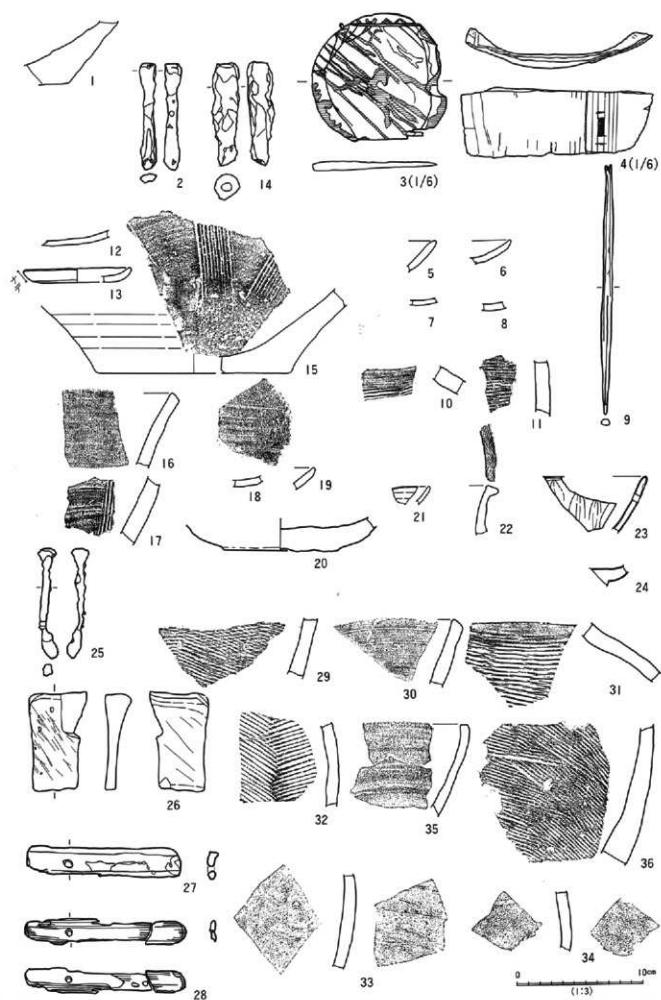
木製品は、井戸跡からの出土している。柄杓・曲物・箸・加工材・井戸部材等である。自然科学分析の結果、井戸部材はスギが用いられていることが分かっている。

鉄製品は、刀子（第45図19）、釘（第37図2・25）、鎌？（第40図37）等である。

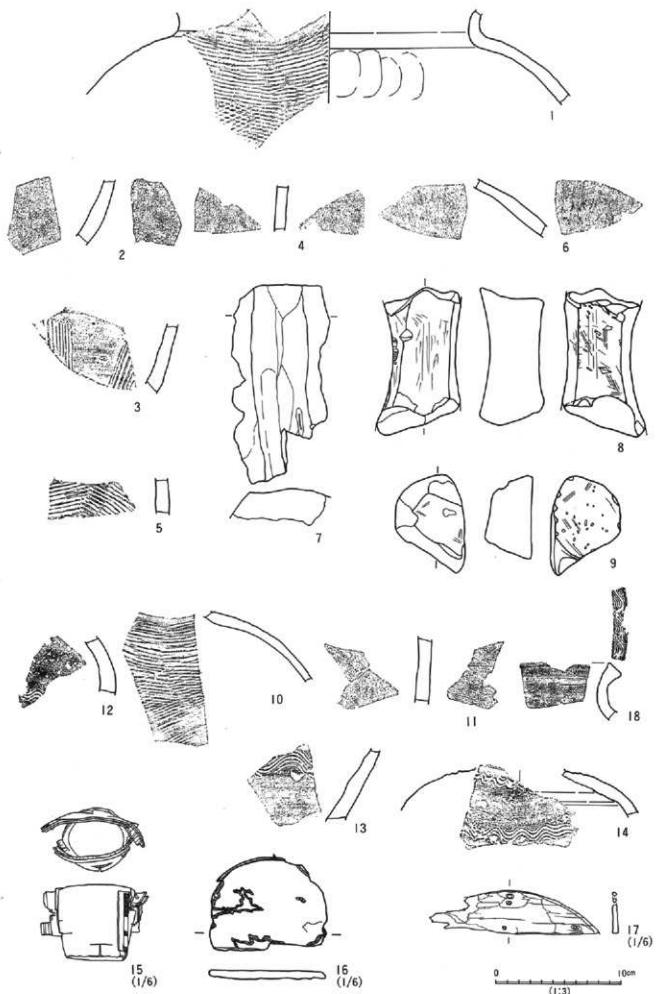
時代が下がる磁器（第42図2）が出土している。外面二重網目文、内面一重網目文、見込みに花弁の染付を持つ。同時期の遺物がII層から15点（図版43）出土している。



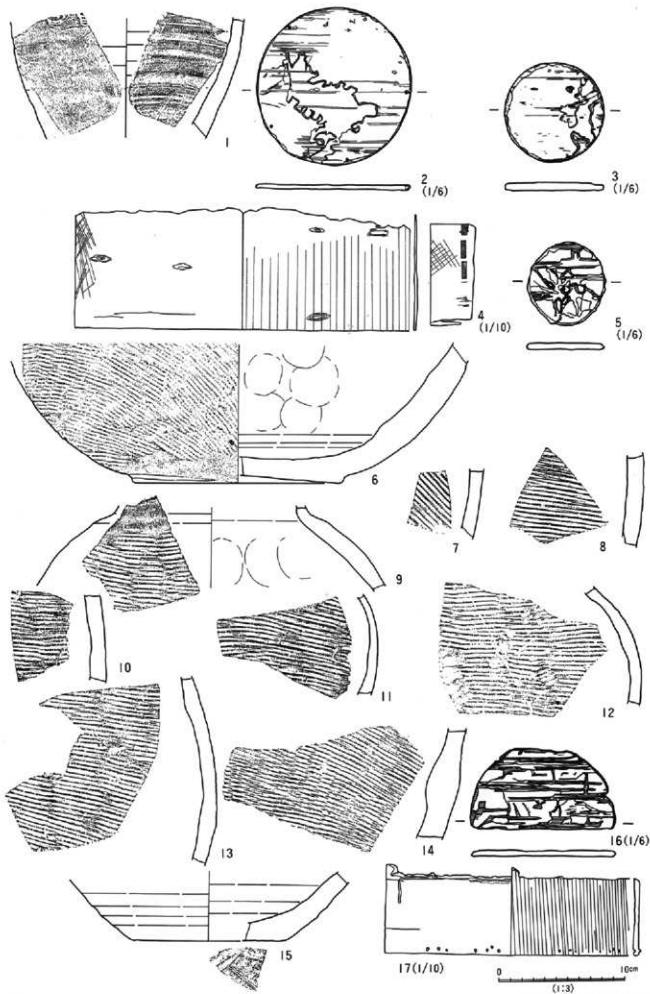
第36図 遺物実測図(8)



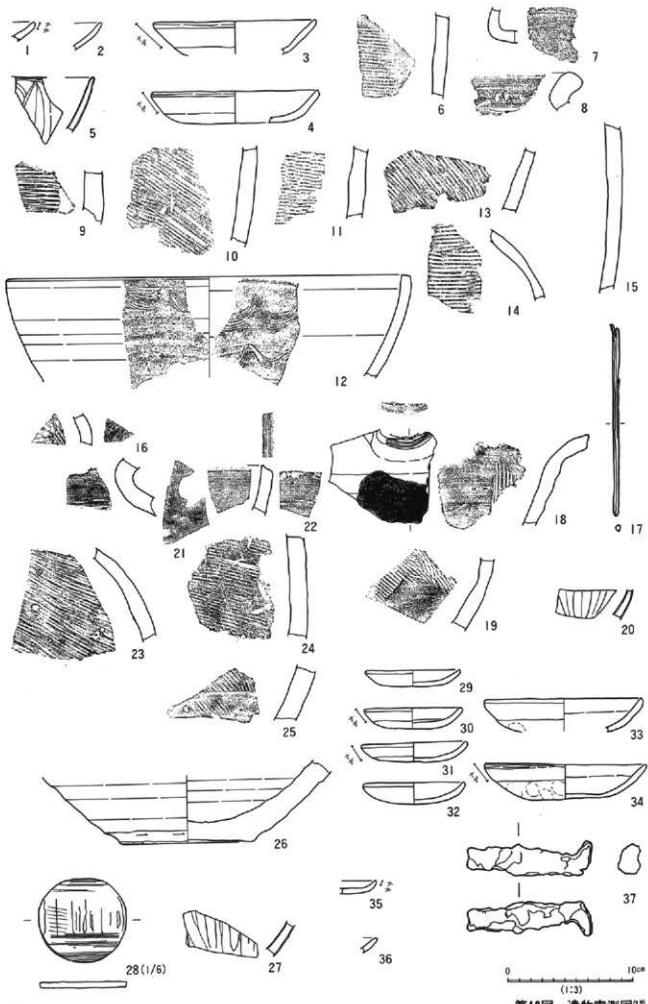
第37図 遺物実測図(9)



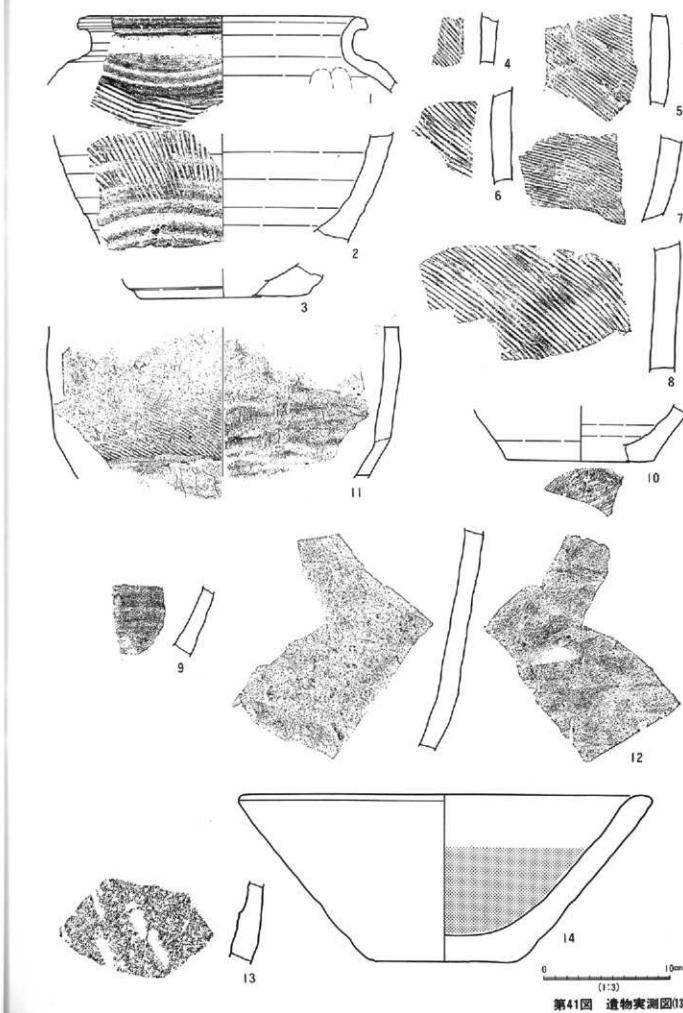
第38図 遺物実測図(10)



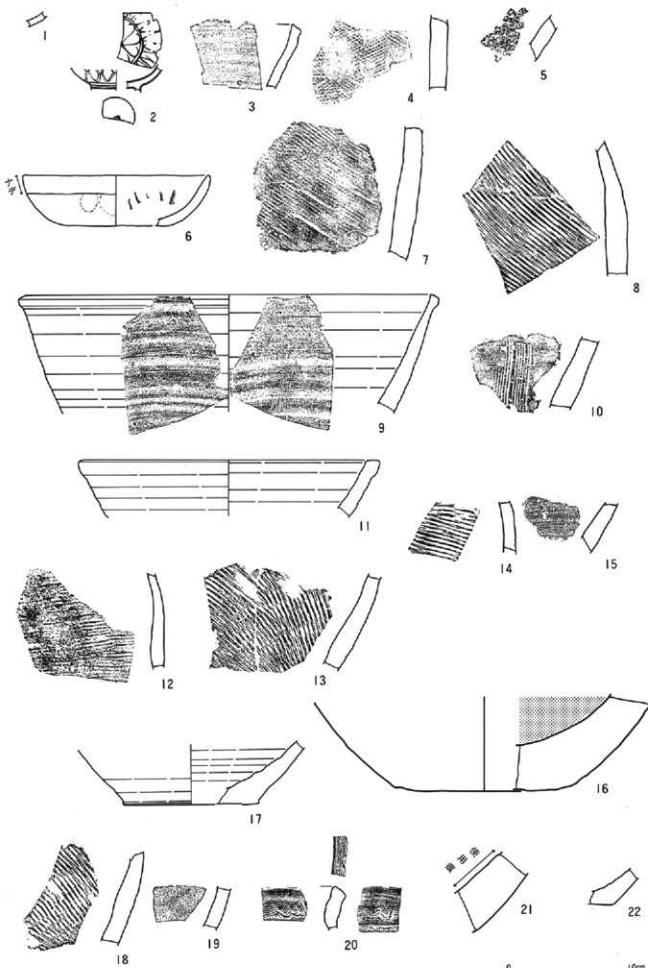
第39図 遺物実測図(11)



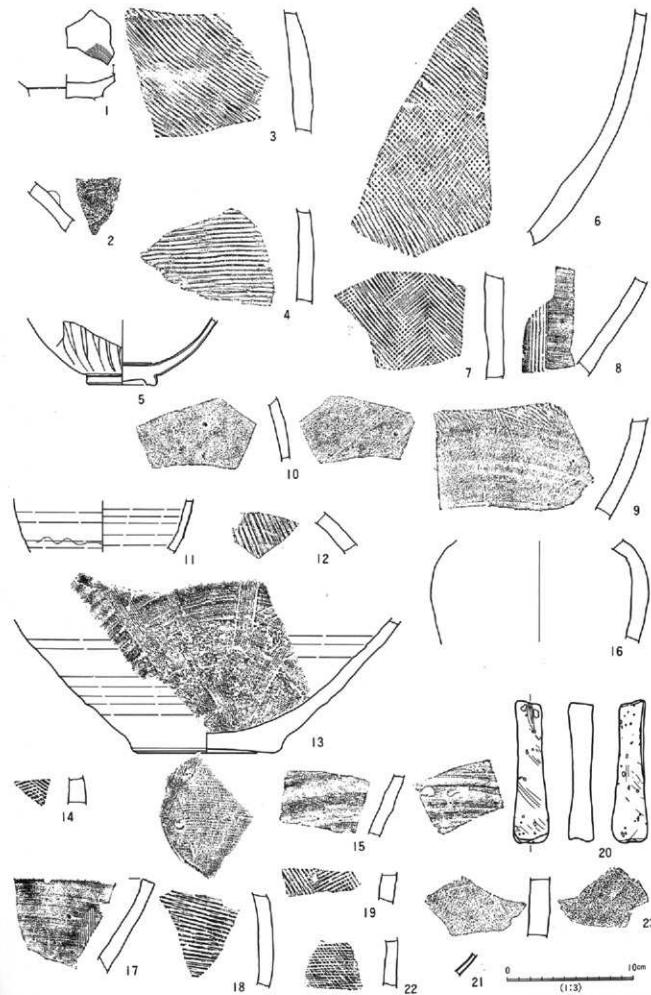
第40図 遺物実測図⑩



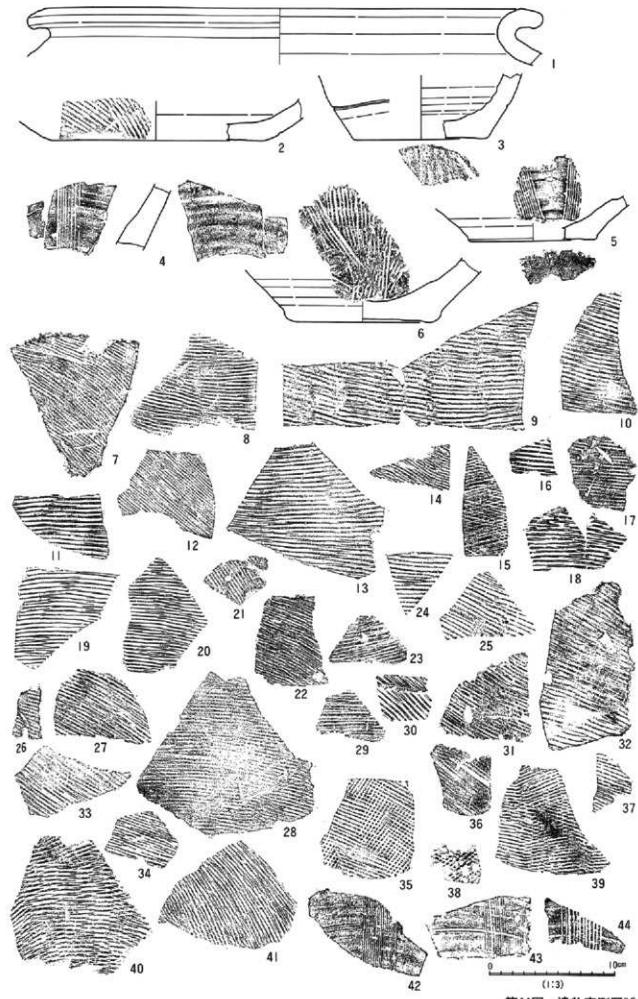
第41図 遺物実測図⑪



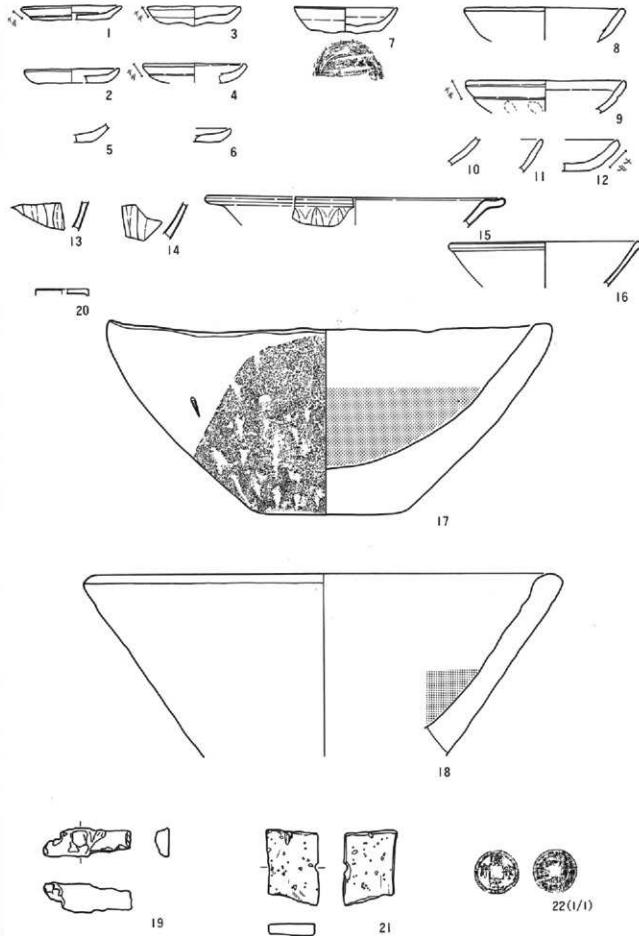
第42図 遺物実測図(4)



第43図 遺物実測図(5)



第44図 遺物実測図(6)



第45図 遺物実測図(7)

表 5 遺物觀察表

探査番号	遺物番号	図版番号	出土土地点	財形・部位	計測値(cm)	出土	色 調	標 号
29	1	26	SD188F(46~29G)	遺物部環 底~体部	底(9.0)	2.5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	10Y5/1K 白色粒・細網 粗粒	赤外線画像データ 底部へ切欠
29	2	26	SK32EF	遺物部環 底~体部	底(6.5)	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	内外側クロナデ 底外側
29	3	26	SD475F	遺物部環付合 底~体部	高台 (5.2)	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	内外側クロナデ 底外側切り 底内側
29	4	26	SD408F(36~19G)	遺物部耳葉 底	5YR1/1K 底 10Y4/1K リーブ自然 地盤	5YR1/1K 白色粒 10Y4/1K リーブ自然 地盤	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒
29	5	26	SK39F SD430F(44~45~21G)	遺物部 口縫~底部	□(12.5)	5YR1/1K 白色粒・底 10Y4/1K リーブ自然 地盤	5YR1/1K リーブ自然 地盤	内外側クロナデ 内面熱
29	6	26	SD106F	遺物部 口縫~底部	□(12.9)	5YR1/1K 白色粒・底 10Y4/1K リーブ自然 地盤	5YR1/1K リーブ自然 地盤	内外側クロナデ 内面熱
29	7	26	SK38F	遺物部 口縫~底部	□(11.5)	5YR2/9リーブ 白色粒	7.5GY4/1暗緑灰 底	内外側クロナデ 内面熱
29	8	26	45~21~2G 45~22G	遺物部 口縫~底部	5YR1/1K 白色粒・底 10Y4/1K リーブ自然 地盤	5YR1/1K 白色粒 10Y4/1K リーブ自然 地盤	内外側クロナデ 内面熱	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒 レトロ リーブ自然
29	9	26	SP753F 29~17~18G	遺物部 全体~底	5YR1/1K 白色粒 底合	5YR1/1K 白色粒 底合	内外側クロナデ 1-3と同一側	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒
29	10	26	29~16G	遺物部 口縫~底部	N5/1K 白色粒	N5/1K 白色粒	隔壁外クロナデ 隔壁内クロナデ 隔壁内タクダ	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒
29	11	26	SK623F 29~32~17~18G	遺物部 口縫~底部	N5/1K 白色粒	N5/1K 白色粒	隔壁外クロナデ 隔壁内タクダ	5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒
30	1	27	25~24G	遺物部 口縫~体部	1.5YR5/1暗 褐色 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒	外側タキ 外側熱	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒
30	2	27	SK318F 31~19G	遺物部 体部	2.5YR1/1K 白色粒・細網 粗粒	2.5YR1/1K 白色粒 10Y4/1リーブ自然地	外側タキ	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒
30	3	26	53~21G	遺物部 体部	5.5YV1/1K 白色粒・細網 粗粒	N5/1K 白色粒	外側タキ	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒
30	4	26	SK47~54F 53~57~45~56~2G	遺物部 体部	5.5YR6/1褐色 白色粒・細網 粗粒	5BG4/1暗青灰 底	外側タキ	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒
30	5	27	SK318F	遺物部 底部	7.5YV1/1K 白色粒・細網 粗粒	7.5YV1/1K 白色粒・細網 粗粒	外側タキ 内面一部ハケム	5YR1/1K 白色地色を出し 白色粒・細網 粗粒
31	1	28	SK174F1 (RP16)	赤土土壌部	□(13.1)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	2	28	31~19G	赤土土壌部	□(13.4)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	3	28	SA623F (RP18)	赤土土壌部	□(13.5)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	4	28	SD653F 45~23G	赤土土壌部	□(12.7)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	5	28	SPS27F	赤土土壌部	□(13.6)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	6	28	SD633F	赤土土壌部	□(12.4)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	7	28	29~16G	赤土土壌部	□(12.7)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR7/6暗黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	8	28	47~20G 47~22G	赤土土壌部	□(12.2)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	9	28	31~19G	赤土土壌部	□(12.9)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	10	28	SPS25F	赤土土壌部	□(12.8)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	11	28	SK148F	赤土土壌部	□(12.6)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	12	28	SK528Y SP232F	赤土土壌部	□(12.4)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	13	28	SD378F(30~23G) (RP11)	赤土土壌部	□(12.7)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/6浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部
31	14	28	SD388F(30~18G) (RP16)	赤土土壌部	□(12.8)	分類① 底端部・小綿 底	7.5YR8/3浅黃 褐色 底端部・小綿 底	内外側クロナデ 底外側き裂目直 底部

探査番号	遺物番号	図版番号	出土地点	断面・部位	計測値(cm)	出土	色 調	備考
31	15	28	5.1~20G	赤土土壌部	□(12.8)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
31	16	28	45~25G	赤土土壌部	□(12.2)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
31	17	28	48~49~1~20G	赤土土壌部	□(11.2)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	10YR7/4暗黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
31	18	28	48~49~1~20G 45~46~25G	赤土土壌部	□(13.6)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出変 底部がやや厚く 高い
32	1	28	SK318F	赤土土壌部	□(13.2)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	2	28	SE84F	赤土土壌部	□(15.0)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/3浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	3	29	SK165F	赤土土壌部	□(12.4)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	4	29	X-0	赤土土壌部	□(12.0)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	5	29	SK175F(RP4)	赤土土壌部	□(12.6)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	6	29	45~25G	赤土土壌部	□(12.5)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	7	29	SK175F(RP5)	赤土土壌部	□(13.0)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6暗 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	8	29	SD18F	赤土土壌部	□(11.8)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6暗 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	9	29	SK148F	赤土土壌部	□(11.5)	分類③ 赤褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/6暗 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	10	29	SK318F	赤土土壌部	□(8.3)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.1	7.5YR7/6暗 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	11	29	SK175F(RP5)	赤土土壌部	□(12.7)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	10YR8/3暗黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	12	29	45~22G	赤土土壌部	□(12.5)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	10YR8/4暗黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	13	29	45~23G	赤土土壌部	□(12.0)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	7.5YR8/4浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	14	29	SD388F(30~18G)	赤土土壌部	□(13.5)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	10YR8/4暗黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	15	29	45~22G	赤土土壌部	□(13.0)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	10YR7/4.5黄 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	16	29	SD388F'	赤土土壌部	□(12.2)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/4浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	17	29	SK175F(RP6)	赤土土壌部	□(13.8)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	7.5YR8/4暗黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	18	29	SD388F	赤土土壌部	□(13.4)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	7.5YR8/4.5白 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	19	29	45~49~1~20G	赤土土壌部	□(13.8)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.3	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
32	20	29	25~25G	赤土土壌部	□(13.8)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.2	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	1	29	47~25G	赤土土壌部	□(13.0)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/4.5白 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	2	29	SK26F	赤土土壌部	□(12.8)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR7/4.5白 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	3	29	SK174F (RP7)	赤土土壌部	□(13.5)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	4	29	45~25G	赤土土壌部	□(12.8)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/4.5白 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	5	29	47~48~2G	赤土土壌部	□(12.9)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	6	29	48~49~1~20G	赤土土壌部	□(12.0)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部
33	7	29	46~47~2G	赤土土壌部	□(12.0)	分類④ 褐色吹き出 高さ4.0	7.5YR8/6浅黃 褐色	内外側クロナデ 底外側吹き出直 底部

探査番号	遺物番号	回叢番号	出土地点	層標・部位	計測値(cm)	胎土	色調	備考
31	15	28	51-20G	赤燒土層坏	□12.8 底5.0 高4.6	分類② 赤褐色板微量・小穢 表面凹凸 良	7.5YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 口縁部や外縫
31	16	28	45-23G	赤燒土層坏	□12.2 底5.0 高5.0	分類② 赤褐色板微量・小穢 表面凹凸 良	7.5YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり
31	17	28	48-49-19+20G	赤燒土層坏	□14.2 底5.5 高4.5	分類② 赤褐色板微量・黑色粒 小穢 良	10YR7/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり
31	18	28	48-49-19+20G 45-46-23G	赤燒土層坏	□12.9 底5.4 高4.6	分類② 赤褐色板微量・小穢 表面凹凸 良	7.5YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 外縁部かくアテ底
32	1	28	SK318F	赤燒土層坏	□13.2 底6.0 高4.5	分類② 赤褐色板・小穢 良	7.5YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 外縁部かくアテ底
32	2	28	SE84F	赤燒土層坏	□13.0 底5.9 高4.3	分類② 赤褐色板多・小穢 良	7.5YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 外縁部下部
32	3	29	SK165F	赤燒土層坏	□12.4 底5.2 高4.8	分類② 赤褐色板微量・小穢 良	7.5YR8/6浅黃橙	内外面クロナデ
32	4	29	X-0	赤燒土層坏	□12.0 底5.2 高3.7	分類② 赤褐色板微量・小穢 良	7.5YR8/6浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 外縁部かくアテ底
32	5	29	SK175F(RP4) 49-22G	赤燒土層坏	□12.6 底5.4 高4.8	分類② 赤褐色板微量・小穢 良 分質部付近	7.5YR8/6浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 外縁部付近
32	6	29	46-22G	赤燒土層坏	□12.5 底5.2 高4.8	分類② 赤褐色板微量・小穢 良	7.5YR8/6浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 内面に茶色の汚れ
32	7	29	SK175F(RP3)	赤燒土層坏	□13.0 底5.4 高4.8	分類③ 赤褐色板・黑色粒 小穢 良	7.5YR7/6堆 口縁部や外縫	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部が突出する
32	8	29	SD139F	赤燒土層坏	□11.8 底4.8 高4.6	分類③ 赤褐色板・黑色粒 小穢 良	7.5YR7/6堆	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部が突出する 壁が厚く重い
32	9	29	SK148F	赤燒土層坏	□11.8 底5.0 高5.4	分類③ 赤褐色板・黑色粒 小穢 粗	7.5YR7/6堆	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部が突出する 壁が厚く重い
32	10	29	SK318F	赤燒土層坏	底4.8	分類③赤褐色・中穢 小穢 良	7.5YR7/6堆	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部が突出する
32	11	29	SK175F(RP5)	赤燒土層坏	□12.7 底4.6 高4.9	分類④ 黑色粒・小穢 良	10YR8/3浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部がやや厚く重い
32	12	29	45-22G	赤燒土層坏	□12.5 底5.0 高4.2	分類④ 黑色粒・小穢 良	10YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 底部が開け出た 底部が突出する 壁が厚く重い
32	13	29	45-23G	赤燒土層坏	□12.0 底5.8 高4.1	分類④ 小穢 良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 底きり頂部が開け出る
32	14	29	SD388F(30-18G)	赤燒土層坏	□12.6 底5.6 高4.2	分類④ 黑色粒・小穢 良	10YR8/4浅黃橙 内外面・底部黒色の汚れ	内外面クロナデ 底外余きり板目底 底きり底部が開け出る
32	15	29	46-22G	赤燒土層坏	□12.0 底5.6 高4.0	分類④ 小穢 良	10YR7/4によい黄	内外面クロナデ 底外余きり板目底
32	16	29	SD388F	赤燒土層坏	□12.2 底5.9 高4.2	分類④ 細穢 良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 底部や外縫
32	17	29	SK175F(RP6)	赤燒土層坏	□13.8 底5.6 高4.6	分類④ 黑色粒・細穢 良	7.5YR8/1褐灰	内外面クロナデ 底部熱
32	18	29	SD388F	赤燒土層坏	□13.4 底6.0 高4.5	分類④ 細穢 良	7.5YR8/2灰白	内外面クロナデ
32	19	29	48-49-19+20G	赤燒土層坏	□12.4 底5.2 高4.5	分類④ 黑色粒・小穢 良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 内面に2.5YR7/8模 様見
32	20	29	26-22G	赤燒土層坏	□12.4 底5.5 高4.2	分類⑤ 小穢 増良	7.5YR8/4浅黃橙 内面-2.5YR6/8模 様見?	内外面クロナデ 底外余きり板目底 底きり底部が開け出る
33	1	29	47-22G	赤燒土層坏	□12.0 底5.2 高4.5	分類⑤ 細穢 精良	7.5YR8/2灰白	内外面クロナデ 底外余きり
33	2	29	SK28F	赤燒土層坏	□11.8 底4.8 高4.0	分類⑤ 黑色粒・精良	7.5YR7/4によい堆	内外面クロナデ 底外余きり 口縁部や外縫
33	3	29	SK174F (RP7)	赤燒土層坏	□13.5 底4.8 高4.6	分類⑤ 黑色粒・小穢 精良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 内面・黑色化
33	4	29	45-22G	赤燒土層坏	□14.6 底5.9 高4.3	分類⑤ 黑色粒・小穢 精良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 内面・黑色化
33	5	29	47-48-22G	赤燒土層坏	□12.9 底4.8 高5.0	分類⑤ 黑色粒・小穢 精良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 口縁部や外縫
33	6	29	48-49-19+20G	赤燒土層坏	□(13.0) 底5.4 高4.6	分類⑤ 黑色粒・小穢 精良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり 口縁部や外縫
33	7	30	46-47-22G	赤燒土層坏	□12.0 底5.0 高4.6	分類⑤ 黑色粒・小穢 精良	7.5YR8/4浅黃橙	内外面クロナデ 底外余きり板目底 口縁部や外縫

探査番号	遺物番号	認定番号	出土地点	断面・部位	計測値(cm)	鉱土	色 調	備考
36	4	32 - 33	SK30F	土師質土器皿		黒色微粒・細粒 良	10YR7/2にぼい黄橙	てづくね?
36	5	33	SK30F	土師質土器皿	底(6.4)	赤褐色微粒・細粒 良	7.5YR8/4にぼい浅黄橙	クロ成形
36	6	33	SK30F	土師質土器皿	口(13.8) 高3.2	細粒 精良	7.5YR8/1灰白	てづくね 横ナデ 内外面に黑色の汚れ
36	7	33	SK33F	土師質土器皿	口(14.0) 高4.0	黒色微粒・細粒 良	7.5YR8/1灰白	てづくね 横ナデ 内外面に黑色の汚れ
36	8	35	SE34F	堆积? 地跡		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・小繩	7.5Y5/1灰	内外面ロクロナデ VI期
36	9	35	SE34F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 黑色灰け出し	5Y6/1灰	外打庄窓内押瓦灰 1-18・3-15・19、44-19+ 25同一
36	10	35	SE34F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 黑色灰け出し	5Y6/1灰	外打庄窓内押瓦灰 36-1・3-15・19、44-19+ 25同一
36	11	33	SK36F	土師質土器皿		赤褐色微粒・細粒 良	10YR8/2浅黄橙	クロ成形
36	12	39	SK36F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒	N4/灰	外打庄窓内押瓦灰
36	13	39	SK38F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒	10Y5/1灰 外NS/灰	外打庄窓内押瓦灰 43-14同一
36	14	32	SK37F	土師質土器皿		精良	10YR8/2灰白	てづくね 横ナデ 口縁部炭化付着
36	15	39	SK37F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細粒	5Y6/1灰	外打庄窓内押瓦灰 36-1・3-10・19、44-19+ 25同一
36	16	34	SK37F SK700F	堆积地跡	口(30.0)	黑色微粒・小繩	N5/灰	11条の繩状紋 使用痕あり 43-11、43-13同一 JV期
36	17	32	SK41F	土師質土器皿		去端色微粒・細粒 精良	7.5YR8/2灰白	てづくね 横ナデ
36	18	卷頭2	SK41F	青磁碗	口(11.7)	黑色微粒	10Y6/1灰	
36	19	39	SK41F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 黑色灰け出し	5Y6/1灰	外打庄窓内押瓦灰 36-1・3-10・15、44-19+ 25同一
36	20	43	SE41F	石製品	長9.6 幅3.7			リュウモン紫 青織部に打痕あり
36	21	33	SK47F	土師質土器皿	口13.0	赤褐色微粒 精良	7.5YR8/1灰白	てづくね 横ナデ 外側に黑色の汚れ
36	22	39	SK49F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細粒	新5Y6/1 内外5Y5/1灰	外打庄窓内押瓦灰 44-20同一
36	23	39	SK54F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細粒		外打庄窓内押瓦灰
36	24	42	SK58F	容器系地跡		黒色微粒・白色微粒	2.5Y7/1灰白 内外背面 黒色 索オーナー	
36	25	39	SK62F	堆积地跡		黒色微粒・白色微粒 細粒	N4/灰	外打庄窓内押瓦灰
36	26	32	SK63F	土師質土器皿		黒色微粒 精良	7.5YR8/2灰白	てづくね 横ナデ
36	27	33	SK63F	土師質土器皿		赤褐色微粒・小繩 良	10YR7/2にぼい黄橙	クロ成形
36	28	卷頭2	SK63F	青磁碗		黑色微粒	5Y7/1灰白 細粒	外体深緑葉井紋
36	29	卷頭2	SK63F	青磁碗		黑色微粒	5Y7/1灰白 細粒	見込み画花紋
36	30	36	SK63F	堆积地跡~体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細粒	N5/灰	外打庄窓 35-1同一 IV期
36	31	43	SK63F	石製品砥石	長8.2 幅4.2			白色泥岩
37	1	39	SK64F	堆积體~底部				
37	2	51	SK66F	石製品釘	長8.5 幅1.3			
37	3	50	SK67F	木製品曲物籠	高(21.0) 厚1.5			
37	4	50	SK67F	木製品曲物	高10.4 幅0.4			
37	5	32	SK68F	土師質土器皿		黒色微粒 精良	7.5YR8/2灰白	てづくね
37	6	32	SK68F	土師質土器皿		黒色微粒多量 精良	7.5YR8/2灰白	てづくね
37	7	32	SK68F	土師質土器皿		黒色微粒 精良	7.5YR8/2灰白	てづくね
37	8	32	SK68F	土師質土器皿		黒色微粒 精良	7.5YR8/2灰白 内面灰色が強い	てづくね
37	9	51	SK68F	木製品箸	長19.5 幅0.6			
37	10	39	SK69F	堆积體~体部		黒色微粒・白色微粒 小繩	新5Y6/2灰オーナー 新5Y4/1灰外SY5/1灰	外打庄窓

辨認番号	遺物番号	記版番号	出土点地	埋藏・部位	計測値(cm)	胎土	色	調 査	備考
37	11	39	SK69F	既掘休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5Y5/1灰	外打压痕	
37	12	33	SK71F	土師質土器皿		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5Y8/3灰白	てづくね	
37	13	33	SK71F	土師質土器皿	口(8.6 幅1.1	黑色微粒 細胞	7.5Y8/3C灰白・模	てづくね 横ナダ	
37	14	51	SK71F	鉄製品	8.1 幅1.9			陶状	
37	15	34	SK71F	輪潤・圓錐	底(15.4)	黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞 海綿骨質・細胞	10Y5/1灰 1.1	内外面クロナダ 1.1 外打壓・余乞り使用痕あり 44-41間	
37	16	39	SK72F	既掘休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y6/1灰	内外面クロナダ IV期	
37	17	39	SK72F	既掘休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5Y6/1灰	内外面クロナダ 1.4 40-18. 41-1間	
37	18	32	SK74F	土師質土器皿		黑色微粒	7.5Y8/3灰白	てづくね	
37	19	32	SK74F	土師質土器皿		黑色微粒多量 細胞	7.5Y8/2灰白	てづくね	
37	20	43	SK74F	石製品石核	底(8.0)			火炎岩	
37	21	モ銀2	SK76F	白粗陶			10Y7/2C灰 細粒	15世紀	
37	22	33	SK78F	既掘休口縫・彌縫		黑色微粒・白色微粒 細胞	10Y5/1灰	口縫彌縫に3条の突状痕 II期	
37	23	モ銀2	SK80F	青磁碗		黑色微粒	5Y7/1灰白 7.5Y7/3模オーリーブ	鑿頭斧紋	
37	24	モ銀2	SK81F	青磁盤		黑色微粒	5Y7/1灰白 7.5Y5/1灰		
37	25	51	SD86F	鉄製品切刃	底8.6 幅0.8				
37	26	43	SK87F	石製品砾石	幅7.6			砂岩	
37	27	51	SE88F	木製品	底12.3 幅2.4			有孔	
37	28	51	SE88F	木製品	底12.7 幅1.9			有孔	
37	29	39	SK84F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 細胞	5Y4/1灰 外2.8GVS/1オリーブ灰	外打压痕内陣压痕 底	
37	30	39	SK94F	侏羅?圓錐		黑色微粒・白色微粒 細胞	10Y5/1	内外面クロナダ IV期	
37	31	39	SD95F	韓州鹿頭一体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	5Y6/1灰	外打压痕内陣压痕 42-14. 44-16. 38-30間	
37	32	39	SD100F	韓州休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y5/1灰 外N4/灰	外打压痕内陣压痕	
37	33	42	SD106F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
37	34	42	SD106F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
37	35	39	SD109F	侏羅?圓錐		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・小穂		内外面クロナダ II期	
37	36	39	SD140F	侏羅?裏側部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5Y6/1灰 外打压痕内陣压痕		
38	1	36	SK187F(4B-21G) 4B-21G	椎州變頭?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N5/1灰 外打压痕内陣压痕	内外面ナデ	
38	2	42	SK189F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
38	3	34	SP220F	侏羅?圓錐		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・小穂	7.5Y8/6C灰 外N4/灰	内外面クロナダ 14-1同	
38	4	42	SP265F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
38	5	40	SK280F	椎州休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・小穂	N6/灰 外打压痕内陣压痕		
38	6	42	SP282F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
38	7	43	SP297F	石製品	高15.4 幅7.4			褐狀質色岩	
38	8	43	SP297F	石製品砾石	高16.6 幅8.0			白色彩	
38	9	43	SK313F	石製品砾石	高6.5 幅5.5			砂岩	
38	10	40	SK310F	侏羅?変頭部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/灰 外Y5/1灰	外打压痕内陣压痕 N4/灰内側付裏	
38	11	42	SK313F SK311F	姿形系裏休部		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	10Y7/4C灰 にい・黄緑	内外面ナデ	
38	12	33	SE322F	侏羅?翼脚形		黑色微粒・白色微粒 細胞	7.5Y7/1灰白 外N4/灰	外面に3条以上の突状痕 内側付裏	

辨認番号	遺物番号	回収番号	出土点地	埋藏・部位	計測値(cm)	胎土	色	調 査	備考
38	13	33	SE323F	侏羅?翼脚形		黑色微粒・白色微粒 細胞	7.5Y7/1灰白 N7/04/1灰		外側に8条の波状紋 外側黒斑
38	14	33	SE323F	侏羅?翼脚形		黑色微粒・白色微粒 細胞	N7/04/1灰 N7/6/灰		外側に8条の波状紋 外側黒斑
38	15	50	SE323F	本製品柄円	底12.3 幅9.3 高11.8				板側面の留め具
38	16	50	SE323F	本製品曲面	径18.4 厚1.4				木製の留め具
38	17	50	SE323F	本製品	厚0.8				有孔
38	18	33	SE325F	侏羅?底部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	断面7.5Y5/1灰 内底9.7.5Y5/1灰		口縫端に9条の波状紋 外側黒斑
39	1	33	SE301F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y4/1灰		外面に4条以上の波状紋
39	2	50	SE301F	木製品曲面	径24.6 厚0.8				有孔
39	3	50	SE303F	木製品曲面	底15.6 厚1.2				
39	4	51	SE303F	木製品曲面	底(9.0)				板側面の留め具
39	5	50	SE304F	木製品曲面	底13.2 厚1.0				
39	6	36	SE304F (KPI12)	侏羅?休部-底部	底(15.6)	黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y6/1灰		外打压痕内陣压痕 間にやぶみあり 44-27間
39	7	40	SK305F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/灰 外打压痕内陣压痕 29-6. 41-5-6. 8-3間		
39	8	40	SK305F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/K 外打压痕内陣压痕 11-7. 11-11. 12-12間		
39	9	38	SE306F	侏羅?底部-脚部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y5/1灰		外打压痕内陣压痕 39-10. 13. 40-23. 43-12間
39	10	38	SE309F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/K		外打压痕内陣压痕
39	11	38	SE309F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/K		外打压痕内陣压痕
39	12	38	SK309F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y5/1灰外N4/灰		外打压痕内陣压痕ナデ 内側に黑色の汚れ
39	13	38	SE309F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	N6/K		外打压痕内陣压痕ナデ 内側に黑色の汚れ
39	14	38	SE309F	侏羅?休部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	10Y5/1灰 内底9.8/1灰 外N4/灰		外打压痕内陣压痕 内側に黑色の汚れ
39	15	36	SE309F	侏羅?底部	底(12.0)	黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨質・細胞	N5/K		外外底にクレタ 内側に黑色の汚れ
39	16	50	SE309F(KW15)	木製品曲面	底(2.2) 厚0.4				
39	17	51	SE309F	木製品曲面	底(6.0) 厚0.4				
40	1	32	SK326F	土師質土器皿		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	7.5Y8/2灰白		てづくね 横ナダ
40	2	32	SK326F	土師質土器皿		黑色微粒・赤褐色微粒 小穂	7.5Y8/1灰白		てづくね 横ナダ
40	3	32	SK326F	土師質土器皿	口(13.0)	黑色微粒	10YR8/3灰黃微		てづくね 横ナダ
40	4	33	SK336F	土師質土器皿	口(12.2) 底2.3	黑色微粒・赤褐色微粒 多量	7.5Y8/2灰淡黄微		てづくね 横ナダ 外側黒斑
40	5	32	SK336F	青磁碗		黑色微粒	5Y7/1灰 内底9.8/1灰		調頭弁枚
40	6	40	SK339F	稚形?		黑色微粒	10Y5/1灰		外打压痕
40	7	40	SK339F	稚形?		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨質・小穂	N6/J灰 N7.5Y5/2灰海		外打压痕内陣压痕
40	8	40	SK339F	稚形?		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5YS/1灰		
40	9	35	SK357F	稚形?		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・細胞	7.5Y8/1灰 内底9.7-10.2-11.4-12.1-13.4-14.4-15.6-16.6-17.7-18.6-19.6-19.8-20.2-21.2-22.2-23.2-24.2-25.2-26.2-27.2-28.2-29.2-30.2-31.2-32.2-33.2-34.2-35.2-36.2-37.2-38.2-39.2-40.2-41.2-42.2-43.2-44.2-45.2-46.2-47.2-48.2-49.2-50.2-51.2-52.2-53.2-54.2-55.2-56.2-57.2-58.2-59.2-60.2-61.2-62.2-63.2-64.2-65.2-66.2-67.2-68.2-69.2-70.2-71.2-72.2-73.2-74.2-75.2-76.2-77.2-78.2-79.2-80.2-81.2-82.2-83.2-84.2-85.2-86.2-87.2-88.2-89.2-90.2-91.2-92.2-93.2-94.2-95.2-96.2-97.2-98.2-99.2-100.2		
40	10	35	SK346F	稚形?		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・小穂	10Y5/1灰		外打压痕内陣压痕
40	11	35	SK346F	稚形?		黑色微粒・白色微粒 海綿骨質・小穂	N5/灰		
40	12	33	SK346F	稚形?		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨質・小穂	10Y5/1灰		内外底に4-8条の波状紋 I期?
40	13	35	SK342F	稚形?		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨質・小穂	N5/灰		外打压痕内陣压痕

標識番号	遺物番号	回収番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	胎土	色調	備考
38	13	33	SE323F	椎潤? 頭部		黒色微粒・白色微粒 細繩	7.5Y7/1灰白 外10Y4/1灰	外面に8条の波状紋 外面被熱
38	14	33	SE323F	椎潤? 頭部		黒色微粒・白色微粒 赤褐色・細繩	N7/1灰 外N6/灰	外面に4条の波状紋 外面被熱
38	15	50	SE323F	木製品物類	□(12.2) 厚9.4 高11.8			桜樹皮の留め具
38	16	50	SE323F	木製品曲物底	径18.4 厚1.4			木製品の留め具
38	17	50	SE323F	木製品	厚0.8			有孔
38	18	33	SE325F	椎潤直口頭部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	所面7.5Y6/1灰 内面7.5Y3/1灰	口縁端部に9条の波状紋 外面被熱
39	1	33	SE301F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y4/1灰	外面に4条以上の波状紋
39	2	50	SE301F	木製品曲物底	径24.6 厚0.8			有孔
39	3	50	SE303F	木製品曲物底	径15.8 厚1.2			
39	4	51	SE303F	木製品曲物	径(90.0)			桜樹皮の留め具
39	5	50	SE304F	木製品曲物底	径13.2 厚1.0			
39	6	36	SE304F (RP12)	椎潤直体～底部	径(15.6)	黒色微粒・白色微粒 細繩骨針・細繩	10Y6/1灰	外打圧痕内押圧痕 底にゆがみあり 44-27同 一
39	7	49	SK305F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕 39-8, 41-1~3・6・同一
39	8	49	SK305F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕 11-7と同一
39	9	38	SE309F	椎潤直頭基～背部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕 39-10~13, 40-23, 43-12同 一
39	10	38	SE309F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕
39	11	38	SE309F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕
39	12	38	SK309F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰外N5/灰	外打圧痕内押圧痕ナダ 外面に黒色の汚れ
39	13	38	SE309F	椎潤直体部		黒色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕ナダ 外面に黒色の汚れ
39	14	38	SE309F	椎潤直体部		黒色微粒多量・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/1灰	外打圧痕内押圧痕
39	15	36	SE309F	椎潤直頭部	高(12.0)	黒色微粒多量・白色微粒 海綿骨針・細繩	N5/灰	外打圧痕内押圧痕ナダ 外面部少々なり 背面に黒色の汚れ
39	16	50	SE309(RW15)	木製品曲物底	径(23.2) 厚1.0			
39	17	51	SE309F	木製品曲物	径(65.0) 厚0.8			
40	1	32	SK336F	土師質土器皿		黑色微粒・赤褐色微粒 粗糸	7.5YR8/3灰白	てづくね 横ナダ
40	2	32	SK336F	土師質土器皿		黑色微粒・赤褐色微粒 粗糸	7.5YR8/1灰白	てづくね 横ナダ
40	3	32	SK336F	土師質土器皿	□(13.0)	赤褐色微粒 粗糸	10YR8/3浅黄橙	てづくね 横ナダ
40	4	33	SK336F	土師質土器皿	□(13.2) 高2.5	黑色微粒・赤褐色微粒 粗糸	7.5YR8/3浅黄橙	てづくね 横ナダ 内面被熱
40	5	卷頭2	SK336F	青磁碗		黑色微粒	5Y7/1灰白 補10G6/1銀灰	錦襷弁紋
40	6	49	SK339F	椎潤? 体部		黑色微粒多量・白色微粒 小繩	10Y5/1灰	外打圧痕
40	7	49	SK339F	椎潤? 体部		黑色微粒多量・白色微粒 小繩	N4/灰 断7.5Y5/2灰褐	外打圧痕内押圧痕
40	8	49	SK339F	椎潤直口縁部		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y5/1灰	
40	9	35	SK337F	椎潤体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰 外5Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕
40	10	35	SK340F	椎潤体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・小繩	7.5Y6/1灰	外打圧痕内押圧痕 37-38, 40-24, 42-7, 44-17・ 28同一
40	11	35	SK340F	椎潤? 体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・小繩	10Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕
40	12	33	SK340F	椎潤? 繩部		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨針・小繩	10Y5/1灰	内外面にクロナダ 外面部に4~8条の波状紋 1期?
40	13	35	SK342F	椎潤體部		黑色微粒多量・白色微粒 海綿骨針・小繩	N5/灰	外打圧痕内押圧痕

辨认番号	遺物番号	回叢番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	地 土	色 調	備 考
40	14	35	SK342F	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・小標	7.5Y5/1灰	外打庄内・内押正
40	15	35	SK342F	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	外打庄内・内押正・外側微熱 墨吹き出し・海螺骨 計・小標
40	16	40	SK345F	津洲？壹脣部		黒色微粒・白色微粒	N5/灰	外打庄内・内押正 44-38cm同一
40	17	51	SE350F	木製品・筒	長15.1 幅0.4			
40	18	34	SE350F	津洲壹脣・口部		黒色微粒・白色微粒	7.5Y6/1灰	内外面クロナダ 陶器骨格・中標
40	19	40	SK353F	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N6/灰	外打庄内・内押正
40	20	2	SK354F	青磁瓶		黒色微粒	5Y7/1灰白	外体部蘿蔓卉
40	21	35	SK355F	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	内外面クロナダ 陶器骨格・中標
40	22	35	SK355F	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10YR5/1灰	内外面クロナダ 陶器骨格・中標
40	23	35	SK351F	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰	外打庄内・内押正・ナダ
40	24	35	SK351F	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・小標	7.5Y6/1灰	外打庄内・内押正・壁 37-36, 40-10, 42-7, 44-17, 23cm同一
40	25	35	SK351F	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	N6/灰 外NS灰	外打庄内・内押正
40	26	36	SE360F SK351F	津洲壹脣部	底(16.0)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N5/灰	内外面クロナダ
40	27	2	SE360F	青磁瓶		黒色微粒	5Y5/1灰 糊7.5Y6/2灰オリーブ	蘿蔓卉
40	28	50	SE360F	木製品・筒物	高1.9 幅1.9			
40	29	33	SK357F	土御賀土唇部	D1(1.4) 高1.2	黑色微粒 陶器骨格・小標	7.5YR8/1灰白	てづくね・口部被拂ナダ
40	30	33	SK357F	土御賀土唇部	D7.8 高1.6	黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね・内外付拂ナダ
40	31	33	SK357F	土御賀土唇部	D8.4 高1.6	黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね・内外付拂ナダ
40	32	33	SK357F	土御賀土唇部	D8(0.8) 高1.6	黑色微粒・赤褐色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね・内外付拂ナダ
40	33	32+33	SK357F	土御賀土唇部	D12(4.4) 高2.8	黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね
40	34	33	SK357F	土御賀土唇部	D12(3.8) 高2.8	黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね・内外付拂ナダ
40	35	32	SK359F	土御賀土唇部		黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/1灰白	てづくね・口部被拂ナダ
40	36	32	SK359F	土御賀土唇部		黑色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね
40	37	51	SD367F	鉄製品・筒	高9.9 幅2.4			
41	1	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣口縫・部	D(21.4)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・小標	N6/灰	外打庄内・内押正 外打庄内・ロナダ
41	2	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	外打庄内・内押正 内圓黑色の汚れ
41	3	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部	底(13.0)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	内圓黑色化 内圓黑色の汚れ
41	4	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰	外打庄内・内押正
41	5	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰 糊7.5Y3/1オリーブ	外打庄内・内押正
41	6	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	外打庄内・内押正
41	7	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1R 外NS/灰	外打庄内・内押正
41	8	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	5Y6/1灰	外打庄内・内押正 内圓黑色の汚れ
41	9	41	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y5/1灰	内外面クロナダ 内圓黑色の汚れ
41	10	36	SD408F(36-19G)	津洲壹脣部	底(1.6)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y6/4灰 糊7.5Y5/2灰	内外面クロナダ
41	11	36	SK314F SD408F(32-19G)	津洲壹脣部・一部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y6/4灰 糊7.5Y5/2灰	外打庄内・内押正 内NS灰
41	12	42	SD408F(46-26G) SD408F(31-19G)	亞瑟系系統		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	前中央N4灰 糊7.5Y4/3灰 糊7.5Y5/2灰	ナダ 前中央ナダ 内圓黑色の汚れ
41	13	43	SD408F(36-19G)	石製品石斧				砂岩

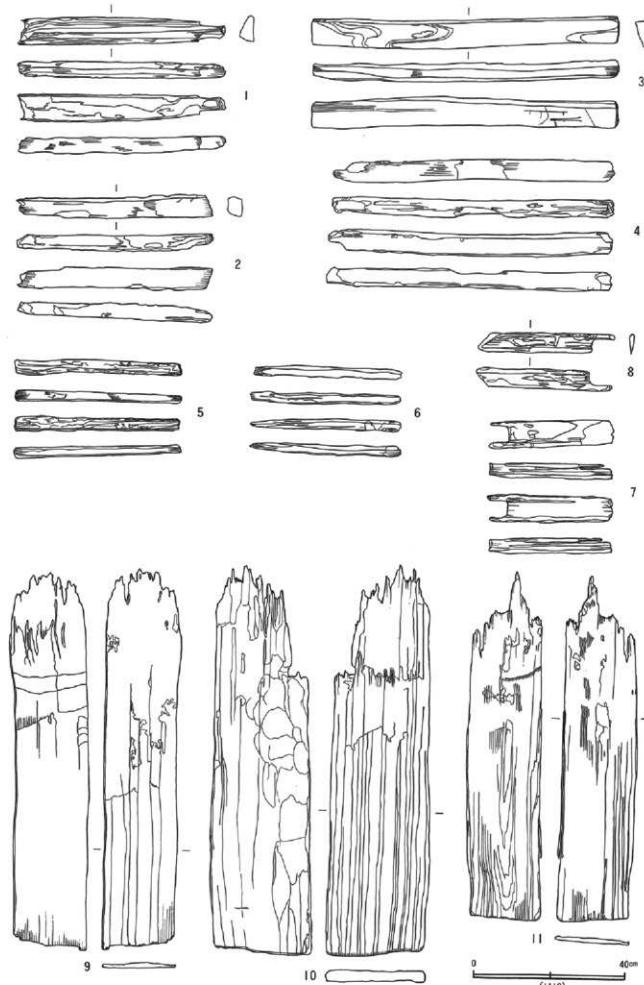
辨认番号	遺物番号	回叢番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	地 土	色 調	備 考
41	14	43	SD408F(31-16G) SD408F(31-17G)	石製品石斧	口(32.7) 幅1.6 高13.3	黒色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y8/2灰白	内面用灰 砂岩
42	1	32	SD413F	土御賀土唇部		赤褐色微粒 陶器骨格・中標	7.5YR8/2灰白	てづくね
42	2	43	SD424F(29-29G)	近世鐵劍			7.5Y7/1灰白 外画二重刃口 外画一重刃口 朱込刀身、高内合銅鏡不明	
42	3	40	SD446F	珠潤磨片		黒色微粒 陶器骨格・中標	10YR5/1灰	内外面クロナダ
42	4	40	SD447F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N4/灰 新10Y7/1灰白	外打庄内・内押正 42-22同一
42	5	38	SD447F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	SY5/2灰/1リーパ 内外面クロナダ	
42	6	33	SD451F(41-23G)	土御賀土唇皿	口(14.5) 高4.0	黒色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y8/2灰白	内外面クロナダ 内面へ底 内外面黑色の汚れ 外面指
42	7	37	SD450F(44-45-21G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰	外打庄内・内押正 37-36, 46-19, 34-24, 44-17, 28cm同一
42	8	37	SD450F(44-45-21G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰	外打庄内・内押正 43-18同一
42	9	37	SD451F(39-23G)	珠潤磨片	口(32.3)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	2.5GY6/1灰	内外面クロナダ 12cmの施錆
42	10	37	SD450F(44-45-21G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰	内外面クロナダ 12cmの施錆
42	11	37	SD450F(44-45-21G)	珠潤磨片	口(23.6)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N5/灰 内外面クロナダ 12cmの施錆	内外面クロナダ 口・側面 口・側面
42	12	35	SD451F(45-22G)	珠潤磨片		黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	N5/灰 外打庄内・内押正 外側微熱	外打庄内・内押正 44-22同一
42	13	35	SD451F(45-23G) SD12F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰 外YS/1灰	外打庄内・内押正 外NS/1同一
42	14	35	SD451F(45-23G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	SY6/1灰 外NS/1灰	外打庄内・内押正 外圆润
42	15	35	SD451F(45-22G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	SY6/1灰 外NS/1灰	外打庄内・内押正 内圆润
42	16	43	SD451F(45-23G)	石製品石斧	底(14.0)			内面用灰 砂岩
42	17	36	SD457F(48-29G)	珠潤磨片	底(10.8)	黒色微粒多量・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰 外NS/1灰	外打庄内・内押正 外NS/1灰
42	18	40	SD458F(45-20G)	西施腰袋部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1灰	外打庄内・内押正 腰袋部・44-24同一
42	19	40	SD460F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	SY6/1灰 内NS/1灰	外打庄内・内押正 内NS/1灰
42	20	33	SD486F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N4/灰 内NS/1灰	内面用灰 砂岩
42	21	43	SD488F	石製品石斧				内面用灰 砂岩
42	22	40	SD492F(49-15G)	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y6/1灰 内外面クロナダ 内面黑色の汚れ	内外面クロナダ 内面黑色の汚れ
43	1	卷番2	SE320F	白磁瓶		黑色微粒	2.5Y5/1灰 糊SY6/1灰	見込みに順目
43	2	42	SE339F	愛染系系脣部		黒色微粒 小標	SY7/1灰 外Y4/3灰 糊SY5/1灰 黃斑 PH3DY5/3灰 黃斑	内面用灰 内圓黑色片付
43	3	40	SK326F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y6/1R	外打庄内・内押正
43	4	40	SK458F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰 糊SY4/1灰 N7/1灰 糊SY5/1灰 Oリーパ	外打庄内・内押正 施錆
43	5	卷番2	SK556F	青磁瓶		黒色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y5/1R	内外面クロナダ
43	6	35	SK556F SK556F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	7.5Y5/1R	外打庄内・内押正
43	7	36	SK553F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰 内圆润	外打庄内・内押正
43	8	36	SK553F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	N6/灰 内圆润	内外面クロナダ 内圆润
43	9	36	SK553F SD488F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	EVS/1灰 外SY/1灰 糊SY/1灰	内外面クロナダ 外打庄内・内押正
43	10	42	SK554F	愛染系系脣部		黒色微粒・赤褐色微粒 小標	10YR7/4灰 10YR7/2灰 南向	内面用ナダ
43	11	43	SP596F	近世陶潤磨利			断SY5/1灰 外NS1.5灰 糊SY3/2湯舟	在地名
43	12	40	SK597F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	W1H5/1灰 外NS5/1灰	外打庄内・内押正
43	13	34	SK651F	珠潤磨片	底(11.4)	黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	NS/灰 内圆润	内外面クロナダ 内圆润
43	14	40	SP671F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	10Y5/1灰 外SY5/1灰	外打庄内
43	15	40	SP669F	珠潤磨片		黒色微粒・白色微粒 陶器骨格・中標	SY8/1灰 44-43同一	内外面クロナダ 内圆润

序番号	遺物番号	出目番号	出土地点	基盤・部位	寸法(cm)	胎土	色調	備考
41	14	43	SD408F(34-16G 35-16・17G)	石製品石斧	口(32.7) 底(11.4) 高13.3			内面使用痕 砂岩
42	1	32	SD413F	土質實土器皿		赤褐色微粒 灰	7.5YR8/2灰白	てづくね
42	2	43	SD424F(29-20G)	近世鐵鑄錫			7.5Y7/1灰白 外7.5G7/1明綠灰	外第二重網目文 内第一重網目文 見事花卉、萬古内鉄錫不明 肥前
42	3	40	SD446F	椎州鐵錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10YR5/1灰	内外面ロクロナダ
42	4	40	SD447F	椎州鉄錫		黑色微粒・台形微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰 影10Y7/1灰白	外打庄底内押庄底 43-22同一
42	5	36	SD447F	椎州鐵錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/2灰オリーブ	内面ロクロナダ 肥前不良
42	6	33	SD450F(41-22G)	土質實土器皿	口(14.8) 底4.0	黑色微粒 灰	7.5YR8/2灰白	内面ロクロナダ 内面へラッカ 内面黒色の汚れ 外面黒 頭頂
42	7	37	SD450F (44-45-21G)	我調整体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰	外打庄底内押庄底 37-36 40-16-24 44-17- 28同一
42	8	37	SD450F (44-45-21G)	我調整体部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰	外打庄底内押庄底 43-3-18同一
42	9	37	SD450F(39-23G)	我調整錫	口(20.2)	黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	2.5GY6/1灰	内外面ロクロナダ 12mmの陶紋具 II期
42	10	37	SD450F (44-45-21G)	我調整錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰	内外面ロクロナダ 12mmの陶紋具
42	11	37	SD450F (44-45-21G)	我調整錫	口(23.6)	黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N5/灰	内外面ロクロナダ 12mmの陶紋具 III・IV期
42	12	35	SD451F(45-22G)	椎州鐵錫		黑色微粒多量・白色微 粒・灰 海綿骨針・細繩	N5/灰	外打庄底内押庄底 外面無
42	13	35	SD451F(45-22G) SD128F	椎州鐵錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰 外5Y5/1灰	外打庄底内押庄底 外周底化物付40-9同一
42	14	35	SD451F(45-22G)	椎州鐵錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/1灰	外打庄底内押庄底 外面無
42	15	35	SD451F(45-22G)	椎州鐵錫		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/1灰	内外面ロクロナダ
42	16	43	SD451F(45-22G)	石製品石斧	底(14.0)			内面使用痕 砂岩
42	17	36	SD457F(48-20G)	我調整底部	底(10.8)	黑色微粒多量・白色微 粒・灰 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰	内外面ロクロナダ 底静止糞り 44-22- 29-34同一
42	18	40	SD458F(45-20G)	我調整底部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰	外打庄底内押庄底 底不良 44-2同一
42	19	40	SD460F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/1灰	内外面ロクロナダ
42	20	33	SD466F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N4/灰	内面に多くの波状紋 外面・口縁端部6柔状状
42	21	43	SD466F	石製品石斧				内面使用痕 砂岩
42	22	40	SD492F(49-15G)	珠潤錫底部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y6/1灰	内外面ロクロナダ 外周底無の汚れ
43	1	42	SE520F	白磁碗		黑色微粒	2.5Y8/1灰白 外2.5Y8/2灰白	見込み櫻目
43	2	42	SE520F	瓷器系直肩部		黑色微粒・灰色粒 小窓	5Y7/1灰白 外5Y8/3-5-1灰青 内10Y2/2灰黃	内面ナダ 外周底付着
43	3	40	SK520F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y6/1灰	外打庄底内押庄底
43	4	40	SK548F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰 外7.5Y4/1灰	外打庄底内押庄底
43	5	2	SK552F	青磁碗		黑色微粒少量	N7/灰白 外6GY6/1オリーブ灰	輪弁糺
43	6	35	SK553F SK555F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	7.5Y5/1灰	外打庄底内押庄底
43	7	36	SK553F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰	外打庄底内押庄底 内黑色化外赤色化
43	8	36	SK553F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	N6/灰	内外面ロクロナダ 6mm以上の陶紋具
43	9	36	SK553F SD489F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y5/1灰 外5Y4/1灰	内外面ロクロナダ 外打庄底内押庄底
43	10	42	SK554F	瓷器系直肩部		黑色微粒・赤褐色微粒 小窓	10Y2/4-5-6-7-8-9-10-11-12灰 10Y5/5-1灰黃	内面ナダ 外打庄底内押庄底
43	11	43	SP595F	近世陶器器利?			断10Y5/1灰 外N1.5/1灰 10YR3/2黑褐	在地底? 内外面 破物
43	12	40	SK597F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y6/1灰 外N5/灰	外打庄底内押庄底
43	13	34	SP661F	珠潤錫部	底(11.4)	黑色微粒・白色微粒 亦褐色微粒 海綿骨針・細繩 小窓	N5/灰	内外面ロクロナダ 底静止糞り 11mm以上の陶紋具 内面使用痕
43	14	40	SP671F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	10Y5/1灰 外N5/灰	外打庄底
43	15	40	SP669F	珠潤錫部		黑色微粒・白色微粒 海綿骨針・細繩	5Y6/1灰	内外面ロクロナダ 44-43同一

押出番号	造物番号	固状番号	出土地点	層級・部位	計測値(cm)	土	色 調	備考
43	16	42	SP699F	姿體系頭部		黒色微粒・灰白色 小繩	SY7/1灰白 内SY5/2灰黃 内SY3/10灰白 外SY2/10灰白 内SY1/2灰白 外SY0/2灰白 内SY0/1灰白	内圓ナメ 15-2と同一
43	17	40	SX707F	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・細繩	SY1/1灰白 7.5YS/1灰 内SY7/5灰白 外SY4/8灰白	内外面クロコナメ 4期
43	18	40	SX707F/G6-23G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・細繩	7.5YS/1灰 外SY1灰白	11期の施設具 44-43期同一
43	19	40	SP712F	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・細繩	7.5YS/1灰 外SY1/4灰 内SY1/4灰	外打庄頭内灰庄
43	20	43	SK760F	石製品砾石	高11.1 幅2.7			砂岩
43	21	卷番2	SP715F	骨頭		黑色微粒多量 黑色微粒一量	7/灰白 7GY6/1綠灰 脚筋骨付・粗繩	無繩紋状
43	22	40	SP765F	脚部		黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N6/1灰 7SY7/1灰白	外打庄頭内灰庄
43	23	42	SK768F	姿體系頭部		黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・小繩	SY1/1灰白 内SY1/1灰白 外SY1/3灰 内SY2/3灰 外SY3/3灰 内SY4/1灰	中-L.G.N.A.灰白 内圓ナメ 内側面の汚れ 13-12期
44	1	36	38-19G	脚部・頭部	□(38.8)	黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	SY1/1灰白 内SY1/1灰 内SY2/1灰 内SY1/1灰	内外面クロコナメ 3期
44	2		47-48-21~22G	珠飾等部	底(17.4)	黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y6/1灰 外打庄頭	
44	3	36	49-15G	脚部	底(10.4)	黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10YS/1灰 内外面クロコナメ	
44	4	34	50-22G 48-24G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5YR6/4C.JV1/粗 SY6/1灰 内外面クロコナメ	内外面用灰黑色の汚れ 19-18期上部脚部
44	5	34	49-22G	脚部?	底(10.0)	黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・小繩	10Y6/1灰 内外面クロコナメ	
44	6	34	X-0	珠飾?隠縫	底(11.2)	黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y5/1灰 内外面クロコナメ 内側面用灰黑色の汚れ 19-18上部脚部	
44	7		25-26-25G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N5/灰 外打庄頭内灰庄	
44	8		32-26G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄 施設具良 44-23期	
44	9		38-25G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	10		34-24G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N4/灰 外打庄頭内灰庄 44-11期	
44	11		34-24G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N4/灰 外打庄頭内灰庄	
44	12		34-24G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N5/灰 外打庄頭内灰庄	
44	13		34-24G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N5/灰 外打庄頭内灰庄 10YS/2灰 外打庄頭付	外打庄頭内灰庄 4期
44	14		36-23G	脚部?		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y5/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	15		37-22G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y6/1灰 内SY3/5灰 外SY3/5灰 内SY3/5灰 外SY3/5灰	外打庄頭内灰庄 24-23期付
44	16		46-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	5YS/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	17		46-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄 39-38-37-36-34-32-27- 44-28期	外打庄頭内灰庄 36-19-18-17-15-13- 44-25期
44	18		46-47-23G 48-21G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄 施設具良	外打庄頭内灰庄 44-25期
44	19		48-26G	珠飾等部		黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	SY5/1灰 外打庄頭内灰庄 36-19-18-17-15-13- 44-25期	外打庄頭内灰庄 36-19-18-17-15-13- 44-25期
44	20		48-21G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・小繩	SY5/1灰 内SY5/1灰 外SY5/1灰	外打庄頭内灰庄
44	21		48-14G	脚部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5YS/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	22		48-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10YS/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	23		49-15G	脚部等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N6/灰 外打庄頭内灰庄 44-31期	外打庄頭内灰庄 44-31期
44	24		47-48-24G	脚部		黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y5/1灰 SY5/1灰 外打庄頭内灰庄	外打庄頭内灰庄
44	25		49-22G	珠飾等部		黑色微粒多量・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄 2.5GY6/1オーリー灰	外打庄頭内灰庄
44	26		50-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y6/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	27		50-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y6/1灰 外打庄頭内灰庄	
44	28		50-15G	珠飾等部		黑色微粒・白色微粒 脚筋骨付・小繩	7.5Y6/1灰 外打庄頭内灰庄 35-36-35-34-33-32- 44-17期	砂岩

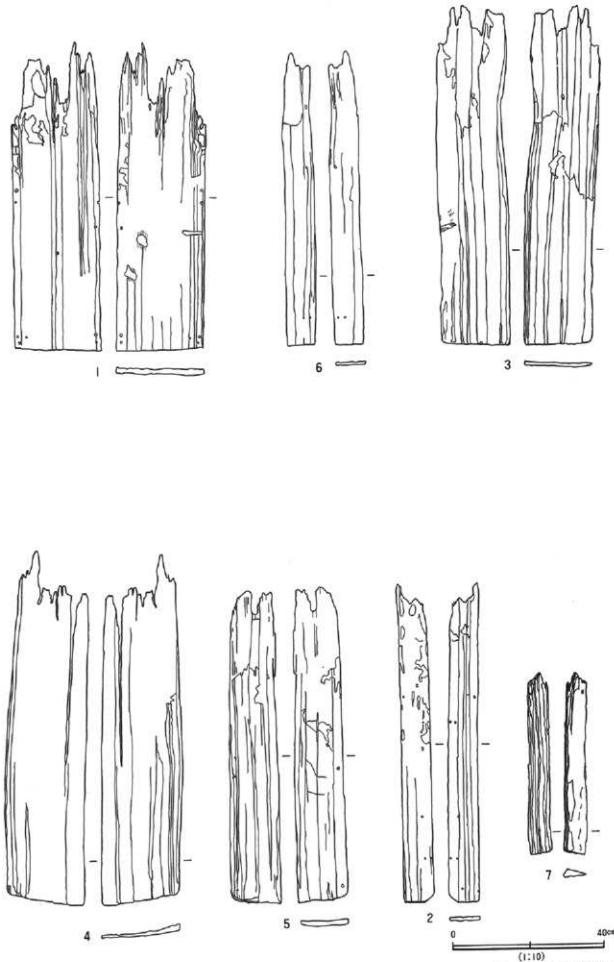
掩埋番号	遺物番号	固状番号	出土地点	層級・部位	計測値(cm)	土	色 調	備考
44	29		S1-20G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・小繩	10Y5/1灰	外打庄頭内灰庄
44	30		S1-20G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・小繩	5Y6/1灰	外打庄頭内灰庄 施設具
44	31		S6-18G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N5/灰	外打庄頭内灰庄
44	32		G-22G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5YS/1灰 外SY6/灰	外打庄頭内灰庄
44	33		G-16G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	87.5Y6/1灰 内SY10/灰	外打庄頭内灰庄
44	34	X-0		珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y5/1灰	外打庄頭内灰庄
44	35		G-21~22G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N4/灰	外打庄頭内灰庄
44	36	X-0		珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	7.5YS/1灰	外打庄頭内灰庄
44	37		S2-22G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	SY6Y/2灰オーリー 内SY5/1灰	外打庄頭
44	38		S9-18G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	N5/灰	外打庄頭内灰庄
44	39		S7-23G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	2.5GY6/1オーリー 灰	外打庄頭内灰庄
44	40	X-0		珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y5/1灰 外SY5/2灰奥灰	外打庄頭内灰庄
44	41		S9-18G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	SY5/1灰	外打庄頭内灰庄
44	42	X-0		珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10YR6/1灰 内SY10/灰	内外面クロコナメ 17期の施設員
44	43		S2-20G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	5Y6/1灰	内外面クロコナメ 12期の施設具
44	44		S2-22G	珠飾等部		黒色微粒・白色微粒 脚筋骨付・粗繩	10Y5/1灰 内外面クロコナメ 内外面用灰 黑色の汚れ 12期の施設具	外打庄頭内灰庄
45	1	33	S7-20G	土壌質土頭部	□(8.0) 高1.2	黒色微粒 精量 精量	7.5YR8/4灰黄 精量	づばね 体部外側ナメ
45	2	33	S6-22G	土壌質土頭部	□(7.6) 高1.2	黒色微粒 精量 精量	7.5YR8/4灰黄 精量	づばね
45	3	33	S7-23G	土壌質土頭部	□(7.7) 高1.6	黒色微粒少量 精量	7.5YR8/4灰黄 精量	づばね 体部外側ナメ
45	4	32	S2-22G	土壌質土頭部	□8.0 高1.6	黒色微粒少量 精量	7.5YR5/1灰灰 精量	づばね 体部外側ナメ
45	5	33	S9-50-23G	土壌質土頭部		黒色微粒少量 精量	7.5YR8/4灰黄 精量	づばね 体部外側ナメ
45	6	33	S9-50-23G	土壌質土頭部		黒色微粒少量 精量	7.5YR8/4灰黄 精量	づばね 体部外側ナメ
45	7	33	X-0	土壌質土頭部	□(8.2) 高1.3 高1.9	黒色微粒・赤褐色微粒 精量	7.5YK7/3にいわ 精量	ロクロ 外側の施設具ナメ 外側の施設具ナメ
45	8	32	S6-23G	土壌質土頭部	□(12.5) 高1.2	黒色微粒少量 精量	10YR6/1灰 外黒灰色汚れ 精量	づばね 体部外側ナメ
45	9	32	G-19G	土壌質土頭部	□(12.5) 高1.2	黒色微粒少量 精量	10YR8/3灰黄 外黒灰色汚れ 精量	づばね 体部外側ナメ
45	10	32	T9P22	土壌質土頭部		黒色微粒少量 精量	10YR8/3灰黄 精量	づばね
45	11	32	G-16G	土壌質土頭部		黒色微粒少量 精量	10YR8/3灰黄 精量	づばね
45	12	33	G-47-24G	土壌質土頭部		黒色微粒・赤褐色微粒 精量	7.5YR7/4にいわ 精量	づばね 体部外側ナメ
45	13	卷番2	G-24G	青磁鉢		黒色微粒少量 精量	SY5/1灰 SY6/2灰オーリー	施設外
45	14	卷番2	S2-19G	青磁鉢		黒色微粒少量 精量	7.5Y7/1灰白 施設外	施設外
45	15	卷番2	S9-22G	青磁鉢		黒色微粒少量 精量	7.5Y7/1灰白 G7Y6/2オーリー灰	施設外
45	16	卷番2	G-47-21~22G	白磁鉢		黒色微粒少量 精量	2.5YR8/1灰白 SY5/1灰	2.5YR8/1灰白 SY5/1灰
45	17	43	X-0	石製品石斧	口35.2 底11.7 高14.0			内面使用感 外側加工痕
45	18	43	X-0	石製品石斧	□37.6			内面使用感 砂岩
45	19	51	G-24G	佛製品刀子	長9.1 幅1.3			内面使用感 砂岩
45	20	43	G-44-22G	蓮	徑4.2			
45	21	43	S1-21G	石製品花瓶	高5.7 幅5.8			砂岩
45	22	43	SP595F	鐵 鎏華元宝	徑2.5			北宋 初開元1068年

標記番号	遺物番号	図版番号	出土地点	断面・部位	計測(cm)	胎土	色調	備考
44	29		51-20G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・小鉢	10Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕
44	30		51-20G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・小鉢	5Y6/1灰	外打圧痕内圧痕 焼成不良
44	31		56-18G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	N6/灰	外打圧痕内押圧痕
44	32		49-22G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	7.5Y5/1灰 内外N4灰	外打圧痕内押圧痕
44	33		46-16G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	8.5Y6/1灰 内外10Y灰	外打圧痕内押圧痕
44	34		X-0	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	10Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕
44	35		49-21~22G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	N4/灰	外打圧痕内押圧痕
44	36		X-0	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	7.5Y3/1灰	外打圧痕内押圧痕
44	37		52-22G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	8.5Y6/2灰オリーブ 内外5Y5/1灰	外打圧痕
44	38		56-18G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	N5/灰	外打圧痕内押圧痕
44	39		37-23G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	2.5GY6/1オリーブ灰	外打圧痕内押圧痕
44	40		X-0	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	10Y5/1灰 8.5YR5/2灰褐	外打圧痕内押圧痕
44	41		50-18G	珠潤透体部		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	5Y5/1灰	外打圧痕内押圧痕
44	42		X-0	珠潤透鉢		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	10YR6/1灰 内外10YR5/1灰	内外クロナダ 体部内外横ナダ
44	43		52-20G	珠潤透鉢		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	5Y6/1灰	内外クロナダ 内面使用痕 12条の施紋具
44	44		52-22G	珠潤透鉢		黒色微粒・白色微粒 陶器骨針・細繩	10Y5/1灰	内外クロナダ 内面使用痕 黑色の汚れ 12条の施紋具
45	1	33	37-20G	土新質土器皿	口(8.0) 底1.2	黒色微粒少量 精良	7.5YR8/4浅黄橙	てづくね 体部外横ナダ
45	2	33	46-22G	土新質土器皿	口(7.6) 底1.1	黒色微粒少量 精良	7.5TR8/4浅黄橙	てづくね
45	3	33	37-23G	土新質土器皿	口(7.4) 底1.6	黒色微粒少量 精良	7.5YR8/4浅黄橙	てづくね 体部外横ナダ
45	4	32	52-23G	土新質土器皿	口8.0	黒色微粒少量 精良	7.5YR5/1褐灰	てづくね 体部外横ナダ
45	5	33	49~50-23G	土新質土器皿		黒色微粒多量 精良	7.5YR8/3浅黄橙	てづくね
45	6	33	49~50-23G	土新質土器皿		赤褐色微粒 精良	7.5YR8/3浅黄橙	てづくね 体部外横ナダ
45	7	33	X-0	土新質土器皿	口(8.2) 底(5.3) 高1.9	黒色微粒・赤褐色微粒 精良	7.5YR7/3にぼい梗	ロクロ ロクロ内横ナダ 外底紅茶引き板目痕
45	8	32	46-23G	土新質土器皿	口(12.5)	黒色微粒多量 精良	10YR8/1灰 外側灰色の汚れ	てづくね
45	9	32	48-19G	土新質土器皿	口(12.5)	黒色微粒少量 精良	10YR8/3浅黄橙 外側赤色変化	てづくね 体部内外横ナダ
45	10	32	TP22	土新質土器皿		黒色微粒少量 精良	10YR8/3浅黄橙	てづくね
45	11	32	46-16G	土新質土器皿		黒色微粒少量 精良	10YR8/3浅黄橙	てづくね
45	12	33	46~47-24G	土新質土器皿		黒色微粒・赤褐色微粒 精良	7.5YR7/4にぼい梗	てづくね 体部外横ナダ
45	13	卷頭2	48-24G	青磁碗		黒色微粒少量 精良	5Y6/1灰 8.5Y5/3灰オリーブ	鍋窯外紋
45	14	卷頭2	52-19G	青磁碗		黒色微粒少量 精良	7.5Y7/1灰白 8.5Y6/2オリーブ灰	鍋窯外紋
45	15	卷頭2	50-22G	青磁鉢	口(23.6)	黒色微粒少量 精良	7.5Y7/1灰白 8.5Y6/1オリーブ灰	鍋窯外紋
45	16	卷頭2	47~48-21~22G	白磁碗			2.5Y8/1灰白 5Y8/1灰白	
45	17	43	X-0	石製品石鋸	□35.2 底11.5 高14.6			内面使用痕 外側加工痕
45	18	43	X-0	石製品石鋸	□37.6			内面使用痕 砂岩
45	19	51	49-24G	鉄製品刀子	長9.9 幅2.3			
45	20	43	44-22G	鑿	径(4.2)			
45	21	43	51-21G	石製品石臼	長5.7 幅3.8			砂岩
45	22	43	SP595F	鐵 鋼元宝	径2.5			北宋 初綱年1068年



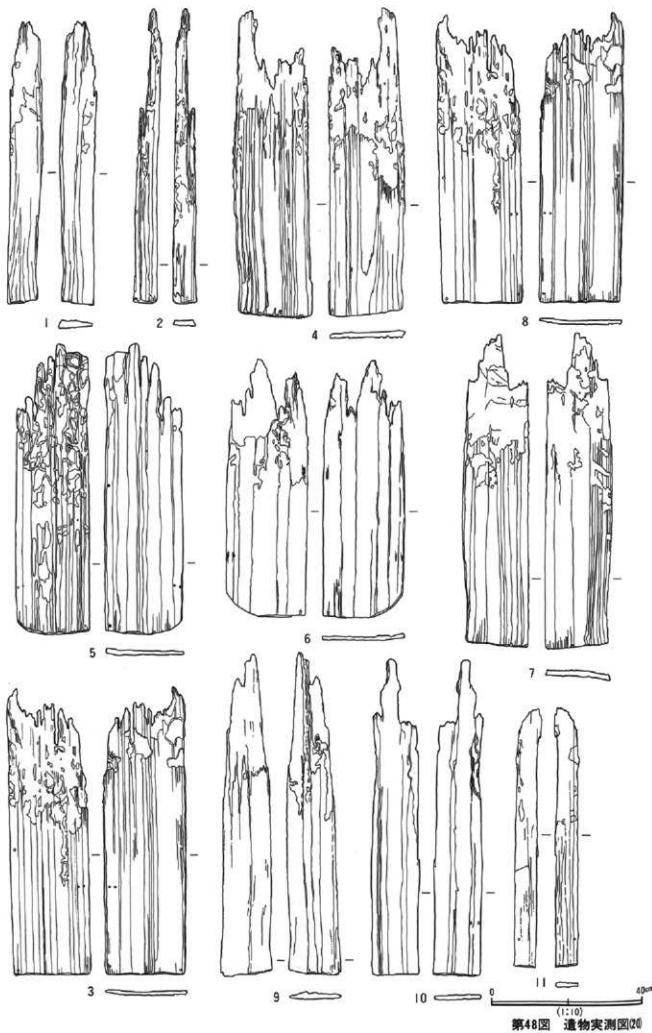
第46図 遺物実測図(1)

- 68 -

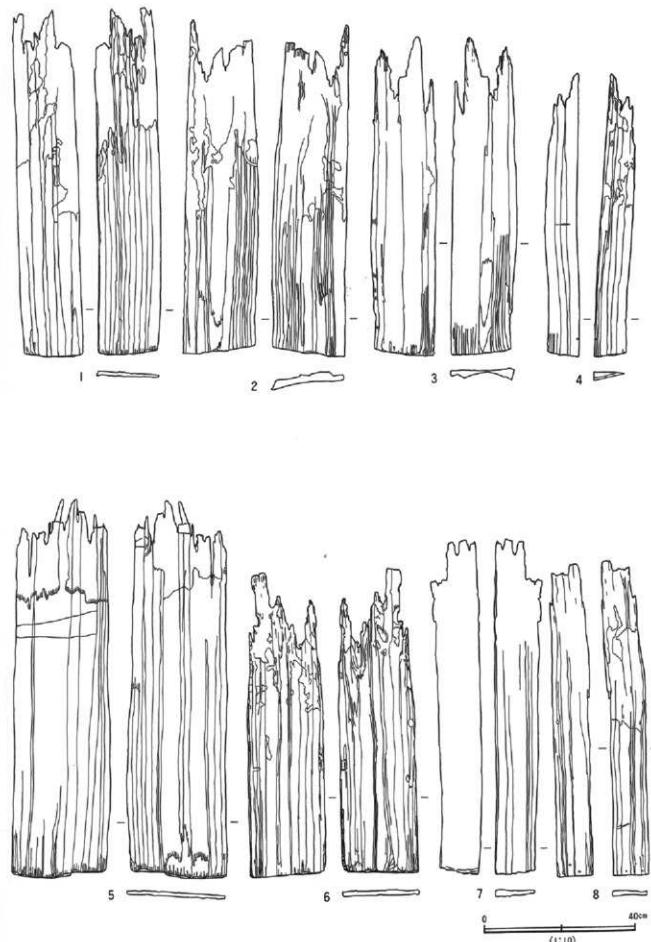


第47図 遺物実測図(2)

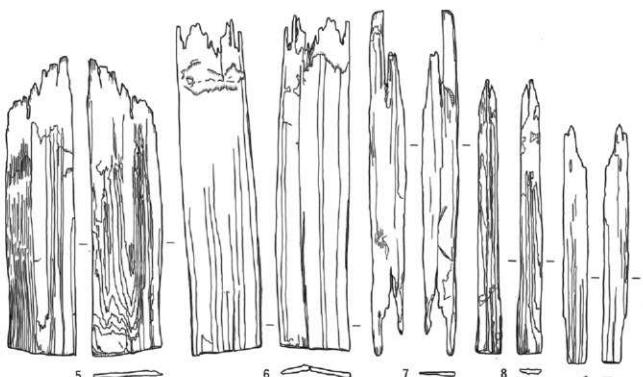
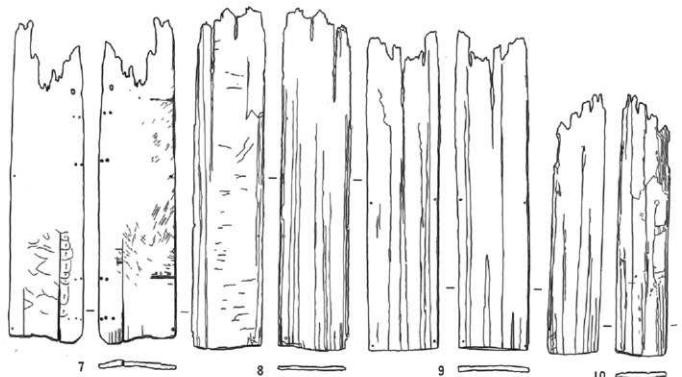
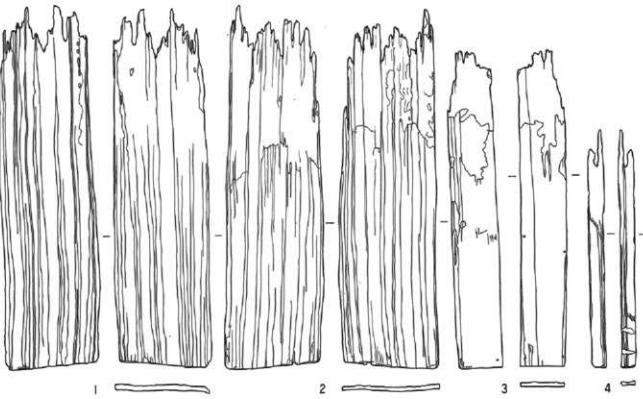
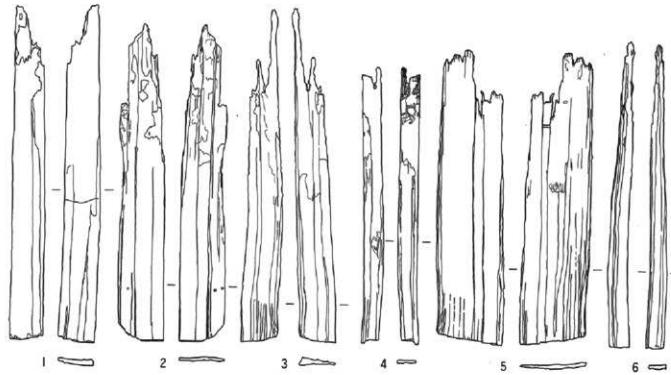
- 69 -



第48図 遺物実測図(2)



第49図 遺物実測図(2)

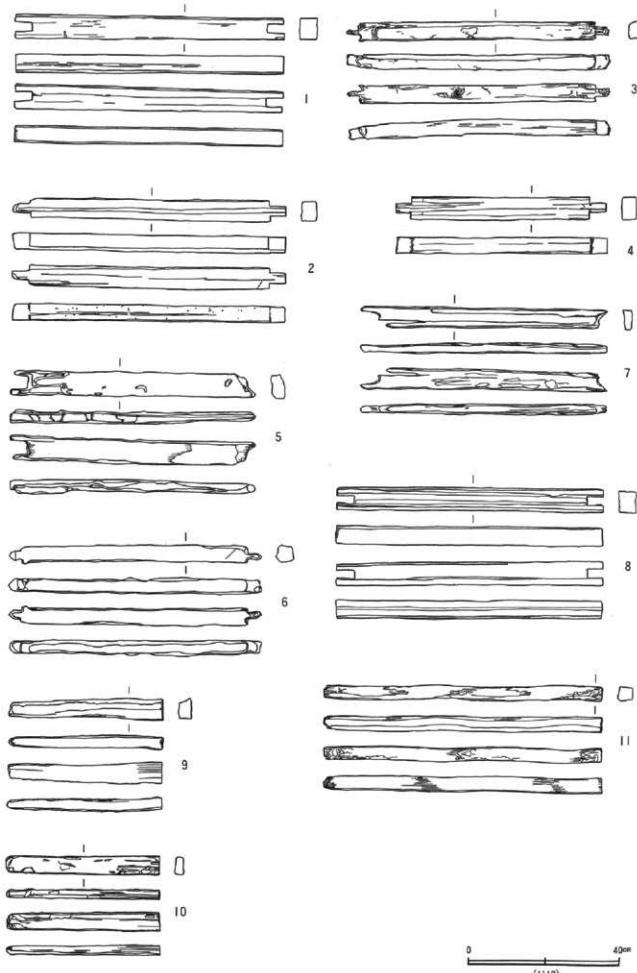


0
(1:10)
40cm

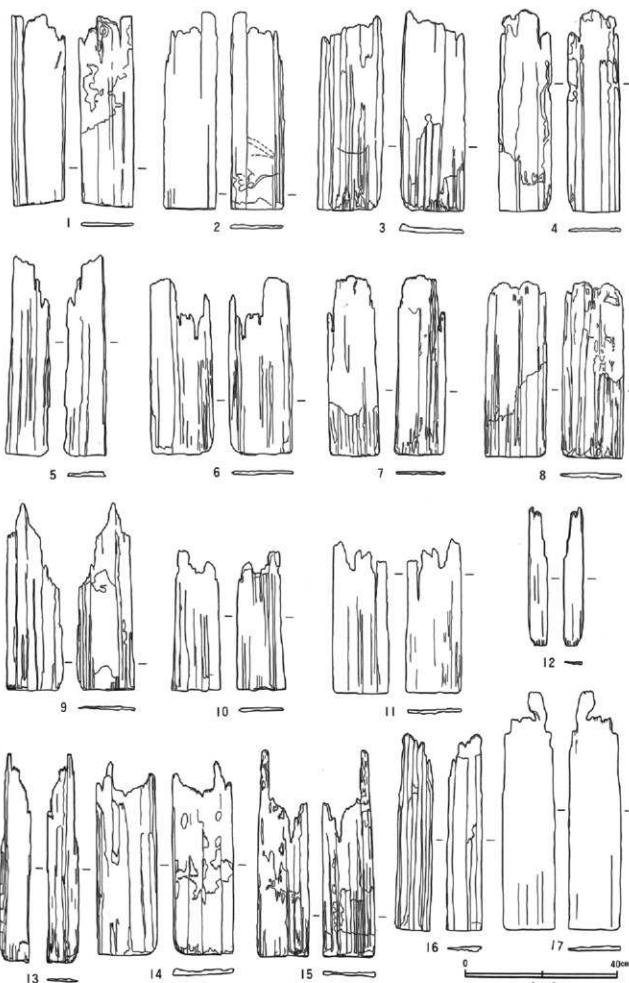
第50図 遺物実測図(1)

0
(1:10)
40cm

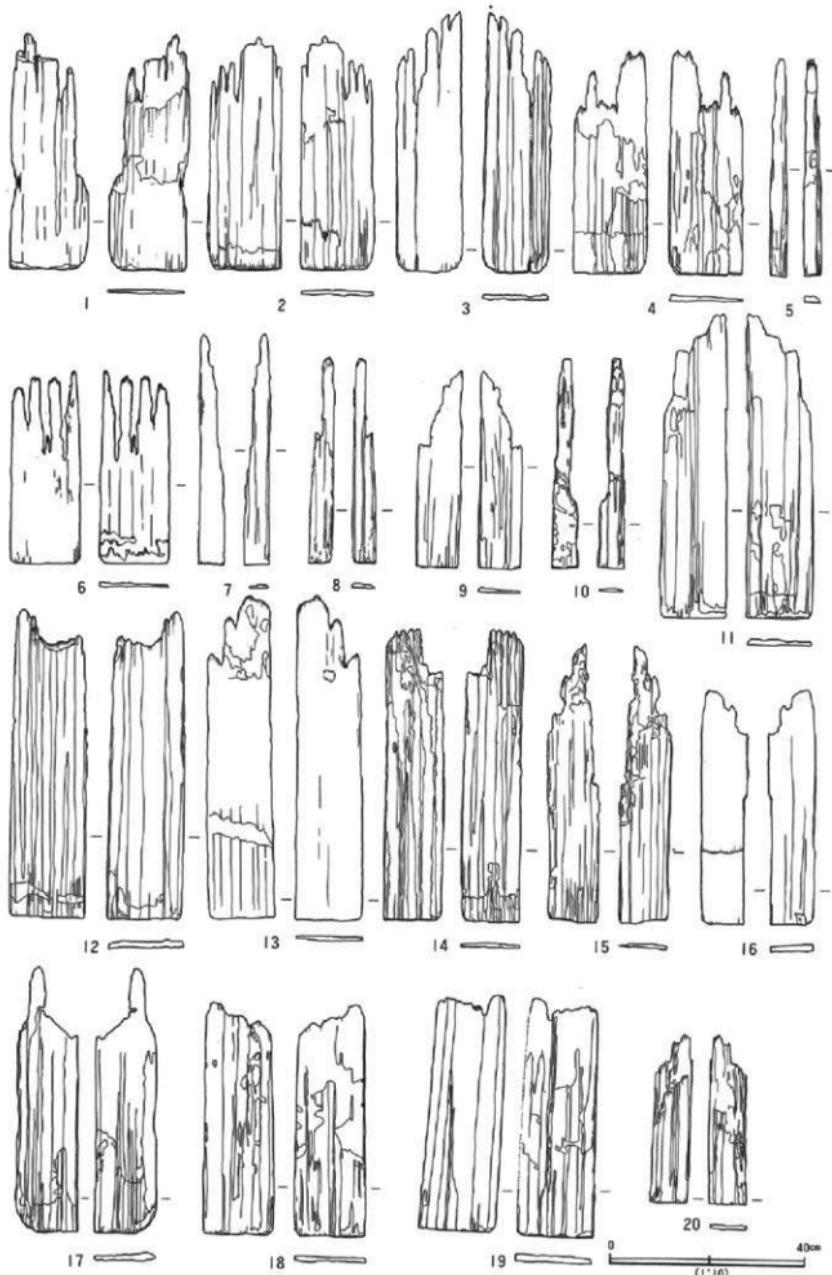
第51図 遺物実測図(2)



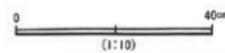
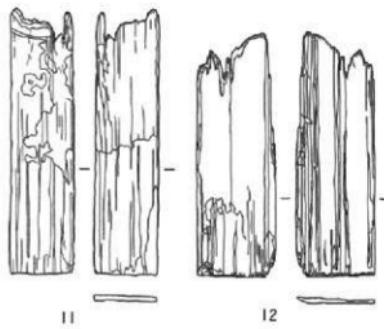
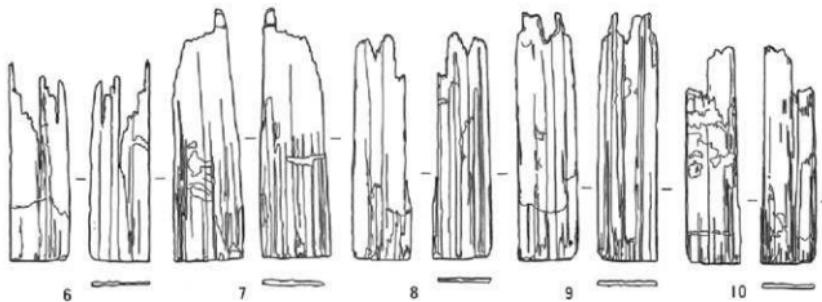
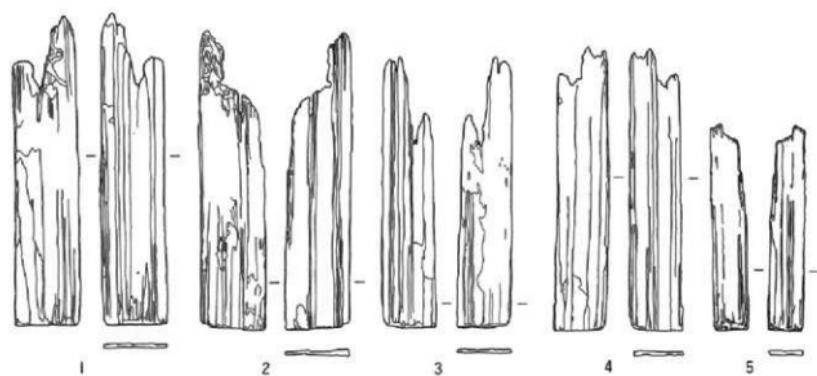
第52図 遺物実測図26



第53図 遺物実測図29



第54図 遺物実測図26



第55図 遺物実測図(2)

表 6 井戸部材観察表

探査番号	遺物番号	図版番号	出土地点	断面・部位	計測値(cm)
46	1	44	SE323	井戸横枝	長55.6 幅7.2 厚4.0
46	2	44	SE323	井戸横枝	長51.2 幅5.6 厚4.0
46	3	44	SE323	井戸横枝	長81.2 幅7.2 厚4.4
46	4	44	SE323	井戸横枝	長74.4 幅5.6 厚4.8
46	5	44	SE323	井戸横枝	長44.7 幅3.6 厚2.8
46	6	44	SE323北辺内側	井戸横枝	長38.4 幅2.8 厚2.8
46	7	44	SE323南西隅	井戸板	長32.4 幅6.8 厚4.0
46	8	44	SE323東辺	井戸板	長33.2 幅5.5 厚1.2
46	9	44	SE323東辺外側	井戸板	長100.0 幅30.0 厚1.4
46	10	44	SE323東辺外側	井戸板	長102.8 幅26.4 厚3.2
46	11	44	SE323東辺外側	井戸板	長90.8 幅19.6 厚1.4
47	1	44	SE323東辺外側	井戸板	長88.8 幅23.2 厚1.6
47	2	44	SE323東辺外側	井戸板	長84.0 幅18.0 厚1.0
47	3	44	SE323東辺内側	井戸板	長88.8 幅18.0 厚1.0
47	4	44	SE323東辺内側	井戸板	長90.8 幅21.2 厚1.6
47	5	44	SE323東辺内側	井戸板	長88.4 幅21.2 厚1.4
47	6	44	SE323東辺内側	井戸板	長77.6 幅8.0 厚0.8
47	7	44	SE323東辺内側	井戸板	長47.2 幅6.0 厚2.0
48	1	45	SE323西辺外側	井戸板	長74.0 幅6.0 厚2.0
48	2	45	SE323西辺外側	井戸板	長77.2 幅6.0 厚1.6
48	3	45	SE323西辺外側	井戸板	長75.2 幅6.6 厚1.0
48	4	45	SE323西辺外側	井戸板	長74.8 幅17.5 厚1.2
48	5	45	SE323西辺外側	井戸板	長79.0 幅6.4 厚4.8

探査番号	遺物番号	図版番号	出土地点	断面・部位	計測値(cm)
50	6	46	SE323北辺外側	井戸板	長79.6 幅5.2 厚1.0
50	7	46	SE323北辺外側	井戸板	長84.0 幅5.4 厚1.6
50	8	46	SE323北辺外側	井戸板	長89.2 幅18.4 厚1.0
50	9	46	SE323北辺外側	井戸板	長83.2 幅19.2 厚1.2
50	10	46	SE323北辺外側	井戸板	長68.0 幅13.6 厚1.6
51	1	47	SE323北辺内側	井戸板	長94.0 幅25.2 厚1.6
51	2	47	SE323北辺内側	井戸板	長94.2 幅25.6 厚1.2
51	3	47	SE323北辺内側	井戸板	長83.2 幅12.0 厚1.2
51	4	47	SE323北辺内側	井戸板	長62.0 幅4.0 厚1.2
51	5	47	SE323北辺内側	井戸板	長78.2 幅18.4 厚1.2
51	6	47	SE323北辺内側	井戸板	長87.2 幅19.2 厚1.6
51	7	47	SE323北辺内側	井戸板	長90.8 幅9.6 厚1.2
51	8	47	SE323北辺内側	井戸板	長72.4 幅6.4 厚1.4
51	9	47	SE323北辺内側	井戸板	長62.8 幅6.4 厚0.8
52	1	47	SE350東線上	井戸横枝	長70.6 幅6.4 厚4.8
52	2	47	SE350東辺下	井戸横枝	長71.6 幅5.6 厚4.0
52	3	47	SE350西辺上	井戸横枝	長68.8 幅4.8 厚4.0
52	4	47	SE350西辺下	井戸横枝	長55.2 幅6.2 厚4.0
52	5	47	SE350南辺上	井戸横枝	長64.0 幅6.8 厚3.6
52	6	47	SE350南辺下	井戸横枝	長66.0 幅4.4 厚4.0
52	7	47	SE350北辺上	井戸横枝	長64.6 幅5.2 厚2.4
52	8	47	SE350北辺下	井戸横枝	長79.0 幅6.4 厚4.8
53	9	47	SE350東辺	井戸板	長49.6 幅15.0 厚1.0
53	10	48	SE350東辺	井戸板	長85.4 幅14.8 厚0.8
53	11	48	SE350東辺	井戸板	長49.4 幅14.4 厚0.8
53	12	48	SE350東辺	井戸板	長53.4 幅5.0 厚0.5
53	13	48	SE350西辺	井戸板	長51.2 幅5.0 厚0.8
53	14	48	SE350西辺	井戸板	長51.2 幅15.6 厚1.6
53	15	48	SE350西辺	井戸板	長51.2 幅15.6 厚1.2
53	16	48	SE350西辺	井戸板	長52.0 幅5.2 厚1.2
53	17	48	SE350西辺	井戸板	長63.2 幅13.6 厚1.2
54	1	48	SE350西辺	井戸板	長48.0 幅16.0 厚0.8
54	2	48	SE350西辺	井戸板	長49.2 幅15.2 厚1.2

標記番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	標記番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)
50	6	46	SE323北辺外側	井戸縦板	長79.6 幅5.2 厚1.0	52	9	47	SE350北東隅	井戸横桿	長40.4 幅5.6 厚3.2
50	7	46	SE323北辺外側	井戸縦板	長84.0 幅5.4 厚1.6	52	10	47	SE350南東隅	井戸横桿	長40.5 幅4.8 厚2.6
50	8	46	SE323北辺外側	井戸縦板	長89.2 幅18.4 厚1.0	52	11	47	SE350北西隅	井戸横桿	長73.0 幅3.6 厚4.0
50	9	46	SE323北辺外側	井戸縦板	長83.2 幅19.2 厚1.2	53	1	48	SE350東辺	井戸縦板	長50.0 幅14.2 厚0.8
50	10	46	SE323北辺外側	井戸縦板	長68.0 幅13.6 厚1.6	53	2	48	SE350東辺	井戸縦板	長51.6 幅13.6 厚1.0
51	1	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長94.0 幅25.2 厚1.6	53	3	48	SE323東辺	井戸縦板	長51.6 幅16.8 厚1.6
51	2	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長94.2 幅25.6 厚1.2	53	4	48	SE350東辺	井戸縦板	長52.8 幅13.6 厚0.8
51	3	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長83.2 幅12.0 厚1.2	53	5	48	SE350東辺	井戸縦板	長52.4 幅10.8 厚1.2
51	4	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長62.0 幅4.0 厚1.2	53	6	48	SE350東辺	井戸縦板	長46.0 幅16.8 厚0.8
51	5	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長78.2 幅18.4 厚1.2	53	7	48	SE350東辺	井戸縦板	長47.2 幅12.8 厚0.8
51	6	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長87.2 幅19.2 厚1.6	53	8	48	SE350東辺	井戸縦板	長46.0 幅16.0 厚1.2
51	7	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長90.8 幅19.6 厚1.2	53	9	48	SE350東辺	井戸縦板	長49.6 幅15.0 厚1.0
51	8	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長72.4 幅6.4 厚1.4	53	10	48	SE350東辺	井戸縦板	長36.4 幅12.4 厚0.8
51	9	47	SE323北辺内側	井戸縦板	長62.8 幅6.4 厚0.8	53	11	48	SE350東辺	井戸縦板	長40.4 幅14.4 厚0.8
52	1	47	SE350東棟上	井戸横桿	長70.6 幅6.4 厚4.8	53	12	48	SE350東辺	井戸縦板	長36.4 幅5.0 厚0.5
52	2	47	SE350東棟下	井戸横桿	長71.6 幅5.6 厚4.0	53	13	48	SE350西辺	井戸縦板	長55.2 幅6.0 厚0.8
52	3	47	SE350西辺上	井戸横桿	長68.8 幅4.8 厚4.0	53	14	48	SE350西辺	井戸縦板	長51.2 幅15.5 厚1.6
52	4	47	SE350西辺下	井戸横桿	長55.2 幅5.2 厚4.0	53	15	48	SE350西辺	井戸縦板	長55.2 幅13.6 厚1.2
52	5	47	SE350南辺上	井戸横桿	長64.0 幅5.8 厚3.6	53	16	48	SE350西辺	井戸縦板	長52.0 幅9.2 厚1.2
52	6	47	SE350南辺下	井戸横桿	長66.0 幅4.4 厚4.0	53	17	48	SE350西辺	井戸縦板	長63.2 幅13.6 厚1.2
52	7	47	SE350北辺上	井戸横桿	長64.6 幅5.2 厚2.4	54	1	48	SE350西辺	井戸縦板	長48.0 幅16.0 厚0.8
52	8	47	SE350北辺下	井戸横桿	長70.0 幅5.4 厚4.8	54	2	48	SE350西辺	井戸縦板	長48.2 幅15.2 厚1.2

埋蔵番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	埋蔵番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)
54	3	48	SE350西辺	井戸縦板	長51.6 幅13.6 厚1.2	55	5	49	SE350北辺	井戸縦板	長42.0 幅12.7 厚0.8
54	4	48	SE350西辺	井戸縦板	長45.6 幅15.2 厚1.2	55	6	49	SE350北辺	井戸縦板	長39.8 幅12.0 厚0.8
54	5	48	SE350西辺	井戸縦板	長44.0 幅13.6 厚1.2	55	7	49	SE350北辺	井戸縦板	長30.4 幅14.0 厚1.2
54	6	48	SE350西辺	井戸縦板	長39.4 幅14.0 厚1.0	55	8	49	SE350北辺	井戸縦板	長46.0 幅12.0 厚0.8
54	7	48	SE350西辺	井戸縦板	長46.8 幅12.2 厚0.6	55	9	49	SE350北辺	井戸縦板	長50.4 幅12.0 厚1.0
54	8	48	SE350西辺	井戸縦板	長41.6 幅12.8 厚1.0	55	10	49	SE350北辺	井戸縦板	長44.4 幅10.8 厚0.8
54	9	48	SE350西辺	井戸縦板	長42.0 幅12.8 厚0.8	55	11	49	SE350北辺	井戸縦板	長54.4 幅13.0 厚1.2
54	10	48	SE350西辺	井戸縦板	長42.8 幅12.2 厚0.6	55	12	49	SE350南辺	井戸縦板	長50.0 幅16.0 厚1.2
54	11	48	SE350南辺外	井戸縦板	長51.6 幅13.6 厚1.2	55	13	49	SE350	曲物	高17.2 幅0.6
54	12	49	SE350南辺外	井戸縦板	長62.4 幅15.6 厚1.4	55	14	49	SE350	曲物	高12.0 幅0.4
54	13	49	SE350南辺外	井戸縦板	長66.0 幅13.6 厚1.0						
54	14	49	SE350南辺外	井戸縦板	長59.6 幅12.0 厚1.0						
54	15	49	SE350南辺外	井戸縦板	長56.4 幅10.4 厚1.0						
54	16	49	SE350南辺外	井戸縦板	長47.8 幅9.6 厚0.6						
54	17	49	SE350南辺内	井戸縦板	長54.0 幅12.8 厚1.6						
54	18	49	SE350南辺内	井戸縦板	長47.4 幅14.4 厚1.2						
54	19	49	SE350南辺内	井戸縦板	長48.8 幅15.6 厚1.6						
54	20	49	SE350南辺外	井戸縦板	長34.4 幅16.6 厚0.8						
55	1	49	SE350北辺	井戸縦板	長63.2 幅13.2 厚0.8						
55	2	49	SE350北辺	井戸縦板	長60.0 幅13.2 厚1.2						
55	3	49	SE350北辺	井戸縦板	長54.8 幅10.8 厚0.8						
55	4	49	SE350北辺	井戸縦板	長58.4 幅10.8 厚1.8						

個体数は個体数測定による。
木製品は個体数を統計値としている。

mtあたりの出土数を求める際の面積は8800m²を用いている。

V まとめ

1 塔の腰遺跡の性格と年代観

今回の調査では、平安時代・鎌倉時代の遺構・遺物、江戸時代の遺物が出土している。

平安時代

平安時代は、遺構・遺物ともに遺存状態が悪い。しかし、それは平安時代に生活空間になっていた地域を中世になっても使用していたことを語ってくれる。調査区北西の歛状遺構は、平安時代の所産を見られ、生産城が広がっていたことが分かる。歛の軸線N—25°—Wは、道路状遺構をはじめとする中世の軸線とは明らかに異なる。遺物の出土状況や遺構の密集度から34・35・18・19G、45・46—22・23C周辺に歛の軸線に沿う建物が存在したと推定される。

出土している遺物は、99%が赤焼土器で、須恵器は1%にも満たない。赤焼土器の特徴として、無台坪に底部が突き出し、体部下半にやや膨らみを持つものが認められた。この特徴を示す土器(第31図13)が、S.D378にレンズ状堆積を示す火山灰層と、ほぼ間レベルで斜位に出土している。この火山灰は自然科學分析で十和田aとの結果を得ている。十和田aは現段階では、A.D.915年に十和田カルデラで東北地方一帯で認められるとの説が有力である。第31図13はその時期と変わらない年代観を想定したい。鶴岡市周辺の様相を見ると、この時期の調査はほとんど行われていない。庄内地方北半の飽海郡では、浮橋遺跡・小深田遺跡・下長橋遺跡等の調査成果があるが、様相を異にする。平成5~7年度に調査された鶴岡市西谷地遺跡では、8世紀代中葉・9世紀後半の良好な資料が出土している。8世紀中葉とされる「酸化焰土器」は小ぶりで深い鉢状を呈するもので、ケズリやナゲが丁寧に行われている。胎土は精良で、胎土分類①に類似し注目される。口縁部が内湾し、胎土が似ることから由来を求めるのは簡略にすぎると、「酸化焰土器」が8世紀以降どのような流れを持つのか、塔の腰遺跡の遺物を理解する糸口になると思われる。

新潟県と島村門新遺跡では「延長6年」(928年)銘の漆紙文書とともに土師器(本書の赤焼土器)が出土している(文献16・17)。土師器A2に、底部の作りや体部下半の膨らみが類似する(注1)。

以上の状況から、10世紀前半に、歛状遺構を伴う集落が営まれていたことが推定される。

鎌倉時代

溝で区画された屋敷地A~Lを推定することができる(第5図、表4)。屋敷地の軸線には、道路に直交するA~F・H・Iと、それよりやや東に傾くD・Gの2軸がある。HとGの遺構の重複により後者が先行すると思われる。区画の中には、井戸部材の遺存した井戸跡がおおよそ1基の割合で認められる。井戸跡の検出されない区画F・Gには、素掘り井戸と思われる土坑a類がある。屋敷地に井戸跡1基以上という状況から、井戸を基に屋敷区画を逆に規定できる可能性も考えられる。また、S.E309とS.E308、S.E304とS.K305、S.E350とS.E351・352のように井戸枠の遺存した井戸跡と土坑a類が2基接する例があり、井戸跡の造り変えや使い分けが推定される。今回の調査で建物跡を確認したのは、Aの屋敷地のみであるが、各区画に

拂因番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)	拂因番号	遺物番号	図版番号	出土地点	器種・部位	計測値(cm)
54	3	48	SE350西辺	井戸縦板	長51.6 幅13.6 厚1.2	55	5	49	SE350北辺	井戸縦板	長42.0 幅7.0 厚0.8
54	4	48	SE350西辺	井戸縦板	長45.6 幅15.2 厚1.2	55	6	49	SE350北辺	井戸縦板	長40.8 幅12.0 厚0.8
54	5	48	SE350西辺	井戸縦板	長44.0 幅13.6 厚1.2	55	7	49	SE350北辺	井戸縦板	長50.4 幅14.0 厚1.2
54	6	48	SE350西辺	井戸縦板	長39.4 幅14.0 厚1.0	55	8	49	SE350北辺	井戸縦板	長46.0 幅12.0 厚0.8
54	7	48	SE350西辺	井戸縦板	長46.8 幅15.2 厚0.6	55	9	49	SE350北辺	井戸縦板	長50.4 幅12.0 厚1.0
54	8	48	SE350西辺	井戸縦板	長41.6 幅14.8 厚1.0	55	10	49	SE350北辺	井戸縦板	長44.4 幅10.8 厚0.8
54	9	48	SE350西辺	井戸縦板	長42.0 幅13.8 厚0.8	55	11	49	SE350北辺	井戸縦板	長54.4 幅13.0 厚1.2
54	10	48	SE350西辺	井戸縦板	長42.8 幅15.2 厚0.6	55	12	49	SE350北辺	井戸縦板	長50.0 幅15.0 厚1.2
54	11	48	SE350南辺外	井戸縦板	長61.6 幅13.6 厚1.2	55	13	49	SE350	曲物	高17.2 厚0.6
54	12	49	SE350南辺外	井戸縦板	長62.4 幅15.6 厚1.4	55	14	49	SE350	曲物	高12.0 厚0.4
54	13	49	SE350南辺外	井戸縦板	長66.0 幅13.5 厚1.0						
54	14	49	SE350南辺外	井戸縦板	長59.6 幅12.0 厚1.0						
54	15	49	SE350南辺外	井戸縦板	長56.4 幅10.4 厚1.0						
54	16	49	SE350南辺外	井戸縦板	長47.8 幅16.6 厚1.6						
54	17	49	SE350南辺内	井戸縦板	長54.0 幅12.8 厚1.6						
54	18	49	SE350南辺内	井戸縦板	長47.4 幅14.4 厚1.2						
54	19	49	SE350南辺内	井戸縦板	長48.8 幅15.6 厚1.6						
54	20	49	SE350南辺外	井戸縦板	長34.4 幅7.6 厚0.8						
55	1	49	SE350北辺	井戸縦板	長63.2 幅13.2 厚0.8						
55	2	49	SE350北辺	井戸縦板	長60.0 幅13.2 厚1.2						
55	3	49	SE350北辺	井戸縦板	長54.8 幅10.8 厚0.8						
55	4	49	SE350北辺	井戸縦板	長58.4 幅10.8 厚1.0						

表7 錆倉時代遺物組成

種別	破片数	個体数
白磁碗	2	2
青磁碗	12	11
青磁盤	2	2
土師質土器(クロコ成形)	5	4
土師質土器(てづくり成形)	86	40
須恵器系陶器壺	74	32
須恵器系陶器壺裏	40	11
須恵器系陶器壺破片	38	36
須恵器系陶器壺鉢	42	20
笠形系陶器壺	5	1
笠形系陶器壺蓋	3	1
鐵製品釘	2	2
鐵製品刀子	1	1
鐵製品その他	2	2
石鉢	9	7
砥石	7	6
石製品その他	5	2
曲物	10	10
木製品その他	7	7
井戸部材	271	271
総計	623	470
mあたりの土師質土器	0.01	0.005
mあたりの輸入陶器	0.002	0.002
mあたりの国産陶器	0.023	0.012
mあたりの焼物	0.035	0.018

個体数は個体別別による。

本製品は個体数を破片数としている。

mあたりの出土数を求める際の面積は8800m²を用いている。

は、1棟以上の建物が存在するはずである。推定した区画の中の遺構のセットを整理することにより塔の腰遺跡の屋敷のパターンを把握することができると考え、課題として残す。

福島県郡山市荒井猫田遺跡では、13・14世紀の道路遺構・在地領主の屋敷跡・町里が調査され、道路と屋敷跡の関係が理解できるように検出されている(文献20)。塔の腰遺跡でも、調査区南半で道筋に面して屋敷区画が並び、調査区中央では道路からAの屋敷地に伸びる小路が確認できる。近年、中世前期村落の資料集積も進み(文献9他)、その様相が明らかになってきている。他遺跡との比較によって、塔の腰遺跡の情報は再編整理する必要を強く感じる。荒井猫田遺跡では、一世代50軒前後の建物と多数の井戸跡が確認され、井戸の集中地区や出土遺物から鉄加工職人や曲物職人の存在が考えられている(注2・文献20)。塔の腰遺跡でも、区画Fに素掘り井戸(土坑a類)、ロート状の土坑(土坑b類)が集中し、他地区と異なる遺構の在り方を示す。S K67・68・71・73等は、調査期間中に20~30cmの溜水が常にみられ、豊富な水量が確保されていたようである。それを利用した、作業場的な空間と理解したい。

出土した遺物は、破片点数は少ないものの、内容にはまとまりが見られる。青磁・珠洲・土師質土器皿の出土は日本海側の鎌倉時代の様相をよく表しているものと思われる。珠洲はII~IV期(文献10)に収まる。輸入陶磁器には、玉縁を有する白磁等12世紀に遡るものがあるが、青磁錐運井紋碗はI~5b類(文献2)を示し、珠洲との在り方から、遺跡の主体は概ね13世紀~14世紀前半代と判断したい。

これらの流通品と共に、土師質土器皿が44個体出土している。出土状況は、井戸跡・土坑の人为的埋土と遺構確認面からの出土が主である。井戸・土坑では、S K357から6個体まとめて出土している他は、単体または数破片の出土である。明瞭な使用痕も認められない。塔の腰遺跡周辺の土師質土器皿を伴う遺跡でも、同様の出土状況を示す。土師質工器皿の地域での使われ方については、検討が必要であると考えられているが(文献21)、細かい分析が待たれる。S K336では、青磁錐運井紋碗(I~5b類)との人为的埋土中の共伴がみられる。てづくね成形土師質土器皿は、遺存状態が悪く調整が不明瞭であるが、形態や段の付くような強いナデは平泉のII類(文献15・注3)の特徴をよく示している。II 2類は、13世紀前半から中葉に位置付けられている。土師質土器皿は、法量と技法の模倣は安易に可能であるが、厚みについては熟練を要すると思われる。塔の腰遺跡の土師質土器皿は、比較的薄い作りであり京都系技法を駆使しているようにも見て取れるが、厚みに均一性が無く口唇端部の作りが粗雑である。

江戸時代

II層上面から、17・18世紀と考えられる遺物が出土している。遺構は確認できず現在のところ詳細は不明である。塔の腰遺跡の西側に俗称地名「馬塚」「雜役面」があり、酒井家の馬を埋葬したこところとの伝承が残る(文献8)。

2 地域の中での塔の腰遺跡の位置付けと課題

庄内平野の南端部

塔の腰遺跡の北西約1kmの後田遺跡およびその南西部は、古墳時代以降集落が営まれている。一方、塔の腰遺跡以東の平地で集落が営まれるようになるのは、平安時代になってからである

と現在のところ理解される。その一つとして塔の腰遺跡は、青龍寺川の河岸段丘として形成された微高地に10世紀に入り姿を現す。

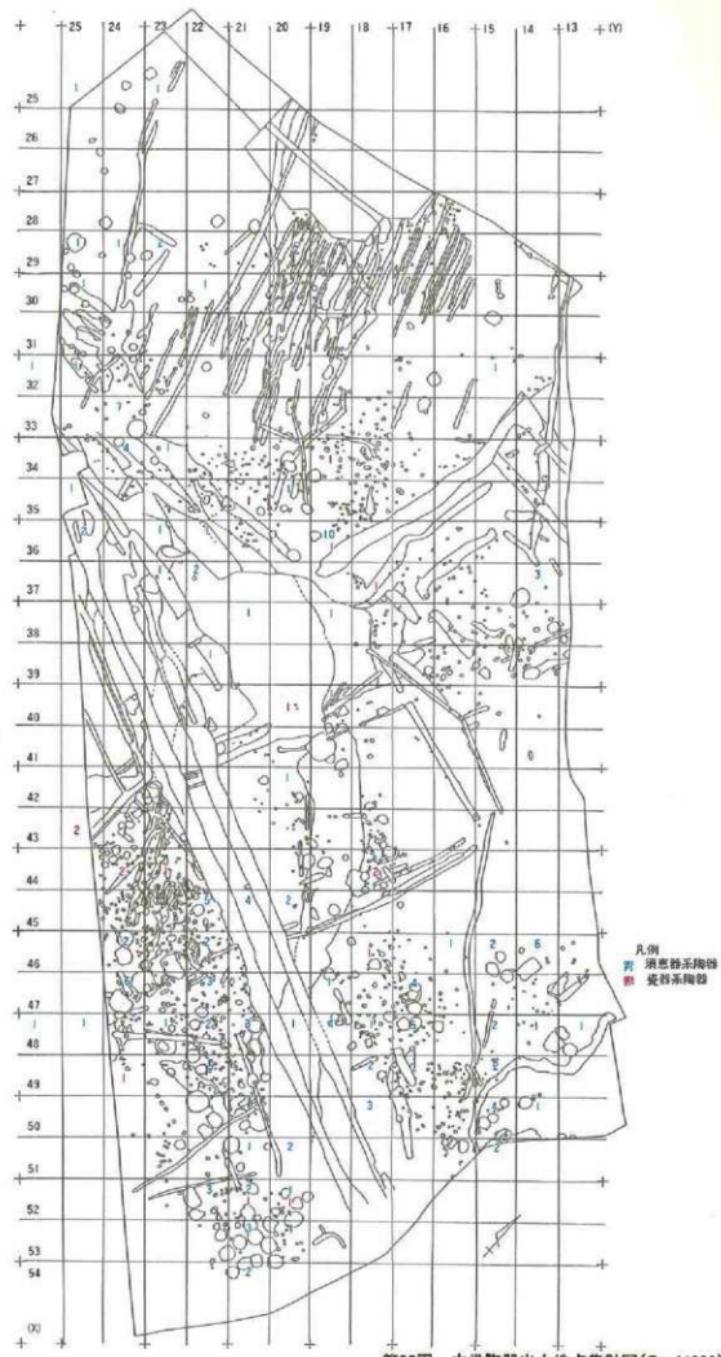
その後継続することなく、10世紀後葉には姿を消し、約200年間の空白を経て鎌倉時代にまた集落が営まれる。この時期、庄内平野の南端部には遺跡が急に増加している。興味深いことに、塔の腰遺跡から西方日本海までの間大泉地区には、土師質土器皿が出土する遺跡が点在して確認されている(第62図)。各遺跡はてづくね成形が主体で、塔の腰遺跡の土師質土器皿と技法・法量が類似する。西谷地遺跡では74点出土し、道路状遺構に掘立建物跡・竪穴建物状遺構(中世以降の所産とする大規模な溝に軸を等しくする建物)が伴う。大泉地区の西側は、平泉奥州藤原氏の郎従としての地位にあった田川氏の政治拠点田川がある。奥羽合戦の後、13世紀に入り田川地区の東には土師質土器皿を持つ集落がまとまって営まれている。存続期間は短く、14世紀前半には衰退している。これらの遺跡の12~14世紀の情報と田川地区のこれまでの研究成果を分析することにより、田川氏滅亡とその後の情勢を理解できると思われる。遺構の類似性・遺物組成・地理的特性を整理する機会を改めて得たいと考える。

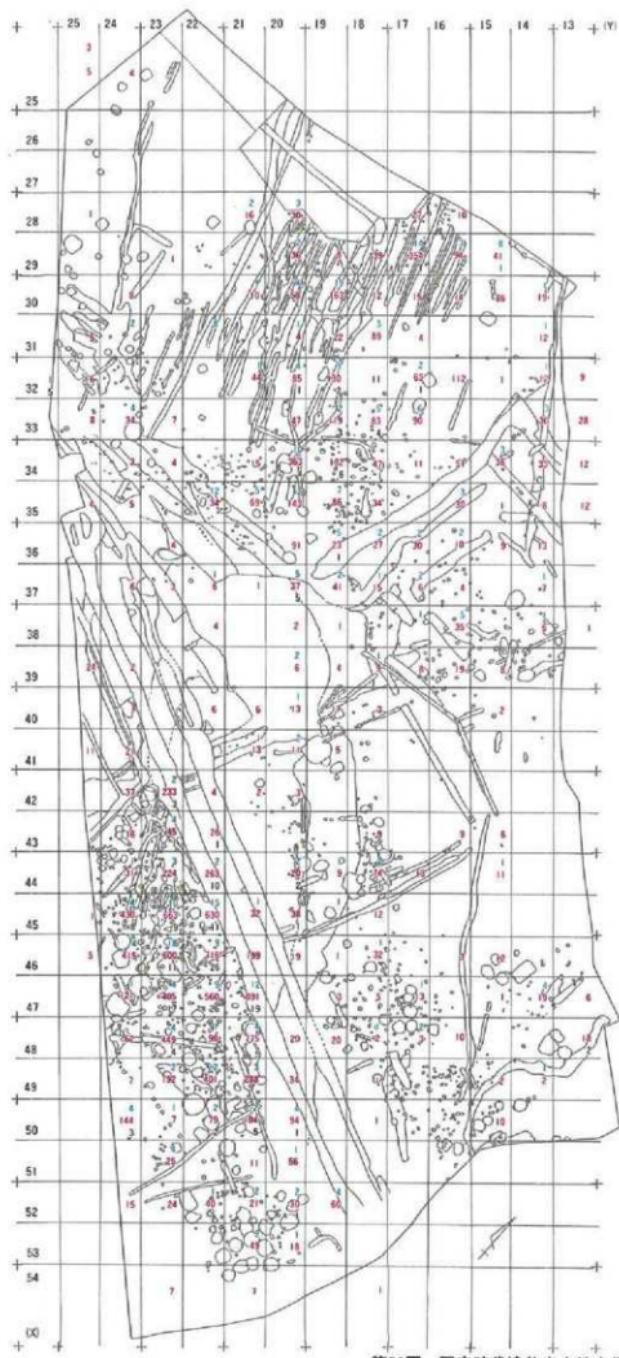
検出された道路の東西

塔の腰遺跡の今回の調査では、鎌倉時代の道路が現在まで使用されていたことが分かった。現在は畠地を賣る農道となっているが、鎌倉時代は屋敷の並ぶ街道だったと考えられる。中世の景観が残されていることが、意外に多いのではないかと改めて強く感じる。

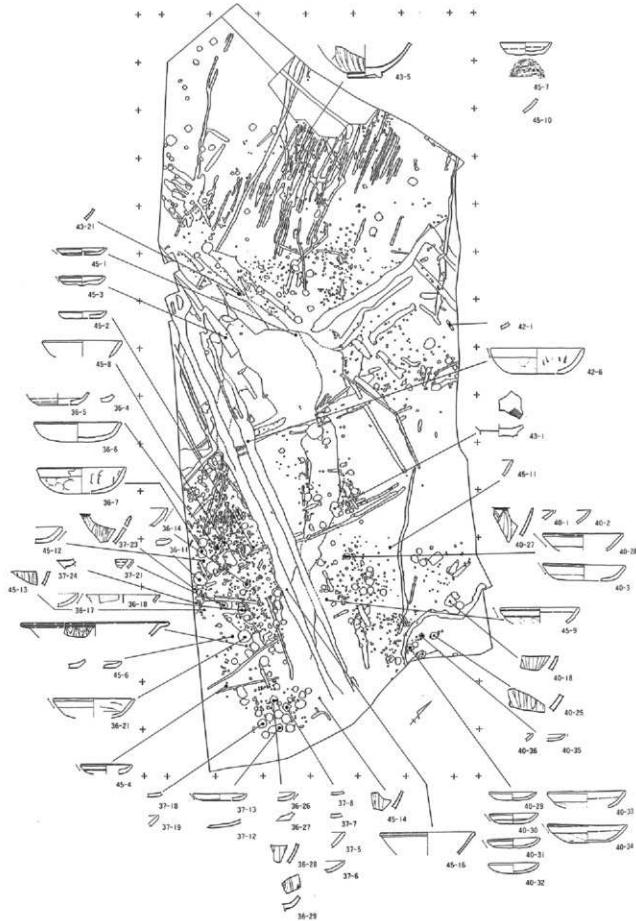
農道は、東側の青龍寺川手前の堰で分断されているが、明治年間の地籍図によると、堰に沿って北側に折れていたようである。青龍寺川は、慶長年間に農業用水整備の目的で改修されており(文献3)、この際、道路にも手が加えられた可能性が高い。道路東側延長線約1kmには、平成23年度に鶴岡市教育委員会が調査を行っている鳥居上遺跡がある。掘立柱建物跡が検出され、柱状高台等が出土し、12世紀末~13世紀の年代が想定されている(注4)。

一方西側では、明治年間地籍図によると、道路は調査区西側の丘陵南裾を通り過ぎている。地元の聞き取り調査を行ったところ、昭和30年代の耕地整理が行われるまで、「塔ノ山」と呼ばれる小高い山があったとされる(国版24・25、注5)。頂上部には宝筐印塔、愛宕大権現の石塔が置かれていた。また、五重の塔が立っていたとの伝承が残る。「塔の腰」の字はその腰回りという意味である(文献8)。道路は、「塔ノ山」の南を通り、現湯田川街道越え、石鳥居をくぐり井岡寺参道に入る。道路の西方直線上、調査区から約200mのところに堂の山があり、その山腹に井岡寺が位置する。井岡寺は、天長2年(825年)淳和天皇の勅願所として開創され、鎌倉時代には幕府祈願所となつたと言われる。延喜式内社の遠賀神社が中世に井岡寺南の現在地に移されている(文献25)。井岡寺裏山には、土塁が残り城館が営まれた時期もあったとされる。塔の腰遺跡は井岡寺・遠賀神社が臨む、東方の参道上に広がる。井岡寺は存続し、江戸時代には寺領72石(大字寺田・白山・森片周辺)を有する隆盛を極める(文献25)。その参道延長線上の、街道沿いにある塔の腰遺跡の中世集落は、何故か存続期間が13世紀~14世紀前半と短い。江戸時代に入り現国道345号が湯田川街道として栄えるようになっても、馬を葬った所との伝承が残るだけで遺構は確認できない。その限られた存続期間が、遺跡の性格を示すと考えられる。

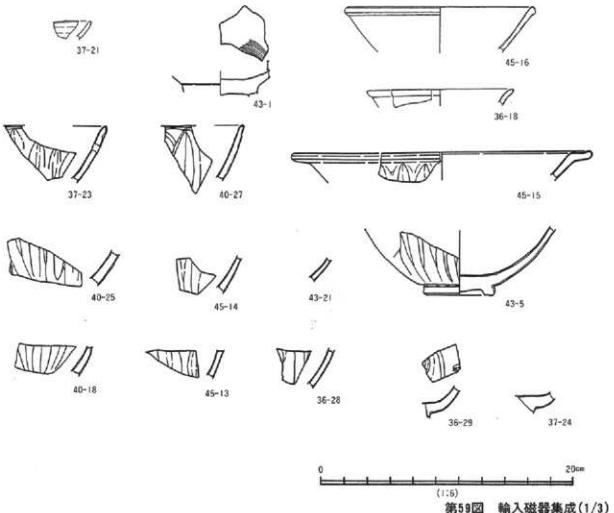




第56図 平安時代遺物出土地点集計図(S=1:600)



第58図 土師質土器・磁器出土分布図(S=1:800)



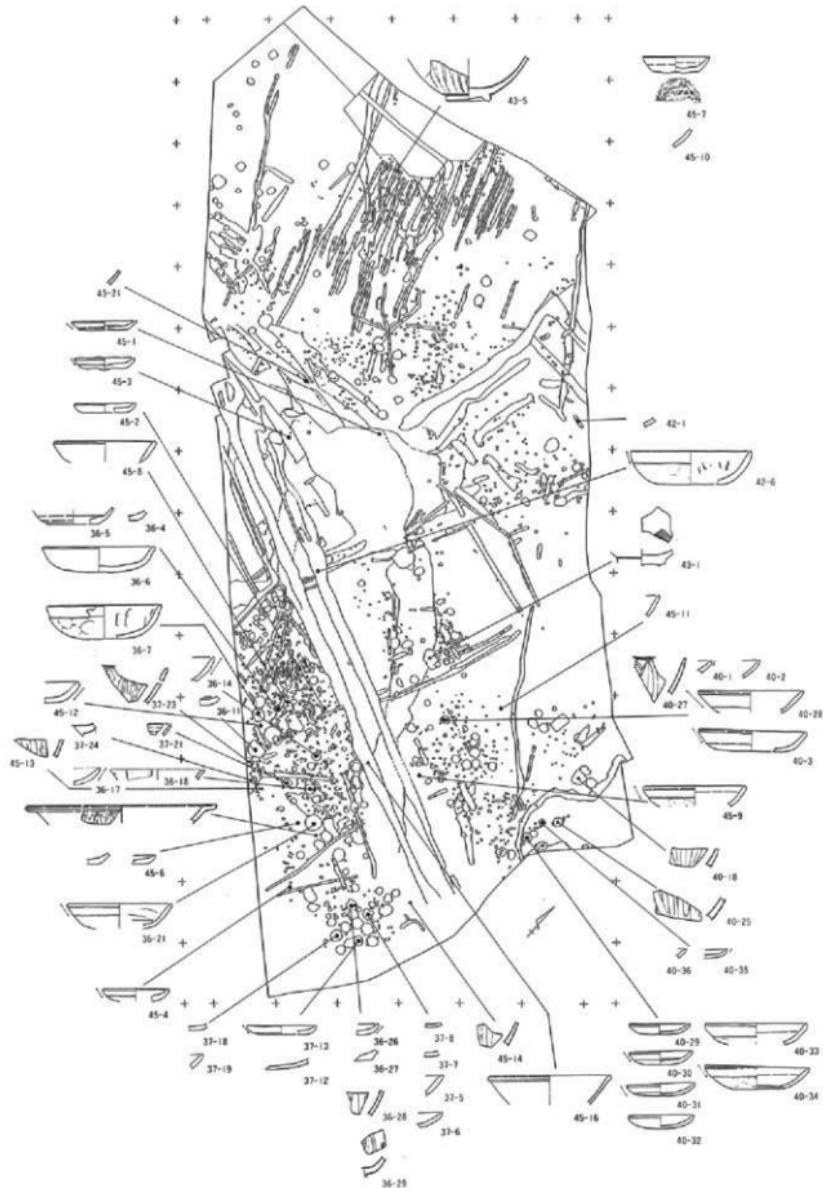
第59図 輸入磁器集成(1/3)

注

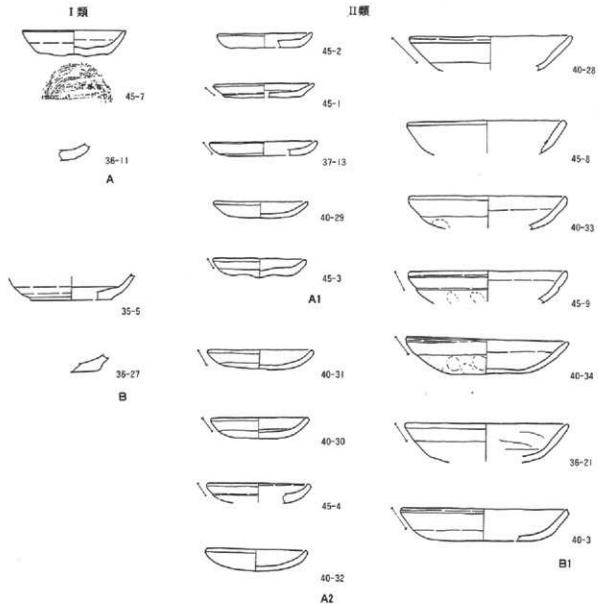
- 1 田中地区にて発見されたとくに、墓葬中の下ノ西道路遺物との相似性より指摘いただく。
- 2 道路跡の上に存在する複数の埋葬坑を示す。現状では明確に判別できぬ。
- 3 未確認箇所にてご示していただきたい。
- 4 繕造建瓦にて資料の提供をしていただきたい。
- 5 井戸寺古墳大帶環状石柱に、写真の頂部の詳しい説明をしていただきたい。大澤氏によると、昭和30年代後半、「塔ノ山」は重機で削平されている。即ち、塔の下から径15cm、高さ30cmの割削の鉄筋と10cmの大木製斜面斜面が出土し埋め戻したとのことである。

主な参考文献

- 1 鹿児島市文化財調査協会「くるるか組合 文化財歩行コース施設内一」 1976
- 2 鹿児島市文部課 岩田由「玄宮御土土の輸入中國陶器について-型式別分類と編年を中心として-」『九州歴史資料館研究論集』4 1978
- 3 高橋健次「太宰府城」江口時一監修 鹿児島市文化史料館内蔵資料叢書第10(1981)所収
- 4 伊藤俊輔他著「九州日本古代大都市の考古学」山川出版社 1981
- 5 佐野信也著「鹿児島県の古墳」鹿児島県立総合科学博物館叢書第53集 1989
- 6 山形県教育委員会「大字下ノ町」大字下ノ町新規墓石調査報告書 第153集 1990
- 7 古墳時代南西「黄斑された中世の建物跡」山形県埋蔵文化財板書第153集 1992
- 8 大阪文化財愛好会「大阪地区、鹿歩地名古美術」 1993
- 9 北海道教育委員会「北海道の家、屋敷、暮らし」 1994
- 10 朝鮮半島「百濟の城」 1994
- 11 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」 1994
- 12 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「後北道路・大字下ノ町新規墓石調査明治料」 1994
- 13 山形県教育委員会「分水帯調査報告書(22)」山形県埋蔵文化財調査報告書第105号 1994
- 14 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第25号 1995
- 15 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第21号 1995
- 16 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第4号 1995
- 17 朝鮮人山形県教育委員会「古の陸奥国調査報告書(陸奥地区)」山形県埋蔵文化財調査報告書第4号 1995
- 18 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第33号 1996
- 19 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」 1996
- 20 朝鮮人山形県埋蔵文化財センター「古の陸奥国調査報告書明治料」 1996
- 21 朝鮮考古学会「福井考古学 第39号」 1997
- 22 伊藤吉古「墓と世界-篠原の民族と信州」 1997
- 23 鶴林院「佐々木高麗と月光山城跡 平安時代の篠原古墳について」『山形考古』第6巻第1号 1997
- 24 伊藤吉古土器研究会「レンガクム北條の10・11世紀代の土器群相」 1997
- 25 大澤榮蔵「井筒寺の歴史」



第58図 土師質土器・磁器出土分布図(S=1:800)



分類概要

I類 口クロ成形

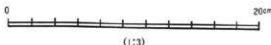
- A 小型
- B 大型

II類 てづくね成形

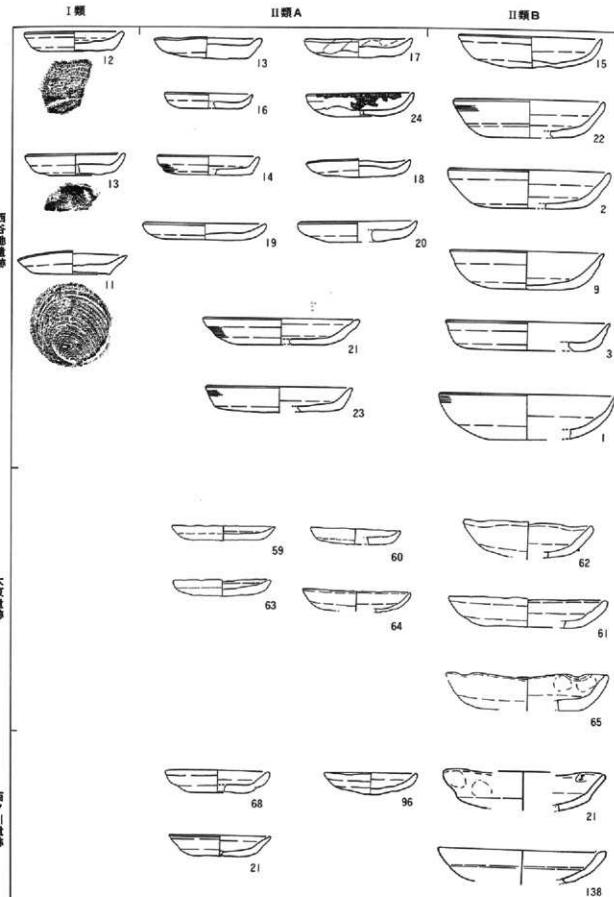
- A 小型
- 1 平底
- 2 丸底

B 大型

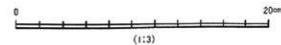
- 1 体部が外傾しながら立ち上がる
- 口唇部に面を持つものあり
- 2 体部下半にふくらみを持つ



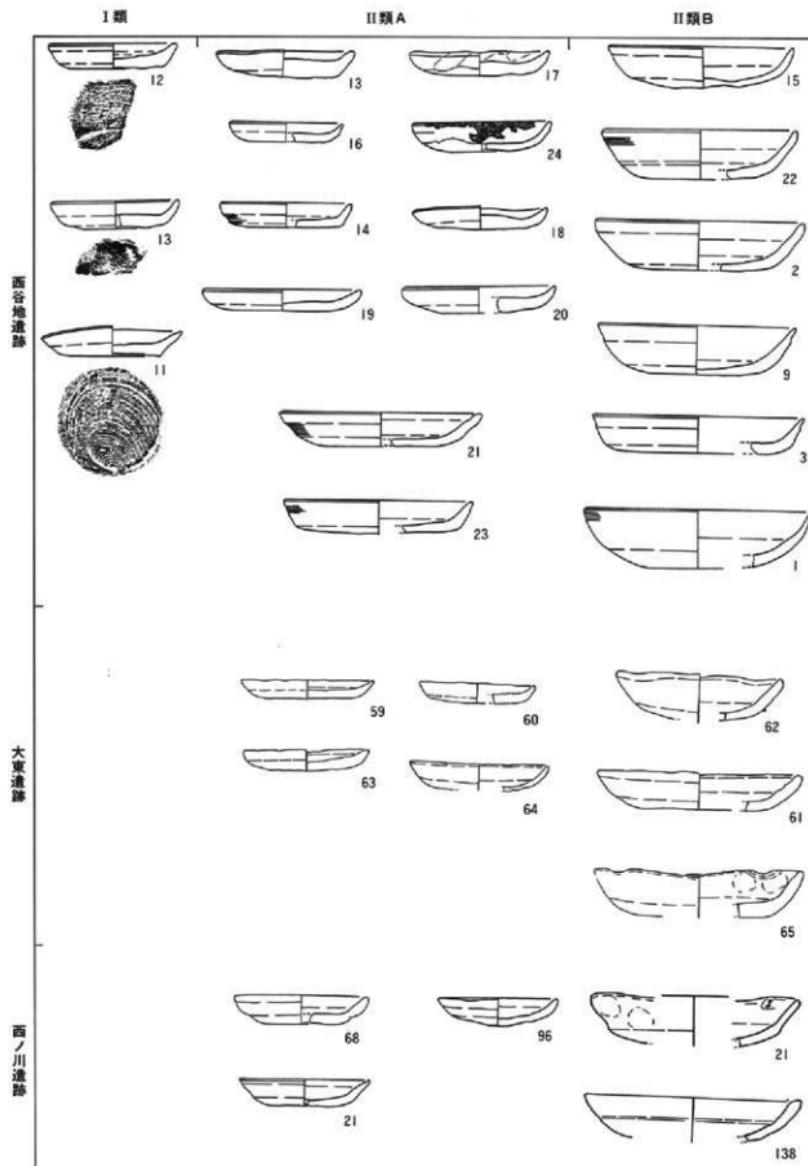
第80図 土師質土器集成(1/3)



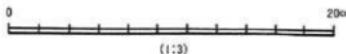
文献6, 14, 18
遺物番号は各報告書による。



第81図 周辺の遺跡出土土師質土器



文献6, 14, 18
遺物番号は各報告書による。



第61図 周辺の遺跡出土土師質土器



大正 2 年測図 大正 5 年製版「錦岡」に加筆。

第62図 土師質土器出土遺跡(S=1:50000)

報告書抄録

ふりがな 書名	とうのこしいせきはくつちょうさほうこくしょ 塔の腰遺跡発掘調査報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第50集							
編集者名	須賀井新人・水戸弘美・佐竹桂一							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301							
発行年月日	西暦1997年10月26日							
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
塔の腰	山形県 鶴岡市 大字井岡 塔の腰	6203	昭和63年度 登録	38度 42分 30秒	139度 48分 33秒	19940509 19940914	9,200	東北横断自動車道酒田線 (朝日~酒田間) 建設工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特 記 事 項	
塔の腰	集落跡	平安時代	土坑	4	須恵器(壺・甕・壺等) 赤焼土器(壺・甕・鍋等) 黒色土器(壺) 土製品(土鍤)			道路遺構に面し、区画溝を伴う中世の屋敷跡。
			畝状遺構	1				
	鎌倉時代	掘立柱建物跡	1	須恵器系陶器(甕・擂鉢等) 壺器系陶器(甕)				
		溝跡	156	瀬戸(壺) 青磁(碗・盤等) 土師質土器(皿) 石製品(石鉢・砥石等) 木製品(曲物・柄杓・箸等) 古錢(熙寧元宝?)				
		井戸跡	11					
		土坑	194					

図 版



遺跡遠景（南から）



調査区全景（左上方が北）



トレンチ調査風景（西から）



重機稼動・面整理状況（東から）



面整理風景（西から）



調査風景・遺構精査（東から）



土坑群精査状況（東から）



平面図作成作業風景



記録作業風景



現地説明会風景



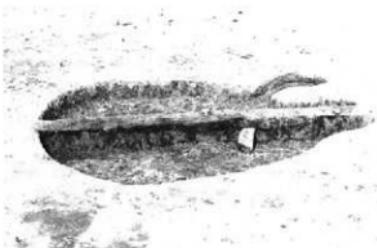
遺構プラン検出状況（南東から）



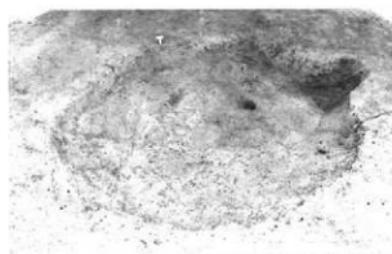
調査区全景（南東から）



SK 317土層断面（南から）



SK 318土層断面（南から）



SK 317完掘状況（北東から）



SK 318完掘状況（北東から）



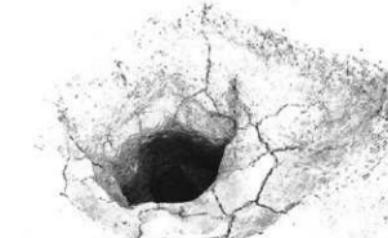
SK 316土層断面（北西から）



SK 623・RP 18出土状況（東から）



SK 175・RP 3～6出土状況（北東から）



SK 316完掘状況（北西から）



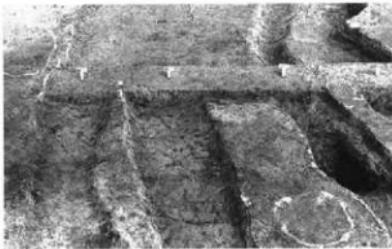
缺状造構完掘状況（北西から）



S D 504~506土層断面（東から）



S D 382・421・419土層断面（東から）



S D 501~503土層断面（東から）



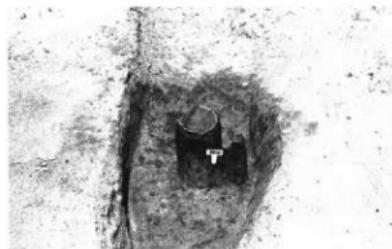
S D 378完掘状況（北西から）



S D 378土層断面 火山灰出土状況（東から）



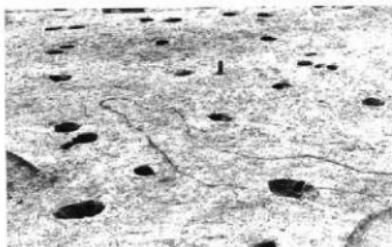
S D 378・RP 11出土状況（東から）



S D 388・RP 10出土状況（東から）



S B 1 振立柱建物跡（上空から）



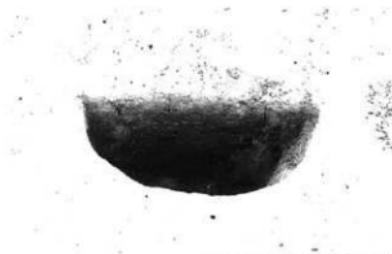
S B 1 振立柱建物跡（東から）



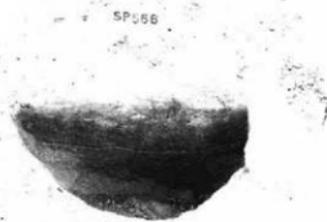
S P 563 土層断面（東から）



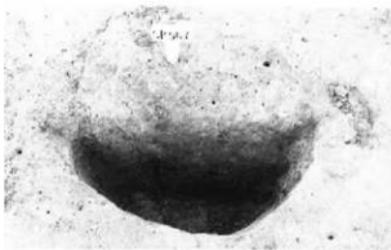
S P 564 土層断面（東から）



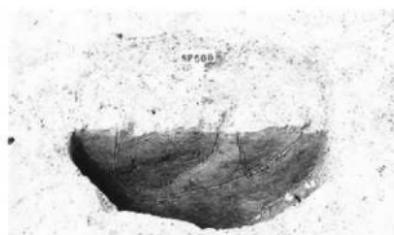
S P 565 土層断面（東から）



S P 566 土層断面（東から）



S P 567 土層断面（東から）



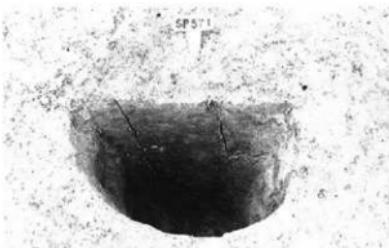
S P 568 土層断面（南から）



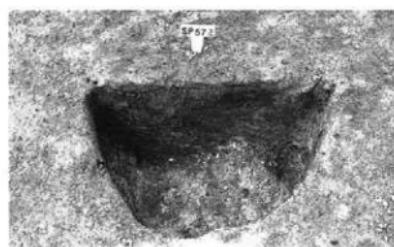
S P 569 土層断面（南東から）



S P 570 土層断面（南東から）



S P 571 土層断面（南東から）



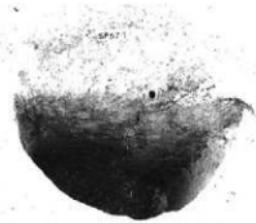
S P 572 土層断面（南東から）



S P 573 土層断面（南東から）



SP 574 土層断面 (北東から)



SP 575 土層断面 (北東から)



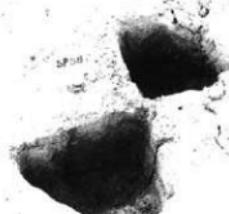
SP 576 土層断面 (北東から)



SP 577 土層断面 (北東から)



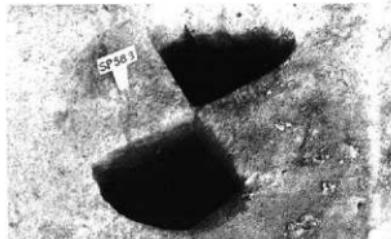
SP 586 土層断面 (北東から)



SP 587 土層断面 (北東から)



SP 588 土層断面 (北東から)



SP 583 土層断面 (南西から)



SP 578 土層断面（南から）



SP 579 土層断面（南から）



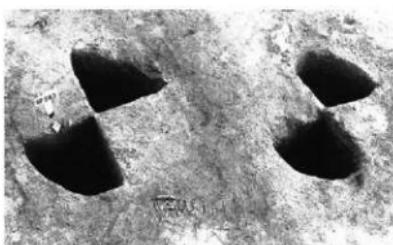
SP 580・SD 469 土層断面（西から）



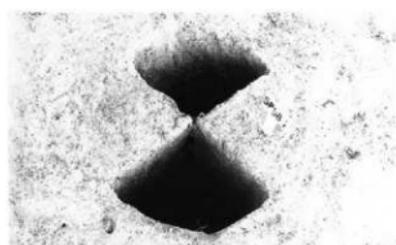
SP 581 土層断面（南東から）



SP 582 土層断面（南から）



SP 584・593 土層断面（北東から）



SP 585 土層断面（南西から）



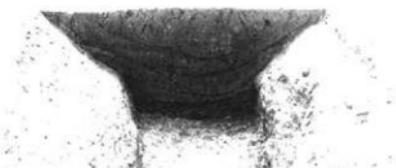
SD 411・SX 363 土層断面（西から）



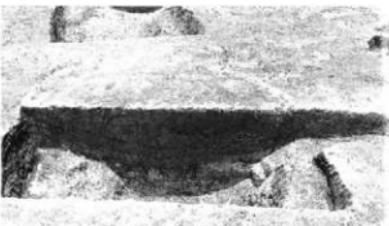
S D 408北端部分（北から）



S D 408土層断面 36-19G部分（南から）



S D 408土層断面 35-17G部分（南から）



S D 408土層断面 33-14・15G部分（南から）



調査区南辺部（付け替え農道部）
S D 101・102完掘状況



S D 446・447土層断面（東から）



旧河道・基本層序（北から）



S D 106・107発掘状況（北から）



S D 106底面ピット検出状況（南から）



S D 106・107土層断面（南から）



S E 301土層断面（西から）



S E 301土層断面（北東から）



S E 301遺物出土状況（北東から）



S E 34土層断面（南から）



S E 34井側検出状況（南から）



S E 302曲物検出状況（南から）



S E 302井筒検出状況（南から）



S E 303井筒検出状況（南東から）



S E 303井筒内土層断面（南東から）



S E 520・S K 519完掘状況（東から）



S E 323井側検出状況（南から）



S E 323曲物出土状況（南から）



S E 323井側検出状況（南から）



SE 304土層断面（北から）



SE 304遺物出土状況（北から）



SE 304井側内底部土色変化（北から）



SE 360井側検出状況（南から）



SE 309土層断面（南から）



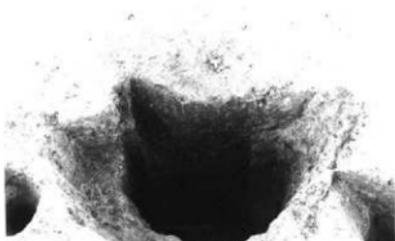
SE 309井筒検出状況（南から）



SE 314土層断面（南東から）



SE 314井筒検出状況（南から）



S E 350土層断面（南から）



S E 350完掘状況（南から）



43・44-24G 遺構群完掘状況（北東から）



S K 21土層断面（東から）



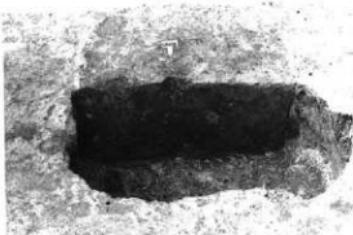
S K 25土層断面（南から）



S K 23土層断面（南西から）



S K 158土層断面（西から）



S K 159土層断面（南から）



SK 27完掘状況（南東から）



SK 32・SD 125土層断面（南東から）



SK 33土層断面（南東から）



SK 32完掘状況（東から）



SK 33完掘状況（東から）



SK 37完掘状況（南から）



SK 39土層断面（南東から）



SK 44土層断面（南東から）



S K 45土層断面（西から）



S K 45完掘状況（西から）



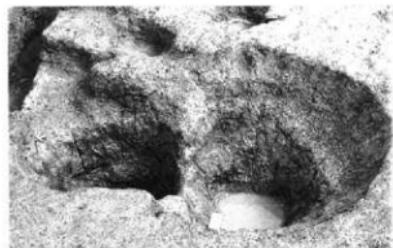
S X77・S D140南端部完掘状況（北東から）



S X77・S D140土層断面（南西から）



S D140・S K 76土層断面（南西から）



S K 88完掘状況（南から）



S K 41土層断面（南東から）



S K 48・49・50土層断面（南西から）



S K 36・78土層断面（北西から）



S K 36発掘状況（東から）



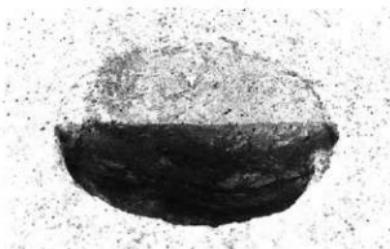
S K 78土層断面（西から）



S K 78木製品出土状況（西から）



S K 47土層断面（南西から）



S K 56土層断面（西から）



S K 57土層断面（西から）



S K 58土層断面（西から）



SK 54土層断面（西から）



SK 55土層断面（西から）



SK 61土層断面（北西から）



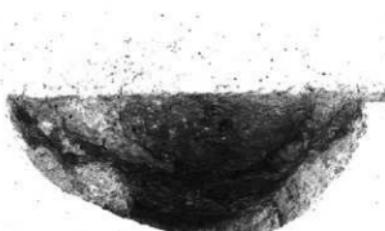
SK 55完掘状況（西から）



SK 60土層断面（南西から）



SK 60完掘状況（西から）



SK 62土層断面（西から）



SK 63・70・69土層断面（南西から）



S K 66土層断面（西から）



S K 66完掘状況（北西から）



S K 67木製品出土状況（東から）



S K 68土層断面（南から）



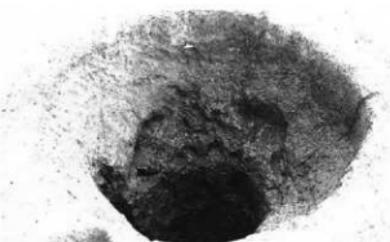
S K 71・72土層断面（西から）



S K 71・72完掘状況（北西から）



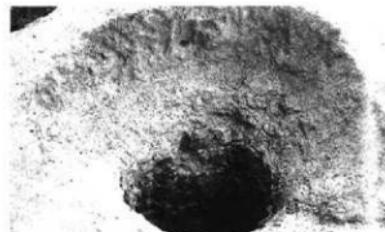
S K 73土層断面（南西から）



S K 73完掘状況（南西から）



SK 74土層断面（南西から）



SK 74完掘状況（南西から）



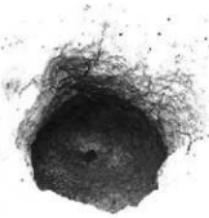
SK 75土層断面（南西から）



SK 87土層断面（南から）



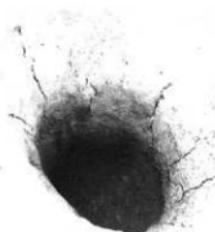
SK 305土層断面（東から）



SK 308完掘状況（東から）



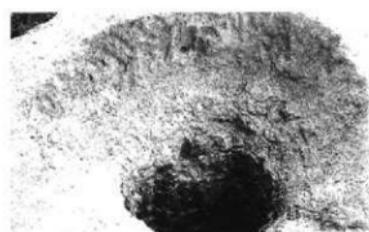
SK 310完掘状況（北西から）



SK 311・SP 530完掘状況（東から）



SK 74土層断面（南西から）



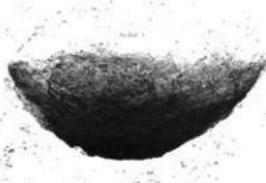
SK 74完掘状況（南西から）



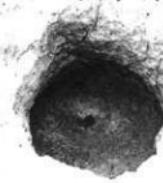
SK 75土層断面（南西から）



SK 87土層断面（南から）



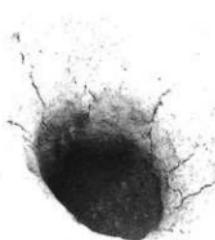
SK 305土層断面（東から）



SK 308完掘状況（東から）



SK 310完掘状況（北西から）



SK 311・SP 530完掘状況（東から）



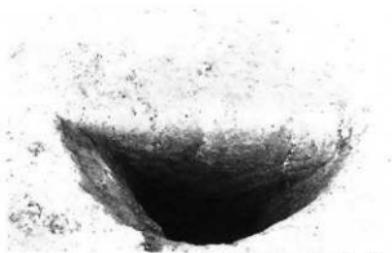
SK 324土層断面（南東から）



SK 334土層断面（南から）



SK 336完掘状況（西から）



SK 337土層断面（南西から）



SK 339完掘状況（南から）



SK 341土層断面（南から）



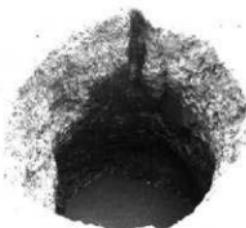
SK 342出土状況（南西から）



SK 342・344完掘状況（南西から）



S K 352土層断面（南西から）



S K 352完掘状況（西から）



S P 483・484・370土層断面（南西から）



S D 465土層断面（東から）



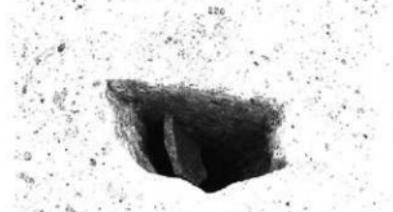
S D 478土層断面（東から）



S D 370土層断面（南から）



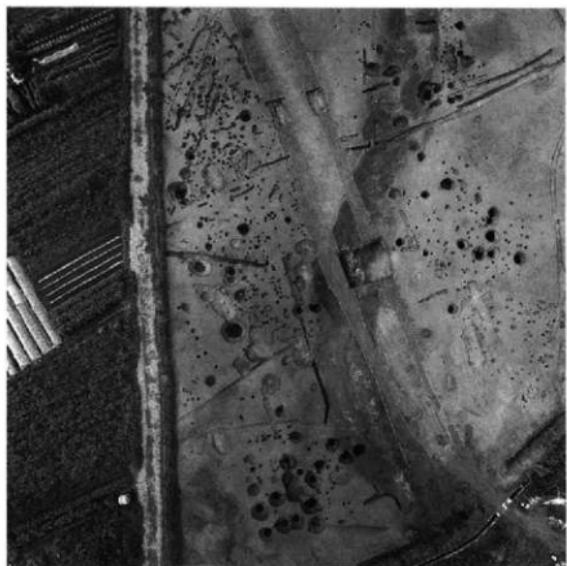
道路状遺構（東から）



S P 220土層断面 38-3 出土状況（南東から）



屋敷の区画B
42—18G周辺（上空から）



土坑・井戸の集中
調査区南東部分（上空から）



井岡寺参道から井岡寺を臨む（東から）



遠賀神社と井岡寺



移転された石塔



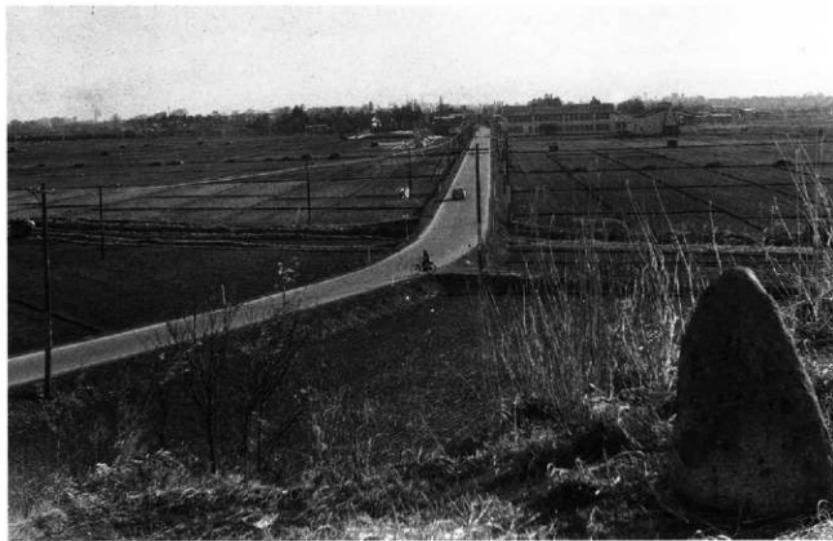
追分石
「右みのをか寺道
左たがはみち」



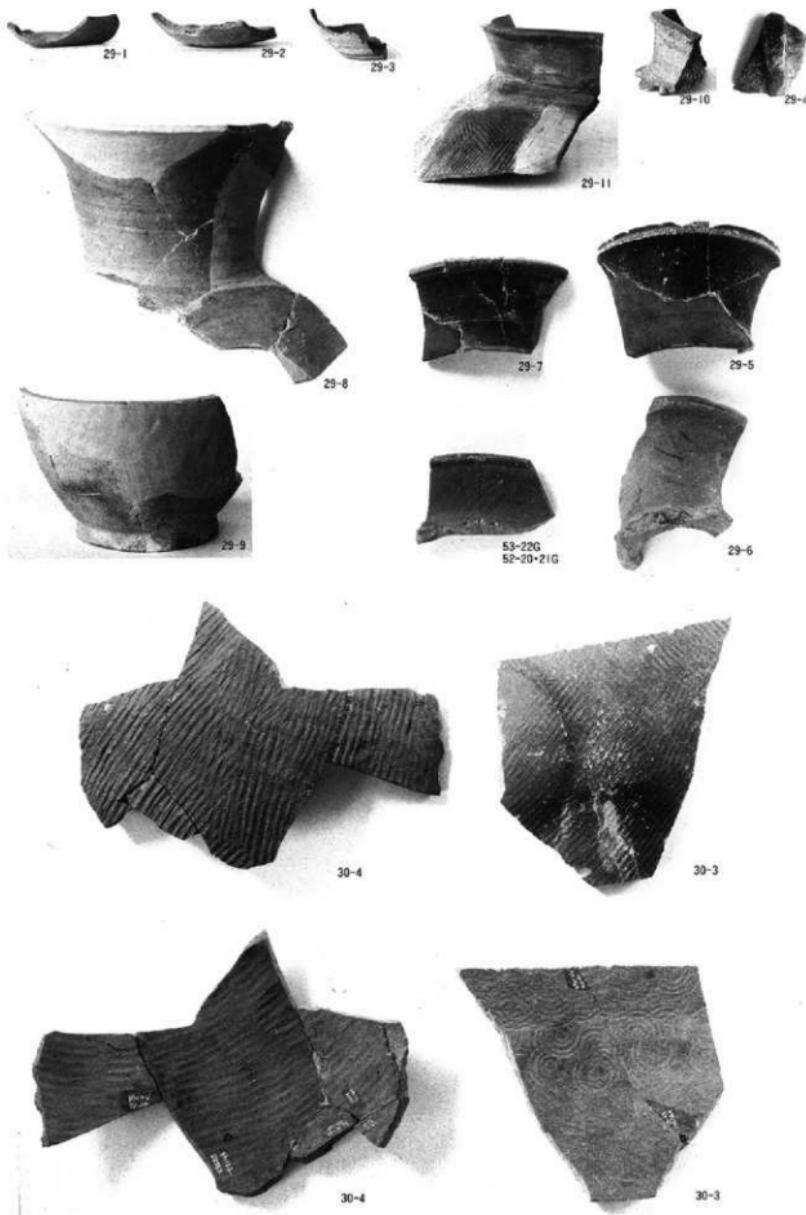
塔ノ山頂上に置かれた石塔、奥が井岡寺と参道（北東から）。昭和30年代後半・大澤榮繩氏撮影

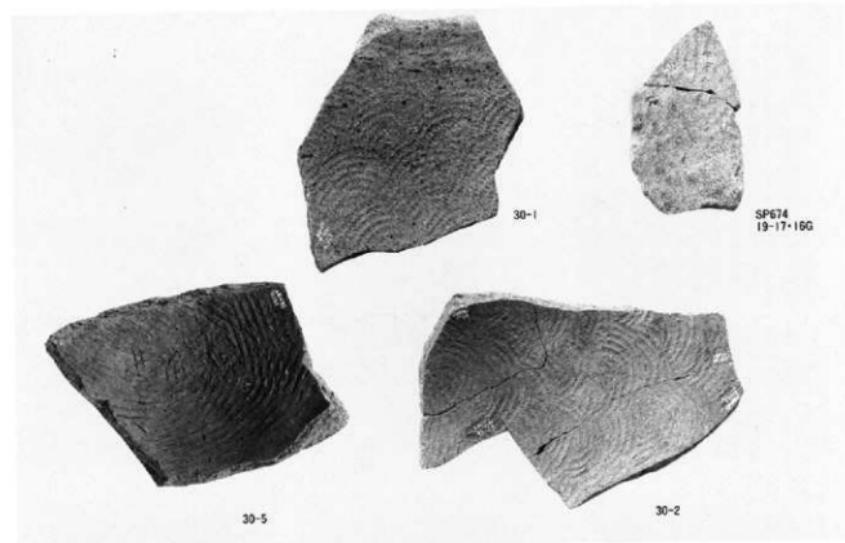
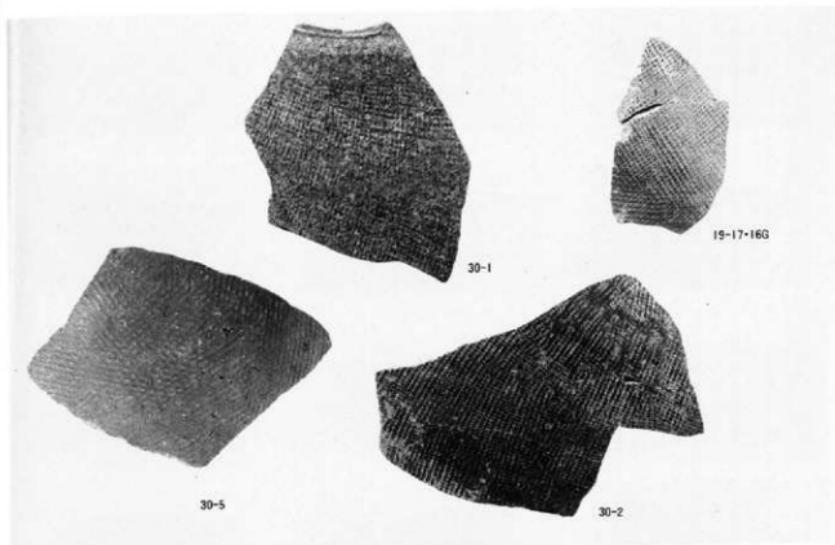


塔ノ山全景。裾中央に井岡寺街道の鳥居（北から）。昭和30年代後半・大澤榮繩氏撮影



塔ノ山頂上から北東を臨む。右端が調査区、中央現国道345号。昭和30年代後半・大澤榮繩氏撮影







31-1



31-2



31-3



31-4



31-5



31-6



31-7



31-8



31-9



31-10



31-11



31-12



31-13



31-14



31-15



31-13



31-15



31-17



31-18



32-1



32-2





33-7



33-8



33-9



33-10



33-12

33-7



33-13



33-14



33-15



33-16



33-17



33-2



33-20



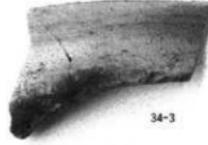
45-46-22G



33-11



34-1



34-3



34-4



45-23G



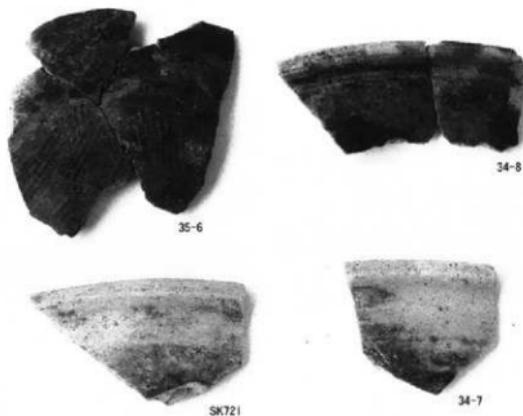
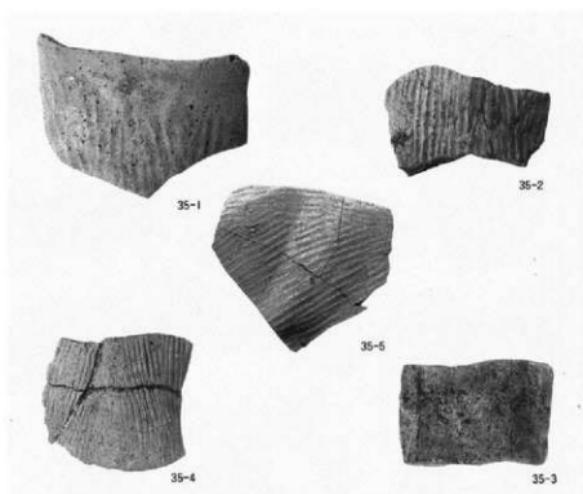
34-9

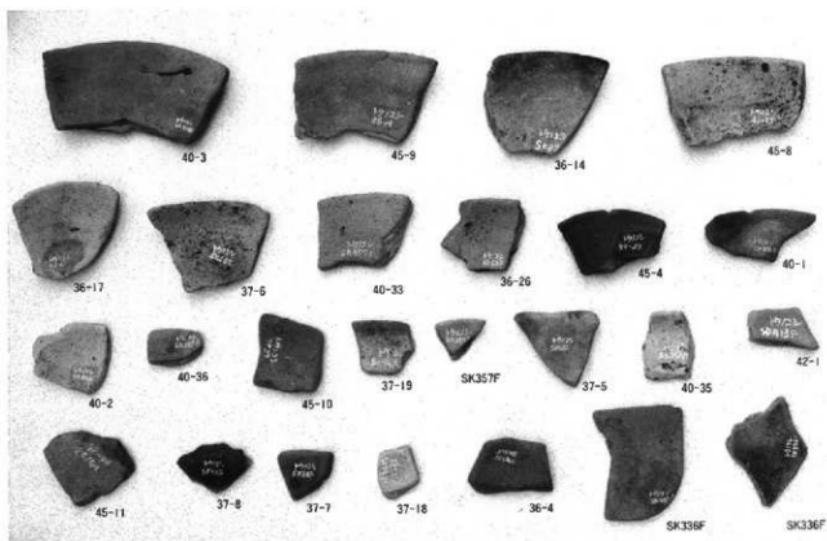
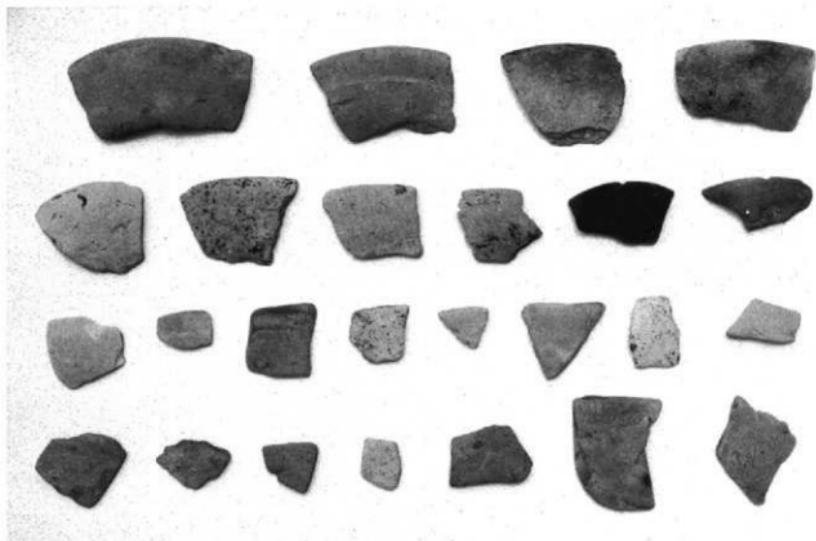


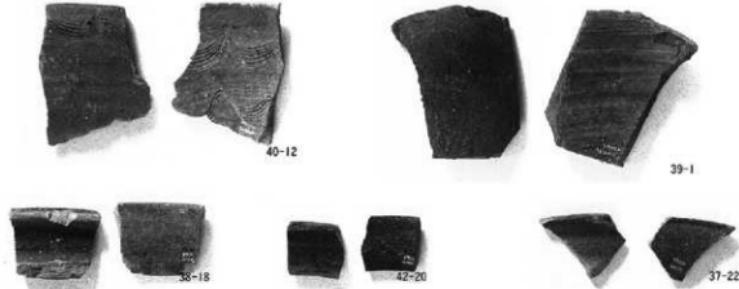
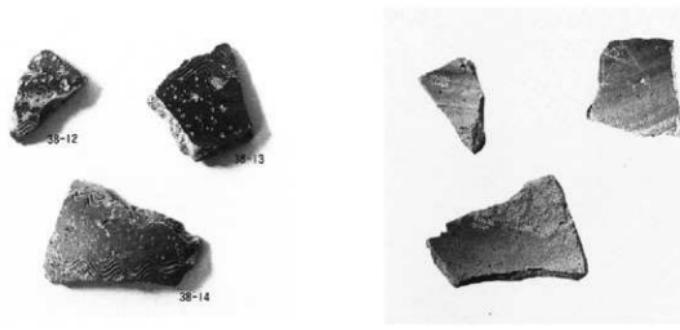
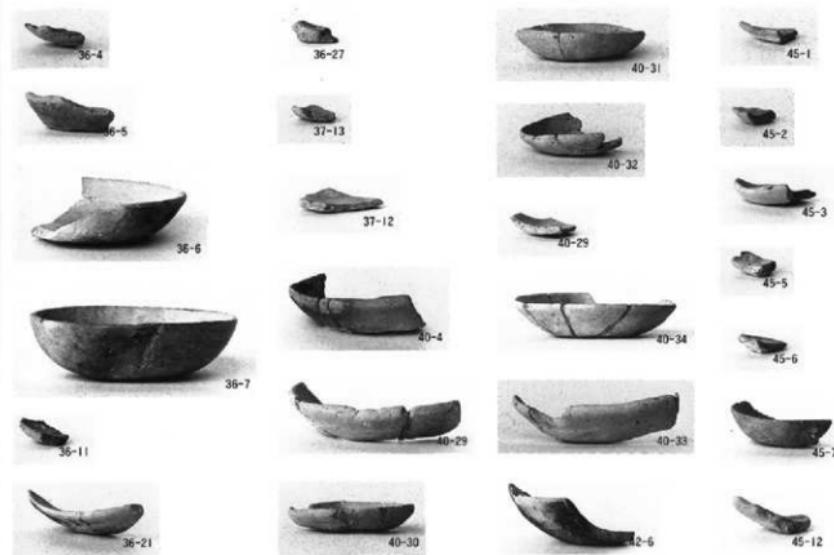
34-6

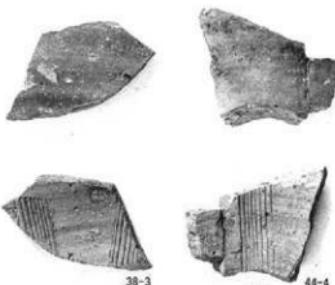


34-5









38-3 44-4



35-16



40-15 40-16



37-15



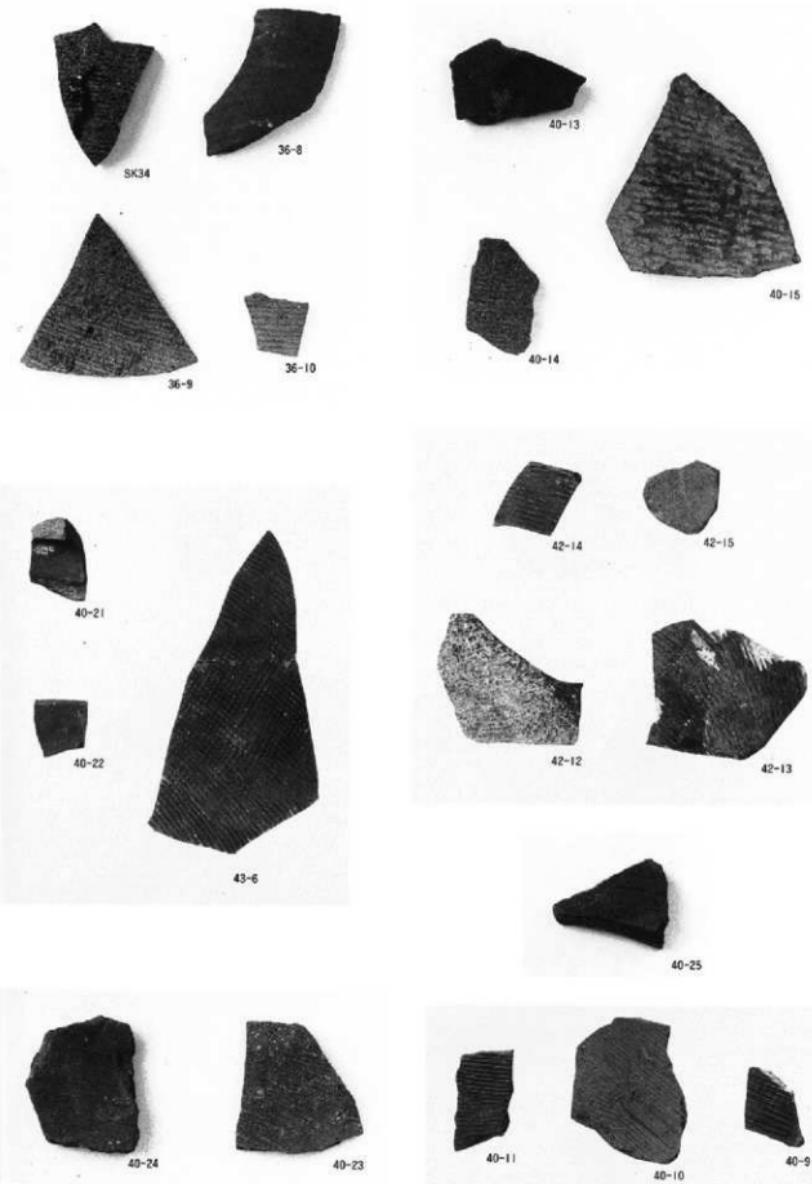
44-6

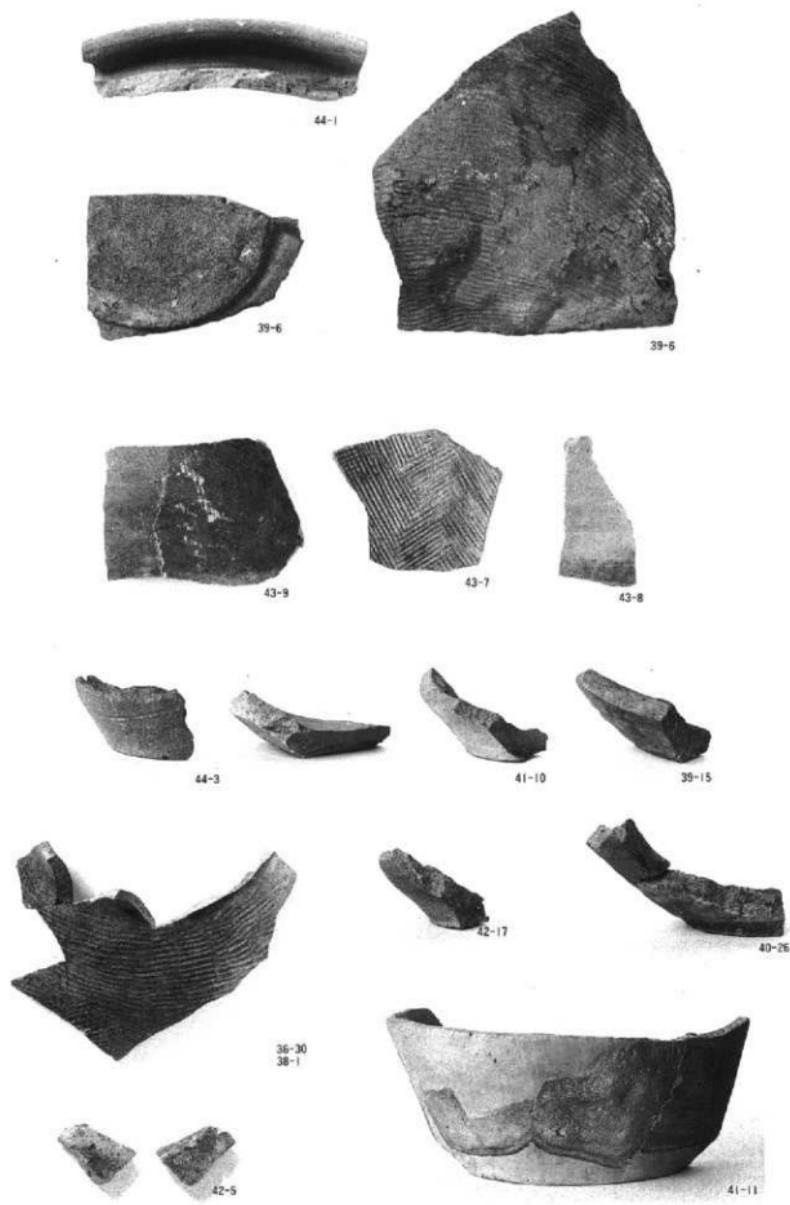


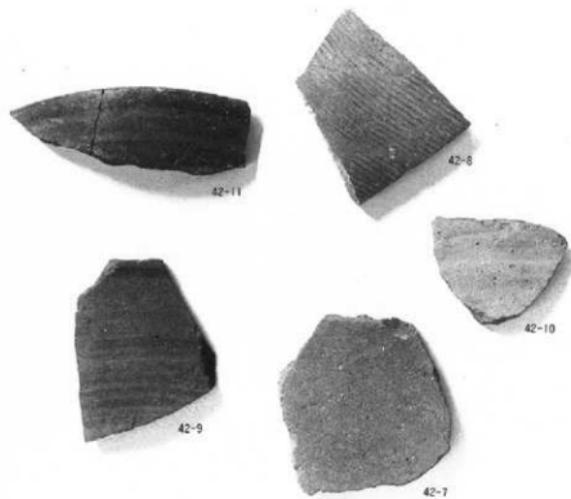
43-13



44-5









39-9



39-14



39-11



39-13

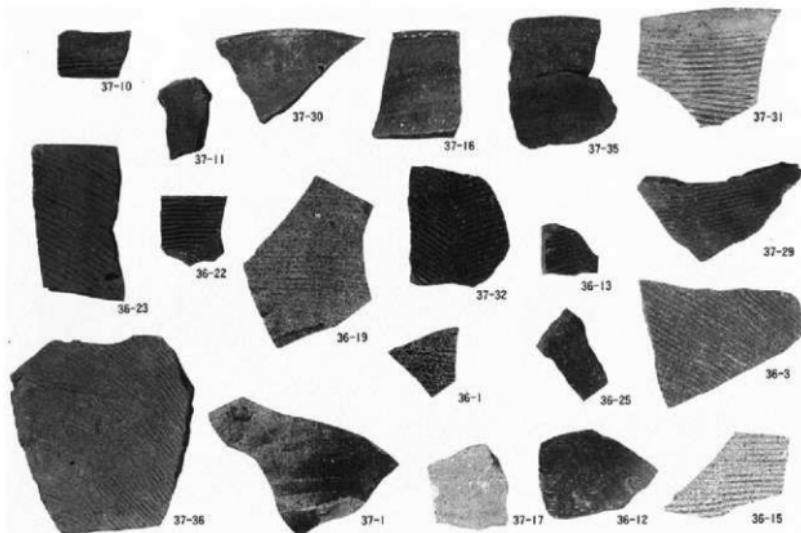


39-10

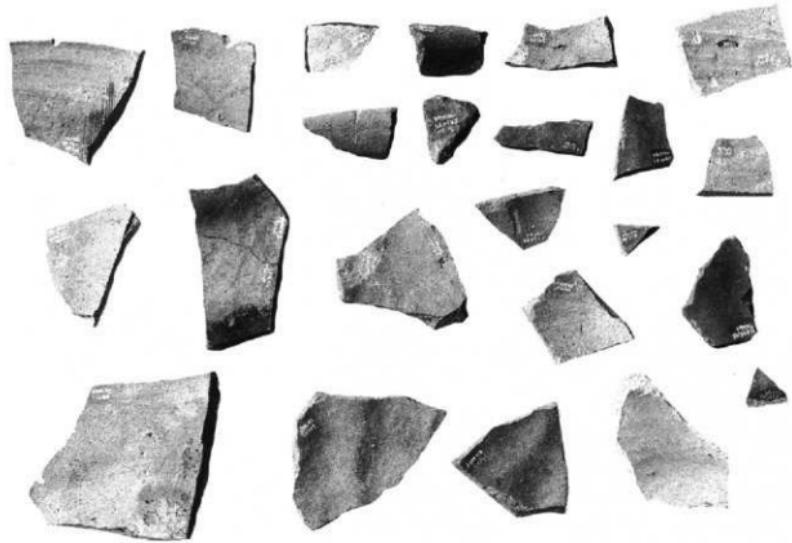
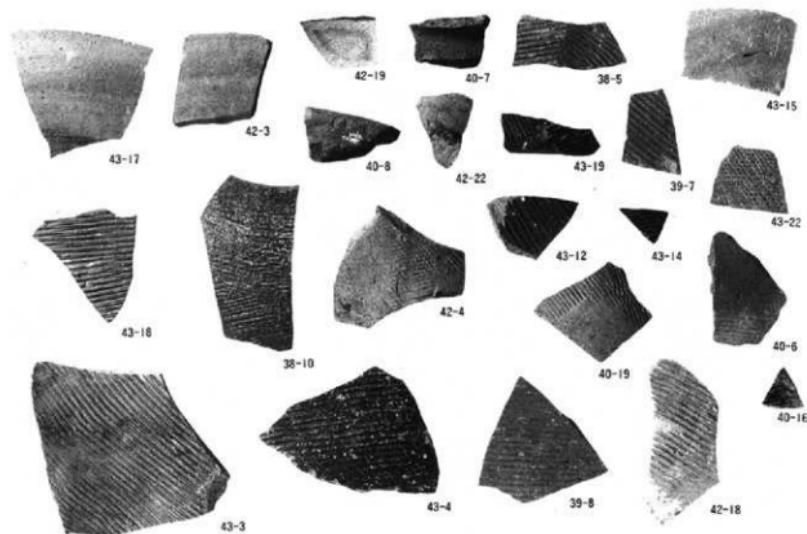


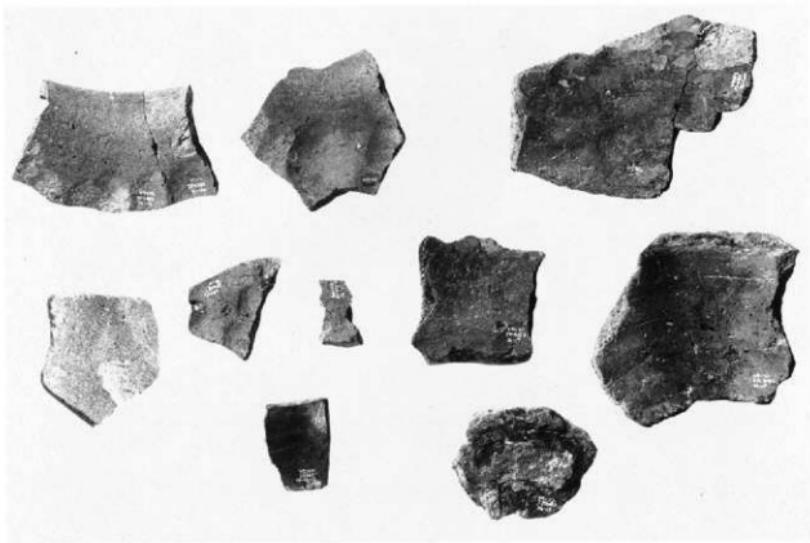
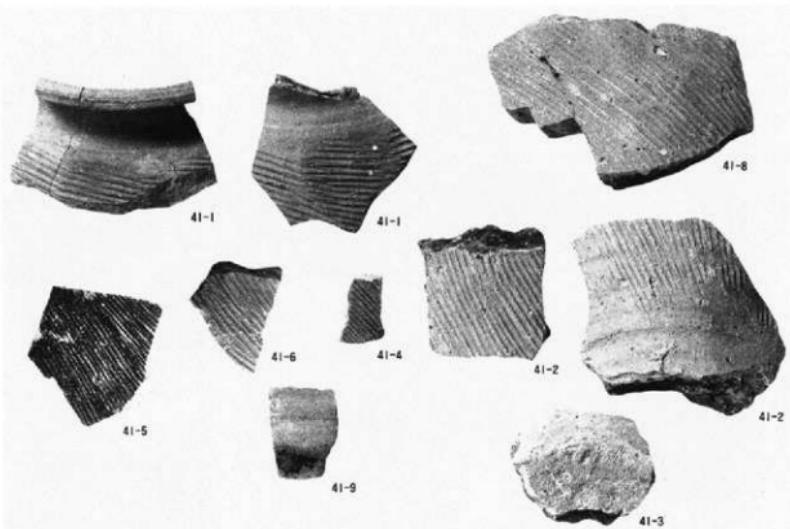
39-12

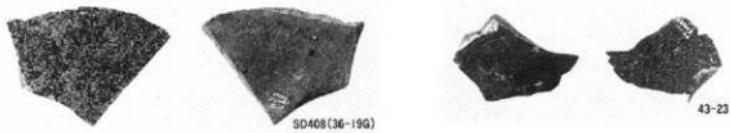
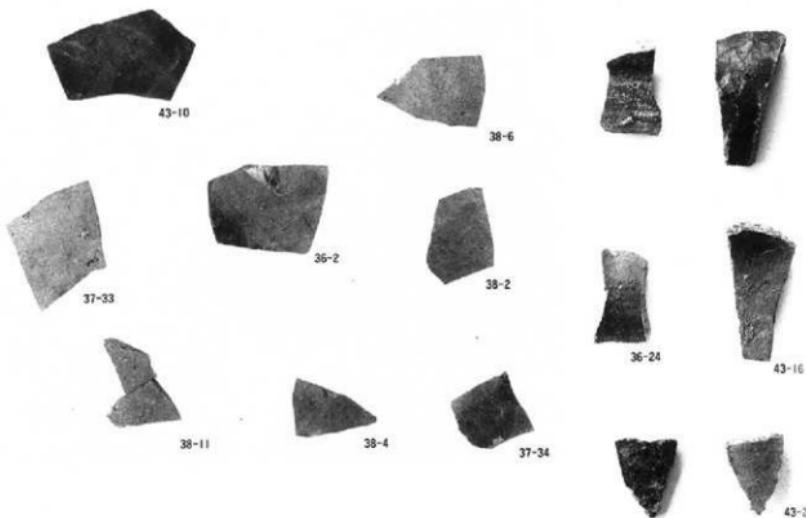


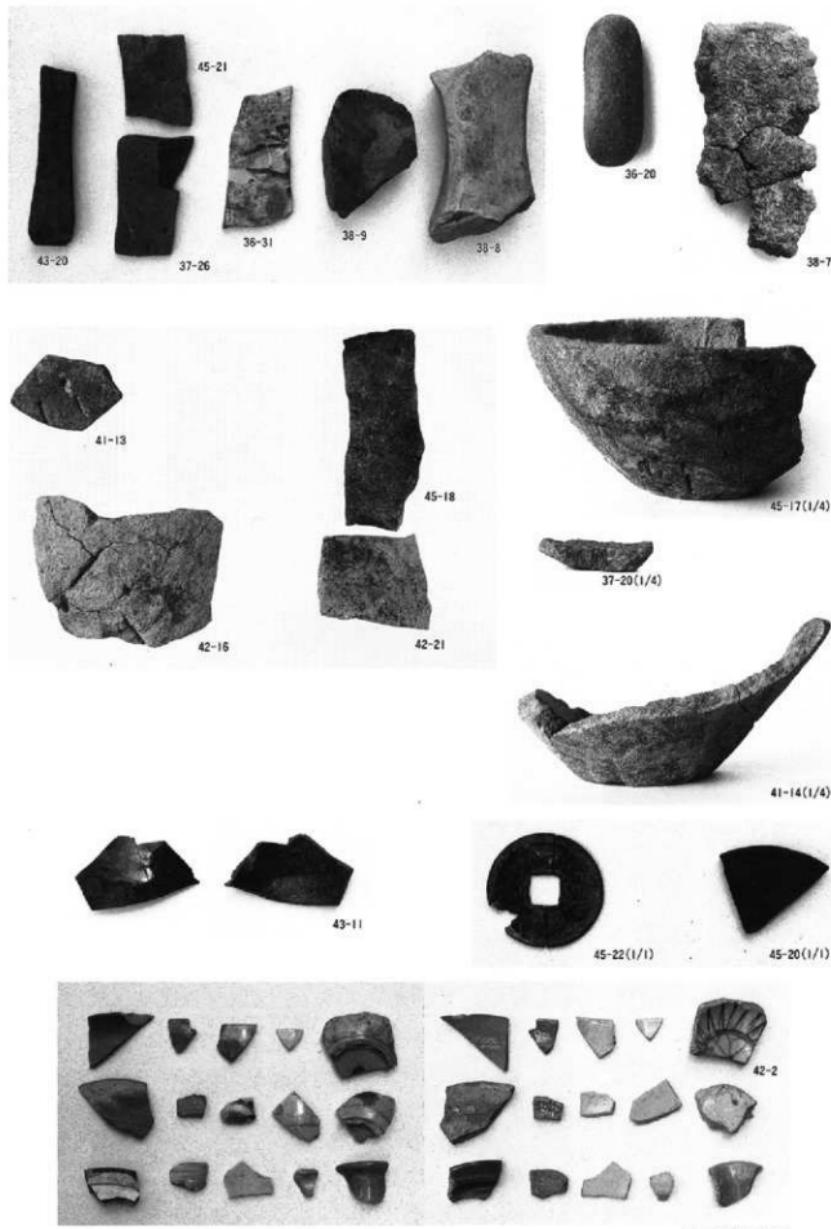


図版40









II層出土近世の遺物



46-1



46-2



46-3



46-4



46-5



46-6



46-7



46-8



46-9



46-10



46-11



47-1



47-2



47-3



47-4



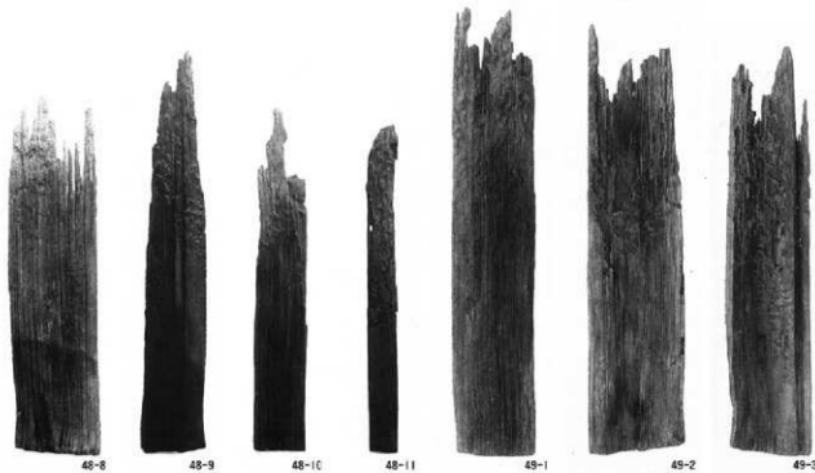
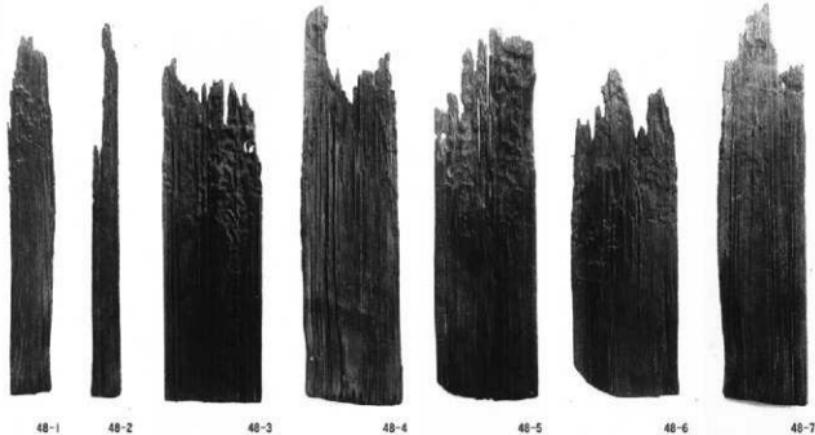
47-5

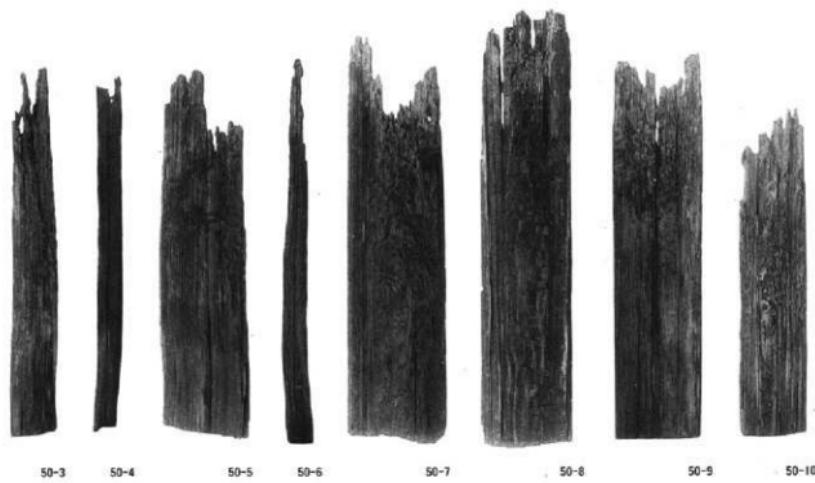
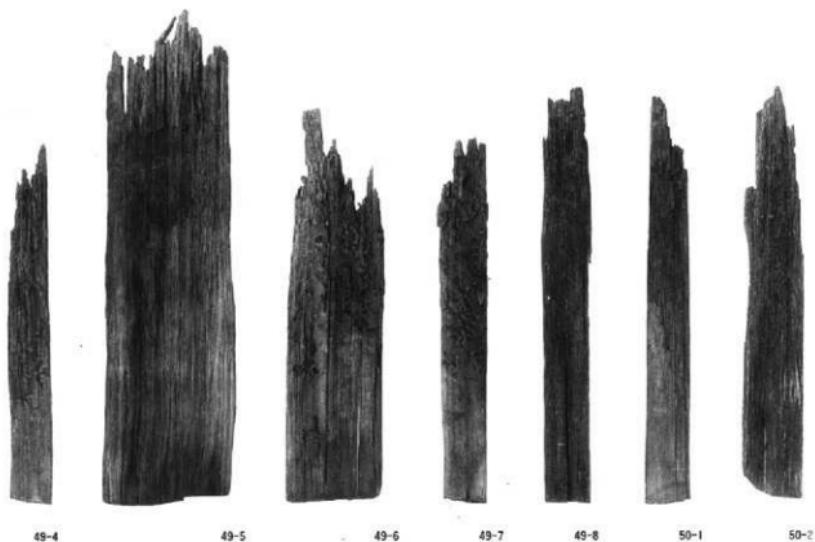


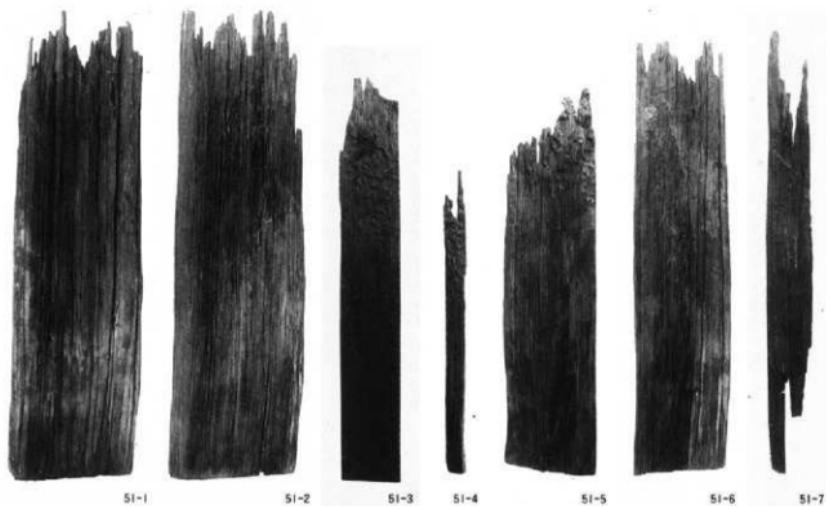
47-6



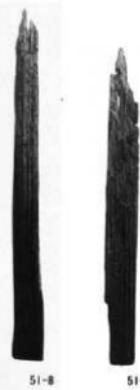
47-7



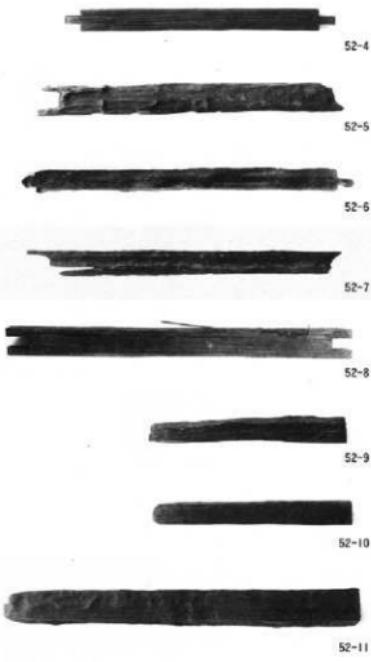




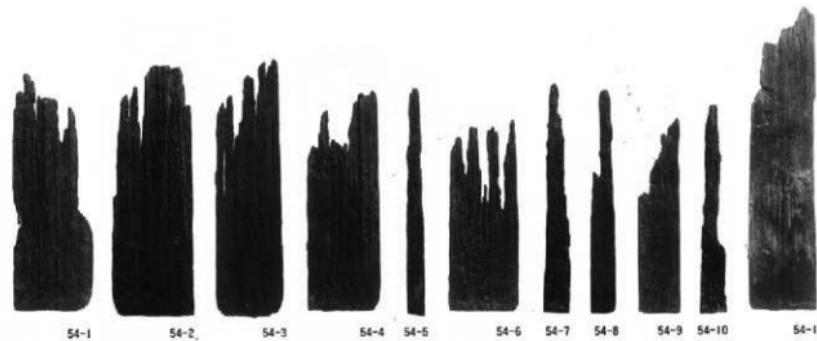
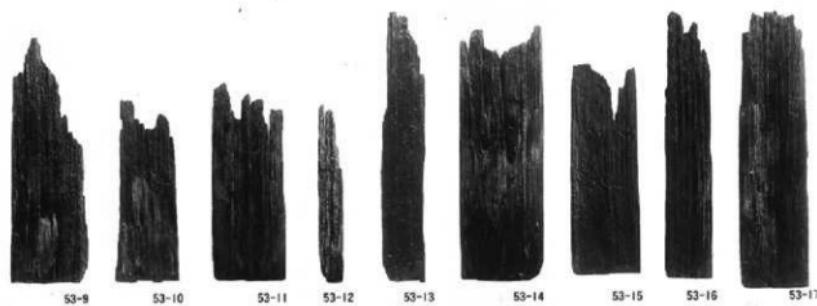
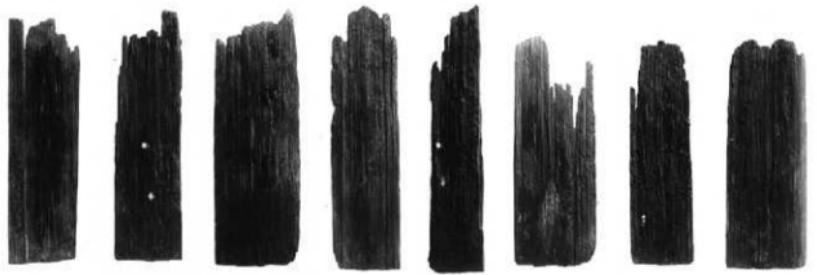
51-1 51-2 51-3 51-4 51-5 51-6 51-7

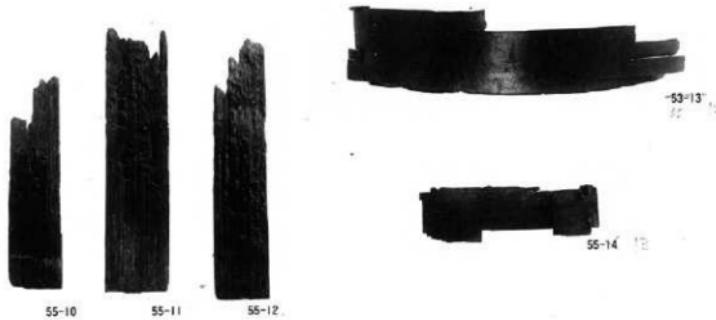
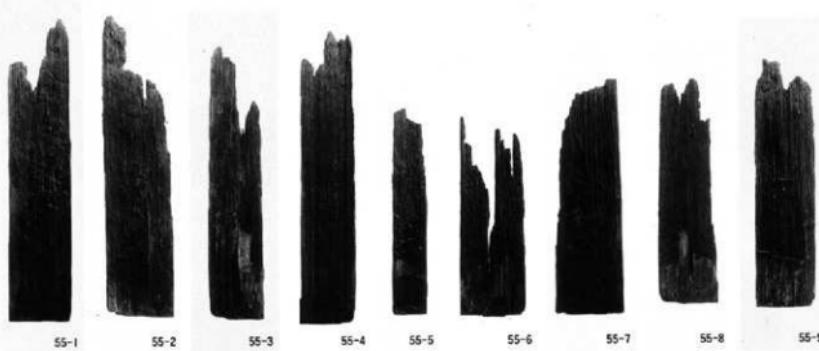
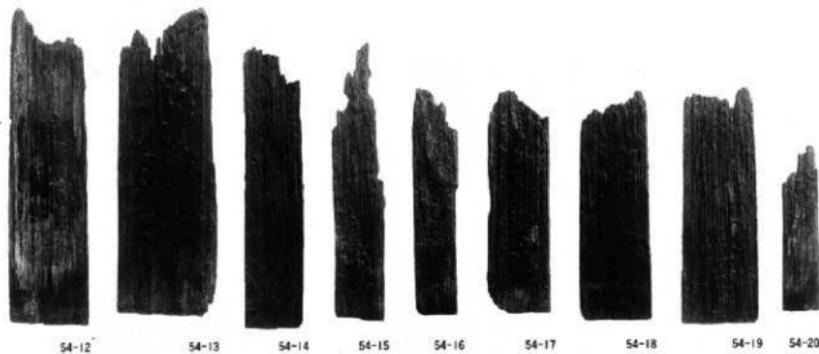


51-8 51-9



52-1 52-2 52-3 52-4 52-5 52-6 52-7 52-8 52-9 52-10 52-11





55-14



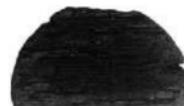
37-3

38-16



39-2

39-5



39-3

39-16



40-28

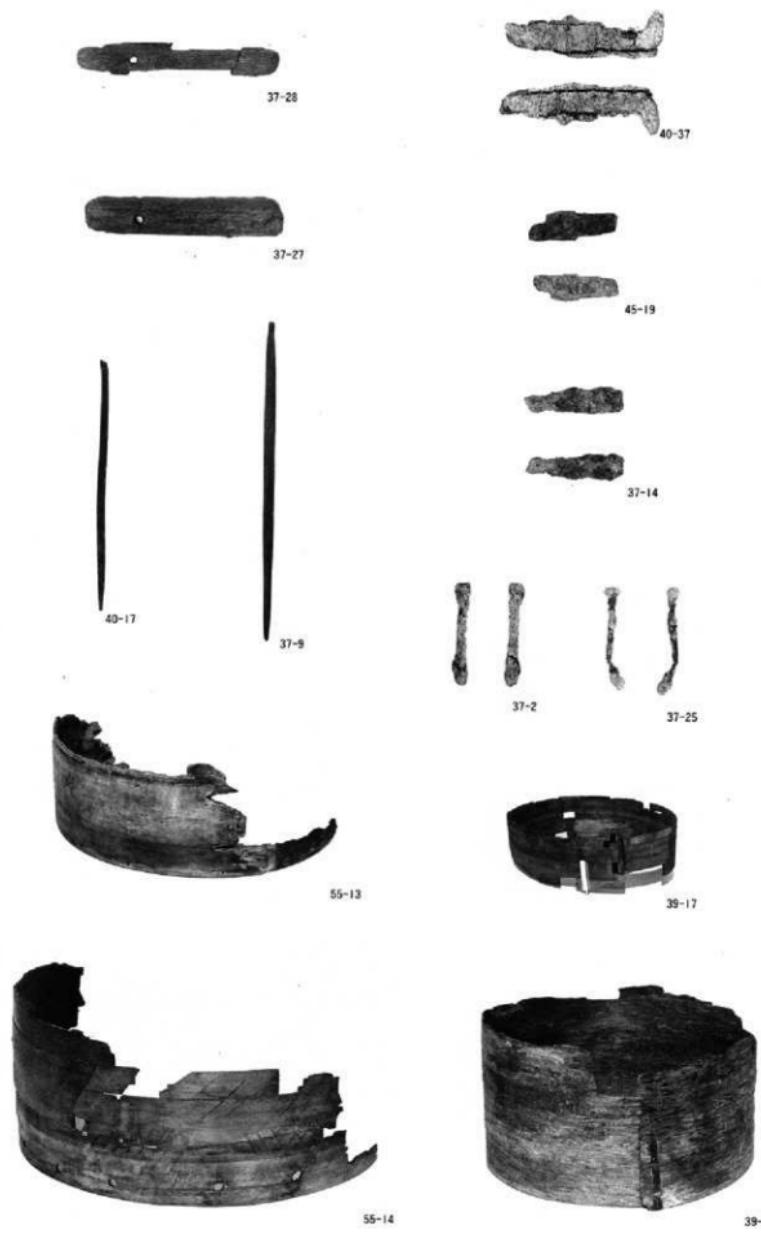


37-4



38-17

38-15



付編

はじめに

塔の腰遺跡は、出土した遺物から12世紀後半～13世紀初頭頃の集落と考えられているが、遺構に伴う遺物が非常に少ないため、遺構の年代や性格については課題とされている部分が少なくない。その中で一部の遺構には、覆土中にテフラと考えられる堆積物が認められている。本報告では、これらの堆積物について分析を行い、テフラであればテフラの同定をする。それによりテフラの噴出年代との関係から遺構の年代について考察する。

また、発掘調査により多数検出された井戸跡の井戸枠および曲物について、それらの樹種同定を行い、当時の木材利用について考察する。

I. テフラの同定

1. 試 料

試料は、SK316の覆土F 5層中に認められたレンズ状の堆積物1点とSD378の覆土F 6層およびF 7層の各層から1点ずつ採取されたブロック状またはレンズ状の堆積物の合計3点である。それぞれ順に試料番号1～3が付されている。

2. 分析方法

試料に水を加え、小型超音波洗浄装置により分散、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより泥分を除去する。得られた砂分を実体顕微鏡および偏光顕微鏡下で観察し、テフラの本質物質である絆石、スコリア、火山ガラスの産状を調べる。さらに、必要ならば火山ガラスの屈折率の測定を行う。これらの観察および測定結果からテフラの同定を行う。なお、屈折率の測定は、新井(1972)に示された浸液法に従って行う。

3. 分析結果

各試料の分析結果を表1に示す。試料番号1には多量、試料番号2には少量、試料番号3には中量の細砂～極細砂径の火山ガラスが含まれる。火山ガラスは、全て同様の特徴を示す。火山ガラスは、薄手平板状のいわゆるバブル型と気泡の長く伸びたものが集まつた纖維束型およびスポンジ状に発泡した軽石型の3形態が混在する。この中では、纖維束型と軽石型が非常に多く、バブル型は少量であった。また、どの形態の火山ガラスもほとんどは無色透明であるが、微量の褐色のものも含まれる。火山ガラスの屈折率は、n1.499～1.504であった。

4. 考 察

試料中に認められた火山ガラスは、町田ほか(1981)、Arai et.al. (1986)、町田・新井(1992)等の記載から、十和田aテフラ(T o-a:町田ほか、1981;町田・新井、1992)に由来すると考えられる。T o-aは、A.D. 915年に十和田カルデラから噴出したテフラで、東北地方一带で認められている(町田・新井、1992)。

表1 テフラ分析結果

試料番号	スコリア		火山ガラス			鉱石			
	量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調	形態	量	色調・発泡度	粒径
1	—	—	++++	cld>br	pmn>bw	—	—	—	—
2	—	—	++	cld>br	pmn>bw	—	—	—	—
3	—	—	++	cld>br	pmn>bw	—	—	—	—

++++:多量 +++:中量 ++:少量 +:微量 -:なし
cl:無色透明 br:褐色 pm:鉛石型 bw:バブル型
w:白色 g:良好

試料番号1が採取されたレンズ状堆積物は、土坑の覆土中であることと火山ガラスの多さから、降灰時に土坑覆土上に堆積したものが、ある程度の擾乱を受けたにしても、そのまま覆土中に保存されたものと考えられる。したがって、SK316土坑は、T o-a降灰以前に構築された可能性が高い。

試料番号2および3の採取された堆積物は、溝の覆土であることとテフラとは由来の異なる碎屑物(黒雲母の細片や石英粒など)が比較的多く含まれることから、T o-aの一次降下堆積物である可能性は低い。おそらく、降灰後に異なる時間間隔をもって周囲より取り込まれて溝内に堆積したものと考えられる。ただし、その場合でも、溝はT o-a降灰以前に構築された可能性が高い。

以上のことより、本遺跡ではT o-a降灰以前すなわち10世紀初頭よりも古いと考えられる遺構が存在する可能性がある。このことは、これまで遺物から推定されてきた年代よりも200年以上遡ることになる。今後、周辺の遺跡の年代ともあわせて検討する必要があろう。

II. 木材利用に関する検討

1. 試 料

試料は、井戸枠など10点(試料番号4~13)である。各試料の出土遺構・用途等の詳細は、樹種同定結果と共に表2に示した。

2. 方 法

剥刀の刃を用いて、試料の木口(横断面)・柵目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(泡水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で

木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結 果

10点の試料は、全てスギに同定された(表2)。

スギの解剖学的特徴などを以下に記す。

- ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don)

スギ科スギ属

早材部から晚材部への移行はやや急で、晚材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野孔はスギ型で2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

表2 樹種同定結果

試料番号	出土遺構	用途など	樹種名
4	SE34	井戸枠縦板	スギ
5	SE301	井戸枠横棟	スギ
6	SE303	井戸眼(油物)	スギ
7	SE304	井戸枠縦板	スギ
8	SE314	井戸枠縦板	スギ
9	SE323	井戸枠縦板	スギ
10	SE323	井戸枠横棟	スギ
11	SE350	井戸枠縦板	スギ
12	SE350	井戸眼(油物)	スギ
13	SE360	井戸枠横棟	スギ

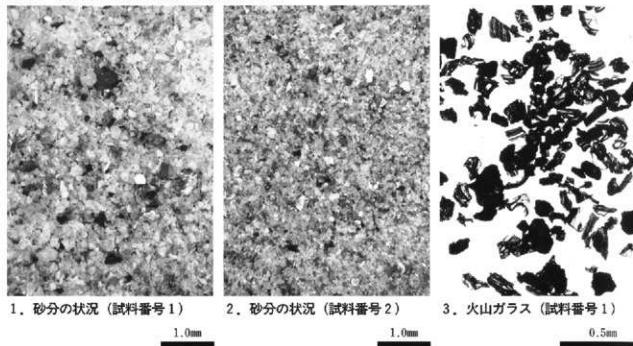
4. 考 察

井戸枠等の木材は、全てスギであった。スギは、各地の遺跡で出土した井戸枠に同定されており(島地・伊東、1988;伊東、1991)、井戸枠材として一般的な樹木であったことがうかがえる。山形県内では、遊佐町筋道遺跡、石田遺跡、木原遺跡で井戸枠の樹種同定が行われ、筋道遺跡と木原遺跡では全点がスギに同定され(未公表)、山形県内においてもスギが多用されていたことが推定される。一方、石田遺跡では井戸枠が全てクリに同定され(未公表)、スギ以外にも使用された木材があったことを示している。クリは耐朽性に優れた材質を有しており、このことが使用された背景に挙げられる。現在の植生などから、いずれの木材も周辺山地で入手可能であったと推定される。井戸枠は、周辺で入手可能な木材の中から、耐朽性・耐水性の優れたものを選択・使用したことが推定される。

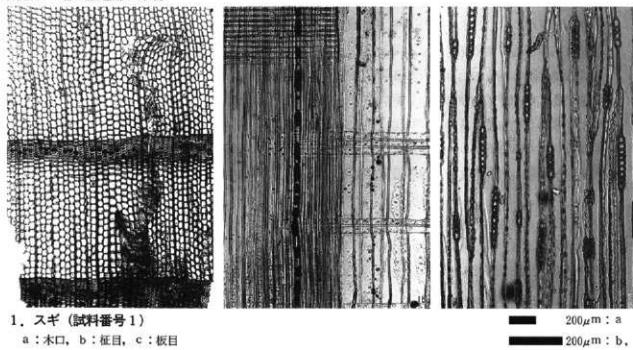
〈引用文献〉

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究一、第四紀研究、11,p.254~269.
 Arai,F., Machida,H., Okumura,K., Miyachi,T., Soda,T., and Yamagata,K. (1986) Catalog for Late Quaternary Marker-Tephras in Japan II—Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido—. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University, 21,p.223~250.
 伊東隆夫(1991)日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途II、木材研究・資料、26,p.91~189.
 町田洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」、276p.東京大学出版会。
 町田洋・新井房夫・森脇広(1981)日本海を渡ってきたテフラ、科学、51,p.562~569.
 島地謙・伊東隆夫編(1988)日本の遺跡出土木製品総覧、296p.雄山閣。

図版1 試料中の砂分の状況および火山ガラス



図版2 塔の腰遺跡・木材



山形県埋蔵文化財センター調査報告書第50集

塔の腰遺跡発掘調査報告書

1997年10月31日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 0236-72-5301

印刷 大塚印刷株式会社